

第3部 総合診療医に対する住民の意識調査

草場鉄周¹ 佐藤弘太郎¹ 加藤光樹² 神廣憲記¹ 田極春美³

要旨

約4,000名の地域住民に対するインターネット調査を通じて、専門的な教育を受けて国際標準のプライマリ・ケア機能についての質保証をされたプライマリ・ケアの専門家である総合診療専門医に対する国民の期待は、年代、居住地域、性別にかかわらず大きいことが明らかになった。また、自己判断で臓器別専門医に直接受診するよりもかかりつけ医にまず相談する診療の仕組みを希望する方が多数を占める一方で、現在のいわゆる「かかりつけ医」が、その期待にすべて応えられているわけではないことも示された。

一方、個別の健康問題によっては総合診療専門医よりも臓器別専門医への期待が強く、総合診療医像も包括的な診療能力に対する認知度は高いが、生活を基盤とした在宅医療を含む地域志向アプローチ機能についての認知度は極めて低く、国民の中に真の意味で総合診療専門医が浸透するためには診療活動の見える化に加えて積極的な広報活動が必要であることが推察される。

A. 調査の目的

総合診療医の概念は導入されてから日が浅く、住民に対する認知は十分とは言えない。一方で、高齢化に伴う複数疾患を有する患者の増加や、働き方改革の一環としての臓器別専門医から総合診療医へのタスクシフティングやタスクシェアリングが求められており、総合診療医に対する期待は高い。

本調査は、地域住民を対象にしたアンケート調査を行い、総合診療医に対する認知度や期待する役割・機能、受療意向等を把握し、総合診療医のあり方や推進策を検討する上での基礎資料を得ることを目的とする。

B. 調査の方法

本調査の総合診療医に対する住民の意識を把握するために、20～79歳の成人を対象としたインターネット調査を実施した（調査の内容は、参考資料3の調査票を参照）。調査客体数は4,000人程度を目標に、地域区分（政令指定都市及び東京23区／中核市／その他の地域）、性別（男性／女性）、年齢階

級（20～39歳／40～59歳／60～79歳）ごとに、全国の人口構成比率と同じ比率になるように調査客体数の割付を行った。

平成30年2月7日～2月9日に調査を実施し、本調査の趣旨と調査協力に同意した対象者4,128人から有効回答が得られた。

なお、本調査は、日本プライマリ・ケア連合学会における倫理審査委員会の承認を得て行ったものである。

C. 調査の結果

本調査で明らかとなった主な点は以下のとおりである¹⁾。

(1) かかりつけの医師の有無

かかりつけの医師が「いる」という人は40.3%、「いない」という人は59.7%であった。患者の年齢が高くなるほど、かかりつけの医師が「いる」という割合は高くなり、70歳以上では67.7%の人が「いる」という回答であった。かかりつけの医師がいると回答した1,662人について、そのかかりつけの医師はどの医療機関の医師かを尋ねたところ、「診療

1. 医療法人北海道家庭医療学センター

2. 医療法人豊泉会

3. 三菱UFJリサーチ&コンサルティング

1) 本調査の詳細な結果はP.35の【詳細報告】「II. 調査の結果」参照。

所の医師」が77.0%で最も多く、次いで「中小病院の医師」が10.9%、「大病院の総合診療科の医師」が7.2%、「大病院の総合診療科以外の医師」が4.5%であった。

(2) 住民が望む医療機関の受診の仕方

「どの医療機関や診療科に行くのがよいかを自分で判断して受診する仕組みがよい」という考え方と「自分のことをよく知っていて何でも相談できる、かかりつけの医師にまずは相談し、適切な医療機関・診療科を紹介してもらった仕組みがよい」という2つの考え方についてどちらが近いかを尋ねたところ、前者（「近い」「どちらかといえば近い」）は37.7%、後者（「近い」「どちらかといえば近い」）は62.4%であった。

(3) かかりつけの医師と重複受診の経験

自分や家族が、今までにどの診療科に行けばよいかかわからず、いろいろな診療科や複数の医療機関を受診した経験があるかを尋ねたところ、「よくある」が2.6%、「たまにある」が22.0%となり、両者を合わせると4人に1人が重複受診の経験が比較的高いという回答であった。この重複受診の経験については、かかりつけの医師がいる人でも、「よくある」が2.3%、「たまにある」が21.9%という結果であった。

(4) かかりつけの医師と「総合診療専門医」

本調査では、アンケートの中で、総合診療専門医の定義を「総合診療専門医は日頃よく発症する症状や病気のひとつについて診療科の垣根を越えて適切に診療するための訓練を受け、その能力を認められた専門医。看護師や薬剤師などの多職種と連携しながら、例えば、通院できない方には在宅医療、がんなどで終末期医療が必要な方には緩和ケアなど、幅広い健康問題について多様な医療を地域の必要に応じて柔軟に提供する他、地域の一般住民に対しては、健康講話などの健康を高めるための活動や、健康診断・予防接種などの予防医療を提供して地域全体が一層健康であり続けられるように貢献する医師」と説明を行った。そのうえで、かかりつけの医師がいると回答した人1,662人に対して、かかりつけの医師は上記の総合診療専門医の定義にあてはまるか尋ねたところ、「あてはまる」あるいは「どちらかといえばあてはまる」という回答が39.2%であり、約半数の人はかかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまっていないとの回答であった。また、かかりつけの医師が総合診療専門医の定義に「あてはまる」あるいは「どちらかといえばあてはまる」とする回答は、政令指定都市及び東京23

区において、その他の地域よりも低い傾向にあった(35.3% vs. 41.7%)。

(5) 状況ごとにみた、総合診療専門医に対する受診意向

複数の病気にかかった際の受診意向については、「総合診療専門医に診てほしい」あるいは「できれば総合診療専門医に診てほしい」という回答が40.2%であり、「別々の領域別専門医²⁾に診てほしい」あるいは「できれば別々の領域別専門医に診てほしい」という回答の36.6%を上回っていた。この傾向は都市部などにおいても同様であった。

特定の疾患に対しての総合診療専門医への受診意向について、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」あるいは「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が比較的高かったのは「子どもが風邪をひいた時」(50.1%)、「めまいの時」(43.3%)、「不眠や気分の落ち込みについて相談したい時」(40.3%)であった。

一方、「領域別専門医に診てほしい」、「できれば領域別専門医に診てほしい」の合計割合が比較的高かったのは、「1か月以上治らない咳が続いている時」(47.0%)、「親が認知症になって、その治療や介護の方法を相談したい時」(45.0%)、「かゆみのある発疹が出ている時」(44.1%)、「肩が痛い時」(43.1%)であった。

(6) 総合診療専門医の必要性

「何か健康問題が生じた時、年齢や性別、体の場所を問わずに、まずは診てくれる総合診療専門医」について「身近にいてほしい」が46.1%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が47.4%で両者を合わせると93.5%となった。

同様に、各総合診療専門医の特性ごとに必要性を尋ねた結果は以下のとおりである。

「受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源（福祉の専門職や患者会など）を紹介してくれる総合診療専門医」について、「身近にいてほしい」が45.1%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が47.7%で両者を合わせた割合は92.8%であった。

「若いうちから年を取るまで、継続して通院しながらその都度に自分の病気や日々のちょっとした身の上話などもしながら、気軽に相談できる総合診療

2) 「総合診療専門医」と比較する上で、本調査では、循環器内科や呼吸器科、耳鼻いんこう科、皮膚科、眼科、外科などの特定の診療科領域を専門とする医師を「領域別専門医」と標記した。

専門医]について、「身近にいてほしい」が39.8%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が47.3%で両者を合わせた割合は87.1%であった。

「自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医]について、「身近にいてほしい」が32.9%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が49.0%で両者を合わせた割合は81.9%であった。

「地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題（地理的環境、文化、医療政策、医療や介護の連携など）について関心を持って活動している総合診療専門医]について、「身近にいてほしい」が24.7%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が51.7%で両者を合わせた割合は76.4%であった。

「町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医]について、「身近にいてほしい」が18.9%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が46.8%で両者を合わせた割合は65.7%であった。

「治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医]について、「身近にいてほしい」が23.9%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が49.3%で両者を合わせた割合は73.2%であった。

(7) 総合診療専門医に期待すること

総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいかを尋ねた結果、「そう思う」が31.5%、「どちらかといえばそう思う」が43.3%、「どちらともいえない」が20.4%、「どちらかといえばそう思わない」が2.9%、「そう思わない」が1.8%であった。

また、総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うかを尋ねた結果、「そう思う」が29.4%、「どちらかといえばそう思う」が36.7%、「どちらともいえない」が26.8%、「どちらかといえばそう思わない」が4.3%、「そう思わない」が2.8%であった。

さらに、総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、領域別専門医は自分の専門領域の診療や研究・スキルの習得に専念できるので、結果的に医療の質は上がると思うかを尋ねた結果、「そう思う」が24.3%、「どちらかといえばそう思う」が40.7%、「どちらともいえない」が29.2%、「どちらかといえばそう思わない」が3.7%、「そう思わない」が2.0%であった。

D. 考察

(望ましい医療制度の仕組みとかかりつけの医師の役割)

現在、国では、かかりつけ医の推進を図っている。本調査の結果、住民の約4割、70～79歳の高齢者では3人に2人が、かかりつけの医師がいるという現状が明らかとなった。このかかりつけの医師については、「診療所の医師」が8割近くを占め、次いで「中小病院の医師」となっており、国の推進する、かかりつけ医制度の方向性と一致しているといえる。

住民に対して、望ましい医療機関の受診の仕方を尋ねた結果、「どの医療機関や診療科に行くのがよいかを自分で判断して受診する仕組みがよい」と考える人は4割で、「自分のことをよく知っていて何でも相談できる、かかりつけの医師にまずは相談し、適切な医療機関・診療科を紹介してもらう仕組みがよい」と考える人が6割と後者の方が多く、現在、かかりつけの医師がいない人でも、かかりつけの医師に相談して受診したいと考えている人が過半数を占めた。この調査結果から、何でも相談でき、適切な医療機関・診療科を紹介してくれる、かかりつけの医師に対するニーズが高いことがうかがえる。特に高齢者で、このニーズが高いことから、今後、ますますニーズが高まるものと思われる。

一方で、かかりつけの医師がいる人でも、4人に1人が重複受診の経験を持っており、現在のかかりつけの医師が患者のニーズに十分に応えられていない状況が推察される。

(総合診療医の認知度)

総合診療医の認知度については「知っている」が17.2%であり、8割近くの人がよく知らない状態であった。また、「知っている」と回答した人に「総合診療医」という言葉の最も強いイメージを尋ねると、「大きな病院でどこの診療科に行けば良いか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」という回答が36.8%であり、「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」の29.9%を上回っていた。さらに、「患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師」という回答はわずか0.8%にとどまった。

専門医制度のなかで19番目の新しい基本領域の専門医として総合診療専門医が作られることになったが、本調査の結果からは、総合診療専門医自体の認知度は決して高いとは言えず、その中でも包括的診療能力への認知度は比較的高いものの、生活を基

盤とした在宅医療を含む地域志向アプローチ機能についての認知度は非常に低く、その全体像が住民に十分に認知されていないということが言え、今後より一層の普及活動が必要と考えられる。

(かかりつけの医師と総合診療専門医)

かかりつけの医師がいると回答した人 1,662 人に対して、かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか尋ねたところ、「あてはまる」あるいは「どちらかといえばあてはまる」という回答が 39.2% であり、約半数の人はかかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまっていないとの回答であった。また、かかりつけの医師が総合診療専門医の定義に「あてはまる」あるいは「どちらかといえばあてはまる」とする回答は、政令指定都市及び東京 23 区において、その他の地域よりも低い傾向にあった (35.3% vs. 41.7%)。

新しい基本領域の専門医として総合診療専門医が新設される際に、「かかりつけ医が総合診療専門医の役割を担っているため不要な専門医ではないか」とする見方もあったと思われるが、実際のところ住民はそのように受け止めていないことがうかがえる。また、都市部ではかかりつけ医の専門分化が他の地域より進んでいる可能性があるが、これは都市部で領域別専門医が多いことや、これに伴って自分の専門分野以外の疾患を他の診療機関に紹介しやすい環境にあること等が影響していると考えられる。

(複数の病気にかかった時の総合診療専門医に対する受診意向)

複数の病気にかかった際の受診意向については、「総合診療専門医に診てほしい」あるいは「できれば総合診療専門医に診てほしい」という回答が 40.2% であり、「別々の領域別専門医に診てほしい」あるいは「できれば別々の領域別専門医に診てほしい」という回答の 36.6% を上回っていた。この傾向は都市部などにおいても同様であった。

医療の専門分化が進み、住民の専門医志向も高まっていくことを予測する声もあるが、実際には、複数の病気にかかった状態に関して言えば、都市部であったとしても、それぞれの領域別専門医に受診するよりも総合診療専門医を受診する意向が多く確認された。社会の高齢化に伴い多疾病罹患の患者が増えていくことを考えると、都市部・町村部を問わず、様々な疾病を総合的に診る総合診療専門医の需要が、住民の立場からも高まっていくと考えられる。

(特定の疾患に対しての総合診療専門医への受診意向)

特定の疾患に対しての総合診療専門医への受診意向について、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」あるいは「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が比較的高かったのは「子どもが風邪をひいた時」(50.1%)、「めまいの時」(43.3%)、「不眠や気分の落ち込みについて相談したい時」(40.3%)であった。

一方、「領域別専門医に診てほしい」、「できれば領域別専門医に診てほしい」の合計割合が比較的高かったのは、「1 か月以上治らない咳が続いている時」(47.0%)、「親が認知症になって、その治療や介護の方法を相談したい時」(45.0%)、「かゆみのある発疹が出ている時」(44.1%)、「肩が痛い時」(43.1%)であった。

子どもの風邪の診療について総合診療専門医への受診意向が比較的高いが、これはかねてより内科・小児科を標榜している開業医も少なくない状況を受けて、子どもも大人も診療するスタイルが住民に概ね受け入れられていることの表れと考えられる。

めまいの診療について総合診療専門医への受診意向が比較的高いが、これはめまいの原因が多岐に渡るため、患者側が受診すべき領域別専門医を判断することが難しいことを表している可能性がある。

不眠や気分の落ち込みについて総合診療専門医への受診意向が比較的高いが、これは従来のかかりつけ医が軽症の不眠や気分の落ち込みに対応してきた状況が考えられ、そのためこれらを領域別専門医以外が診療することについて住民は概ね受け入れているということを表している可能性がある。また、これらの疾病を診療する領域別専門医は心療内科あるいは精神科と考えられるが、これらの科に受診することで周囲から重大な精神疾患を患っていると思われ違いをされる可能性もあるため、これを避けるためにこれらの領域別専門医への受診のハードルが高くなっている可能性も考えられる。

外傷、皮疹、肩の痛み、長引く咳については、それぞれの診療を専門的に行う領域別専門医が住民にとっても明らかであり、領域別専門医への受診意向が高くなっていることが考えられる。

「親が認知症になって、その治療や介護の方法を相談したい時」の受診意向について、総合診療専門医の受診意向はそれほど高くない。年齢階級が高くなるほど「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高くなっていることから、この問題が若い世代

にとって喫緊の問題ではなく、実際に情報を検索したりする、あるいは具体的に検討したりする機会が乏しいことを表している可能性がある。社会の高齢化に伴い多疾病罹患の状態にある認知症を患う患者が増えていくことが予想される。こうした背景を踏まえると、家族や家の状況を踏まえて介護方法や介護サービス調整の相談にのりつつ、複数の疾病を総合的に診療し、通院が困難になれば在宅医療も行う総合診療専門医が認知症に関する相談に対応することについて、今後より一層の普及活動が必要と考えられる。

(総合診療医の必要性)

本研究は総合診療医のプライマリ・ケア機能に関する住民のニーズを調査した本邦で初めての大規模研究である。結果として「身近にいてほしい」「どちらかといえば身近にいてほしい」と回答した人は、ほぼどの特徴に対しても、70%を上回る結果であった。

80%以上と特にニーズが高かった特徴としては、①何か健康問題が生じた時、年齢や性別、体の場所を問わずに、まずは診てくれる総合診療医【First contact care】93.5%、②受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源（福祉専門職や患者会など）へ紹介してくれる総合診療医【Comprehensiveness + Coordination (integration) of care】92.8%、③若いうちから年を取ってまで、継続して通院しながらその都度に自分の病気や日々のちょっとした身の上話などもしながら、気軽に相談できる総合診療医【Longitudinality + Family centered】87.1%、④自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療医【Longitudinality + Cultural competence】81.9%であった。

これらはいずれもプライマリ・ケア機能を評価する項目として、B.Starfieldが主要に挙げた4つの特徴³⁾(First contact care: 医療の窓口, Longitudinality: 全人的な人間関係に基づく継続診療, Comprehensiveness: 包括的なケア, Coordination (integration) of care: ケアの調整と統合)を満たしており、Primary careを担う医師として総合診療医への期待が高いことがわかった。

一方で唯一70%以下だった特徴として、町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療医【Community

oriented】65.7%であった。同様のCommunity orientedの特徴を尋ねた別の項目である、地域で生じている健康問題について、その問題の根本原因である地域課題について関心を持って活動している総合診療医【Community oriented】が76.4%であることを考えると、「町内会での健康講話や行政へのアドバイス」という点、町内会や行政というもの自体が、本調査の住民にとっては「身近でない、あまり自分に関係がない」と感じたために低かった可能性が考えられた。以上から、Community orientedの特徴に対する総合診療医へのニーズが低いとは言い切れないと考えた。

(総合診療医に期待すること)

総合診療医の資格や医療全体に与える総合診療医の影響について住民の認識を尋ねた初めての大規模調査である。

総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいかについては、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」が74.8%であり、提供される医療に対する質保証が資格を通して成される事への期待は高いことが示されており、更に70歳以上の人では82.6%であった。医療だけにかかわらず、量的な充足よりも質的な充足を求める方向へと成熟した日本国民の意識の中で、「保険証一枚でどの医療機関にも受診できる」という医療アクセスへの質保証を越えて、日常のありふれた健康問題であっても高い質の医療を受けたいという率直な期待が示されていると考えて良いだろう。

また、総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うかについては66.1%、医療の質は上がると思うかについては65.0%と、他の項目と比べて低めであった。しかし70歳以上の人では、総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うかについては77.2%、医療の質は上がると思うかについては75.8%と高値であり、日々医療機関を利用しながら多くの検査や投薬を受けている世代では、総合診療専門医の持つ包括的ケアの意義がより現実的に認識されていると考えられる。

(調査の制約と本調査結果の評価)

本調査はインターネット調査という手法を用いた。インターネット調査に限らず、郵送調査や訪問調査においても、多かれ少なかれ調査の制約が発生するが、生活に支障のある低所得層や病弱な高齢者など、経済・健康面で厳しい状況にある住民は調査対象から外れてしまうこと、インターネット調査と

3) Primary Care: Balancing Health Needs, Services, and Technology
Barbara Starfield, Oxford University Press, 1998

いう調査手法により特に高齢者層でその傾向が強いことに留意する必要がある^{4),5)}。

なお、インターネット調査については、郵送調査等と比較して、一般に、満足度が低くなりやすい⁶⁾、医師・医療機関との関係等が希薄な回答が出やすい⁷⁾といったことが指摘されるが、本調査では、こうした中でも、総合診療専門医に対するニーズや期待が高い結果が出ていることから、他の調査手段を選択したとしても、少なくとも本調査の結果以上に、住民にとって総合診療専門医に対するニーズや期待が高いことが推察される。

(本調査結果に基づく日本における総合診療専門医の役割と期待)

以上の考察を踏まえて、従来存在しなかった専門的な教育を受けて質保証をされたプライマリ・ケアの専門家である総合診療専門医に対する総論としての期待は、年代、居住地域、性別にかかわらず大きいことが明らかになった。特に、国際標準のプライマリ・ケア機能に対する国民の期待が強いことは、日本の文化的歴史的な独自性や国民性が強調されがちな日本の医療界の中では制度推進の上で大きな意味を持つ。そして、現在のいわゆる「かかりつけ医」が、その期待にすべて応えられているわけではないことも示された。

一方、個別の健康問題によっては総合診療専門医よりも臓器別専門医への期待が強く、総合診療医像

も包括的な診療能力に対する認知度は高いが、生活を基盤とした在宅医療を含む地域志向アプローチ機能についての認知度は極めて低く、国民の中に真の意味で総合診療専門医が浸透するためには診療活動の見える化に加えて積極的な広報活動が必要であることが推察される。

現在の日本のプライマリ・ケアを支えるのはもともと臓器別専門医としてトレーニングを受けた医師も含む多様な医師集団であるのは疑いのない事実である。しかし、人口減少と世界に類を見ない超高齢化が数十年続いていく我が国の社会においては、高度先端医療を追求する医療のみならず質の高いプライマリ・ケア医療を国民の求める水準で展開すること以外に、これまで先人が築き上げてきた高い質の日本の医療を維持していくことは難しいだろう。総合診療専門医はその質の高いプライマリ・ケアを体現する医師のあり方であり、目指すべきモデルとして地域で活躍することが日本全国で期待される。本調査を通じて、その期待が医療者の一方的な期待ではなく、国民に支持される未来像であることが確認されたことは大きな意義を持ち、総合診療専門医を目指す医学生や若手医師、現に地域で活躍する総合診療医、そして総合診療医の活動を支える他の専門職、そして医療機関に対し、その方向性の正しさについて依って立つ大きな基盤を提供することになるであろう。

4) 本調査では80歳以上が含まれていないことに留意する必要があるが、70歳以上の回答者では要支援の認定を受けた人が1.1%、要介護の認定を受けた人が1.4%であった。年齢の区分が異なるが、内閣府「平成29年版高齢社会白書」によると、65～74歳では要支援が1.4%、要介護が3.0%、75歳以上では要支援が9.0%、要介護が23.5%である。

5) 日本医師会総合政策研究機構 日医総研ワーキングペーパー『第5回日本の医療に関する意識調査』（平成27年1月）p53

6) 同上

7) 例えば、日医総研の上記の調査の他、2通りの調査手法を用いて結果の比較を行っている調査研究としては、中央社会保険医療協議会『診療報酬改定結果検証調査（平成29年度調査）後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査報告書』が挙げられる。この調査では保険薬局を通じて患者に調査票を配布する調査（ただし、回収は保険薬局を通さずに調査事務局あての調査専用封筒を用いて患者から直接回収する）とインターネット調査との2通りの手法を過去2回にわたって実施している。

【詳細報告】

I. 調査の概要

1. 調査の目的

総合診療医の概念は導入されてから日が浅く、住民に対する認知は十分とは言えない。一方で、高齢化に伴う複数疾患を有する患者の増加や、働き方改革の一環としての臓器別専門医から総合診療医へのタスクシフティングやタスクシェアリングが求められており、総合診療医に対する期待は高い。

本調査は、地域住民を対象にしたアンケート調査を行い、総合診療医に対する認知度や期待する役割・機能、受診意向等を把握し、総合診療医のあり方や推進策を検討する上での基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の内容と方法

(1) 調査の内容

主な調査の内容は以下のとおりである（調査の詳細は、参考資料3の調査票を参照）。

- 基本属性等（性別、年齢、居住地、同居家族の有無、最終学歴、公的医療保険の種類、要介護度等）
- 医療機関の受診状況等（医療機関の受診頻度、かかりつけの医師の有無、かかりつけの医師の所属、医療機関の受診の仕方と理由、重複受診の経験、望ましい医療制度・仕組み）
- 総合診療医に関する認知度・イメージ（総合診療医の認知度、イメージ）
- 総合診療専門医への受診意向等（現在のかかりつけの医師が総合診療専門医の定義に該当するか、状況別の総合診療専門医の受診意向等）
- 総合診療専門医に対する今後への期待（総合診療専門医の必要性、総合診療専門医の効果等）

(2) 調査の方法

本調査は、インターネット調査とした。

調査対象は20歳以上の地域住民とし、客体数は4,000人程度とした。

調査客体の割付については、地域・性別・年齢別に日本の人口構成比に従って抽出を行った。具体的には、以下のとおりである。

- ・ 地域別（3区分）、性別（2区分）、年齢階級別（3区分）ごとに必要サンプル数を割付けた。
 - ✓ 地域区分（政令指定都市及び東京23区／中核市／その他の地域）
 - ✓ 性別（男性／女性）

✓ 年齢階級別（20～39歳／40～59歳／60～79歳）

- ・ 上記区分による18セルごとの必要サンプル数の構成は、日本の人口構成比と同率になるよう設定した。

図表 1 対象者の割付数

対象者条件			人口構成比	目標サンプル数
政令指定都市 及び東京23区	男性	20-39歳	4.9%	196
		40-59歳	5.4%	217
		60-79歳	4.2%	168
	女性	20-39歳	4.9%	195
		40-59歳	5.4%	215
		60-79歳	4.7%	188
中核市	男性	20-39歳	2.2%	88
		40-59歳	2.6%	105
		60-79歳	2.4%	95
	女性	20-39歳	2.2%	87
		40-59歳	2.7%	108
		60-79歳	2.7%	108
その他	男性	20-39歳	8.0%	321
		40-59歳	10.0%	400
		60-79歳	9.6%	384
	女性	20-39歳	7.6%	306
		40-59歳	9.9%	396
		60-79歳	10.6%	423
合計				4,000

3. 調査実施時期

本調査は平成30年2月7日（水）～平成30年2月9日（金）に実施した。

4. 有効回答数

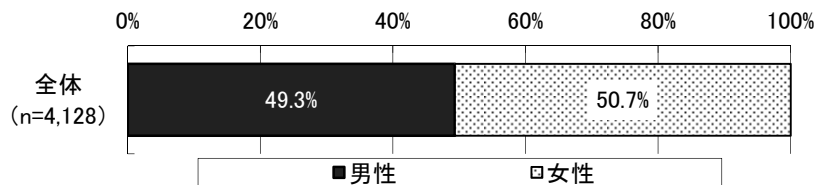
4,128人分の有効回答を得られた。

II. 調査の結果

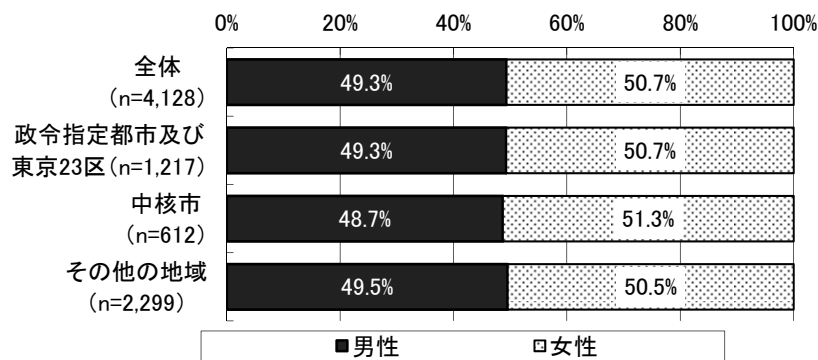
1. 回答者の基本属性等

①性別

図表 2 性別

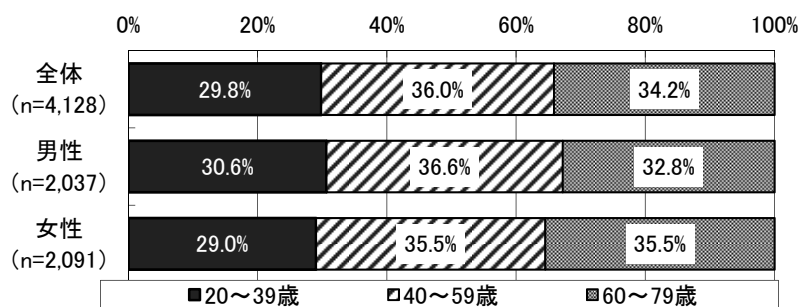


図表 3 性別（地域区分別）



②年齢

図表 4 年齢階級別分布（男女別）

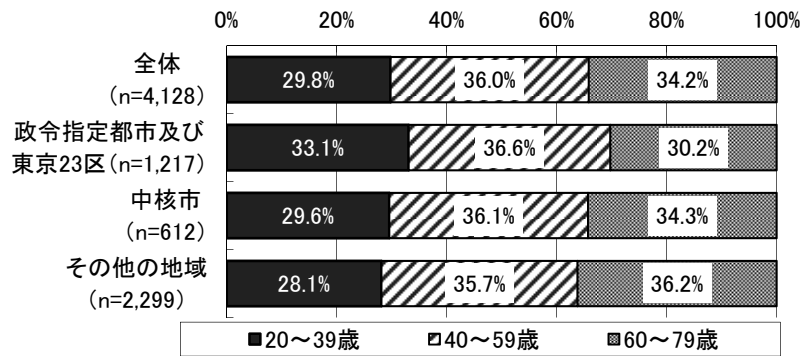


図表 5 年齢（男女別）

(単位：歳)

	回答者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	4,128	49.5	14.8	49.0
男性	2,037	49.8	14.7	49.0
女性	2,091	49.3	14.9	49.0

図表 6 年齢階級別分布（地域区分別）



図表 7 年齢（地域区分別）

（単位：歳）

	回答者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	4,128	49.5	14.8	49.0
政令指定都市及び東京 23 区	1,217	48.2	14.6	47.0
中核市	612	49.6	15.1	49.0
その他の地域	2,299	50.2	14.8	50.0

③居住地

図表 8 居住地（地域区分）（男女別・年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	政令指定都市及び東京23区	中核市	その他の地域
全体	4,128	1,217	612	2,299
	100.0	29.5	14.8	55.7
男性	2,037	600	298	1,139
	100.0	29.5	14.6	55.9
女性	2,091	617	314	1,160
	100.0	29.5	15.0	55.5
20~29歳	405	133	65	207
	100.0	32.8	16.0	51.1
30~39歳	826	270	116	440
	100.0	32.7	14.0	53.3
40~49歳	881	266	135	480
	100.0	30.2	15.3	54.5
50~59歳	606	180	86	340
	100.0	29.7	14.2	56.1
60~69歳	1,054	278	158	618
	100.0	26.4	15.0	58.6
70歳以上	356	90	52	214
	100.0	25.3	14.6	60.1

図表 9 居住地（地方ブロック）（男女別・年齢階級別・地域区分別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
全体	4,128	192	226	1,497	742	808	220	107	336
	100.0	4.7	5.5	36.3	18.0	19.6	5.3	2.6	8.1
男性	2,037	84	105	755	387	390	102	59	155
	100.0	4.1	5.2	37.1	19.0	19.1	5.0	2.9	7.6
女性	2,091	108	121	742	355	418	118	48	181
	100.0	5.2	5.8	35.5	17.0	20.0	5.6	2.3	8.7
20～29歳	405	17	30	133	70	84	24	6	41
	100.0	4.2	7.4	32.8	17.3	20.7	5.9	1.5	10.1
30～39歳	826	36	50	276	165	153	41	25	80
	100.0	4.4	6.1	33.4	20.0	18.5	5.0	3.0	9.7
40～49歳	881	42	47	320	175	158	48	23	68
	100.0	4.8	5.3	36.3	19.9	17.9	5.4	2.6	7.7
50～59歳	606	28	36	223	106	129	30	17	37
	100.0	4.6	5.9	36.8	17.5	21.3	5.0	2.8	6.1
60～69歳	1,054	51	48	399	163	225	60	28	80
	100.0	4.8	4.6	37.9	15.5	21.3	5.7	2.7	7.6
70歳以上	356	18	15	146	63	59	17	8	30
	100.0	5.1	4.2	41.0	17.7	16.6	4.8	2.2	8.4
政令指定都市及び東京23区	1,217	77	34	567	151	243	60	0	85
	100.0	6.3	2.8	46.6	12.4	20.0	4.9	0.0	7.0
中核市	612	20	46	121	88	172	42	39	84
	100.0	3.3	7.5	19.8	14.4	28.1	6.9	6.4	13.7
その他の地域	2,299	95	146	809	503	393	118	68	167
	100.0	4.1	6.4	35.2	21.9	17.1	5.1	3.0	7.3

④同居家族の状況

図表 10 同居家族の状況（男女別・年齢階級別・地域区分別）（複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	配偶者	親	子	祖父・祖母	孫	その他	同居している家族はいない
全体	4,128	2,752	832	1,734	85	58	194	613
	100.0	66.7	20.2	42.0	2.1	1.4	4.7	14.8
男性	2,037	1,349	443	803	37	24	79	347
	100.0	66.2	21.7	39.4	1.8	1.2	3.9	17.0
女性	2,091	1,403	389	931	48	34	115	266
	100.0	67.1	18.6	44.5	2.3	1.6	5.5	12.7
20～29歳	405	126	175	97	48	1	57	92
	100.0	31.1	43.2	24.0	11.9	0.2	14.1	22.7
30～39歳	826	516	232	428	25	0	54	112
	100.0	62.5	28.1	51.8	3.0	0.0	6.5	13.6
40～49歳	881	575	202	492	7	0	35	123
	100.0	65.3	22.9	55.8	0.8	0.0	4.0	14.0
50～59歳	606	431	116	290	4	9	14	89
	100.0	71.1	19.1	47.9	0.7	1.5	2.3	14.7
60～69歳	1,054	824	97	348	0	30	28	144
	100.0	78.2	9.2	33.0	0.0	2.8	2.7	13.7
70歳以上	356	280	10	79	1	18	6	53
	100.0	78.7	2.8	22.2	0.3	5.1	1.7	14.9
政令指定都市及び東京23区	1,217	741	205	456	18	12	59	269
	100.0	60.9	16.8	37.5	1.5	1.0	4.8	22.1
中核市	612	422	114	268	11	14	23	74
	100.0	69.0	18.6	43.8	1.8	2.3	3.8	12.1
その他の地域	2,299	1,589	513	1,010	56	32	112	270
	100.0	69.1	22.3	43.9	2.4	1.4	4.9	11.7

図表 11 同居している15歳以下の子どもの有無（同居家族のいる人）
（男女別・年齢階級別・地域区分別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	あり	なし
全体	1,734	986	748
	100.0	56.9	43.1
男性	803	460	343
	100.0	57.3	42.7
女性	931	526	405
	100.0	56.5	43.5
20～29歳	97	90	7
	100.0	92.8	7.2
30～39歳	428	415	13
	100.0	97.0	3.0
40～49歳	492	388	104
	100.0	78.9	21.1
50～59歳	290	61	229
	100.0	21.0	79.0
60～69歳	348	24	324
	100.0	6.9	93.1
70歳以上	79	8	71
	100.0	10.1	89.9
政令指定都市及び東京23区	456	272	184
	100.0	59.6	40.4
中核市	268	148	120
	100.0	55.2	44.8
その他の地域	1,010	566	444
	100.0	56.0	44.0

⑤最終学歴

図表 12 最終学歴（男女別・年齢階級別・地域区分別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	中学(旧制小・高小)	高校(旧制中学)	専門学校	高専・短大	大学・大学院	その他
全体	4,128	113	1,197	478	497	1,805	38
	100.0	2.7	29.0	11.6	12.0	43.7	0.9
男性	2,037	65	506	205	80	1,162	19
	100.0	3.2	24.8	10.1	3.9	57.0	0.9
女性	2,091	48	691	273	417	643	19
	100.0	2.3	33.0	13.1	19.9	30.8	0.9
20～29歳	405	8	115	42	29	205	6
	100.0	2.0	28.4	10.4	7.2	50.6	1.5
30～39歳	826	32	165	127	70	427	5
	100.0	3.9	20.0	15.4	8.5	51.7	0.6
40～49歳	881	26	243	143	122	334	13
	100.0	3.0	27.6	16.2	13.8	37.9	1.5
50～59歳	606	17	172	72	93	246	6
	100.0	2.8	28.4	11.9	15.3	40.6	1.0
60～69歳	1,054	16	368	70	153	441	6
	100.0	1.5	34.9	6.6	14.5	41.8	0.6
70歳以上	356	14	134	24	30	152	2
	100.0	3.9	37.6	6.7	8.4	42.7	0.6
政令指定都市及び東京23区	1,217	28	268	131	136	646	8
	100.0	2.3	22.0	10.8	11.2	53.1	0.7
中核市	612	16	184	72	85	252	3
	100.0	2.6	30.1	11.8	13.9	41.2	0.5
その他の地域	2,299	69	745	275	276	907	27
	100.0	3.0	32.4	12.0	12.0	39.5	1.2

⑥ 公的医療保険の種類

図表 13 公的医療保険の種類（男女別・年齢階級別・地域区分別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	社会保険	国民健康保険	後期高齢者 医療広域連 合	生活保護	その他
全体	4,128 100.0	2,559 62.0	1,460 35.4	66 1.6	27 0.7	16 0.4
男性	2,037 100.0	1,269 62.3	708 34.8	37 1.8	17 0.8	6 0.3
女性	2,091 100.0	1,290 61.7	752 36.0	29 1.4	10 0.5	10 0.5
20～29歳	405 100.0	293 72.3	101 24.9	0 0.0	4 1.0	7 1.7
30～39歳	826 100.0	660 79.9	163 19.7	0 0.0	1 0.1	2 0.2
40～49歳	881 100.0	668 75.8	203 23.0	0 0.0	6 0.7	4 0.5
50～59歳	606 100.0	460 75.9	139 22.9	0 0.0	7 1.2	0 0.0
60～69歳	1,054 100.0	429 40.7	607 57.6	7 0.7	8 0.8	3 0.3
70歳以上	356 100.0	49 13.8	247 69.4	59 16.6	1 0.3	0 0.0
政令指定都市及 び東京23区	1,217 100.0	773 63.5	421 34.6	8 0.7	8 0.7	7 0.6
中核市	612 100.0	384 62.7	209 34.2	14 2.3	3 0.5	2 0.3
その他の地域	2,299 100.0	1,402 61.0	830 36.1	44 1.9	16 0.7	7 0.3

⑦ 公的介護保険利用の有無等

図表 14 公的介護保険利用の有無等（男女別・年齢階級別・地域区分別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	利用してい ない	要支援1・要 支援2	要介護1・要 介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	4,128 100.0	4,087 99.0	15 0.4	12 0.3	5 0.1	6 0.1	3 0.1
男性	2,037 100.0	2,011 98.7	10 0.5	6 0.3	4 0.2	4 0.2	2 0.1
女性	2,091 100.0	2,076 99.3	5 0.2	6 0.3	1 0.0	2 0.1	1 0.0
20～29歳	405 100.0	405 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30～39歳	826 100.0	826 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～49歳	881 100.0	877 99.5	2 0.2	2 0.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
50～59歳	606 100.0	595 98.2	3 0.5	4 0.7	2 0.3	2 0.3	0 0.0
60～69歳	1,054 100.0	1,037 98.4	6 0.6	5 0.5	2 0.2	3 0.3	1 0.1
70歳以上	356 100.0	347 97.5	4 1.1	1 0.3	1 0.3	1 0.3	2 0.6
政令指定都市及 び東京23区	1,217 100.0	1,209 99.3	5 0.4	2 0.2	1 0.1	0 0.0	0 0.0
中核市	612 100.0	607 99.2	1 0.2	2 0.3	1 0.2	1 0.2	0 0.0
その他の地域	2,299 100.0	2,271 98.8	9 0.4	8 0.3	3 0.1	5 0.2	3 0.1

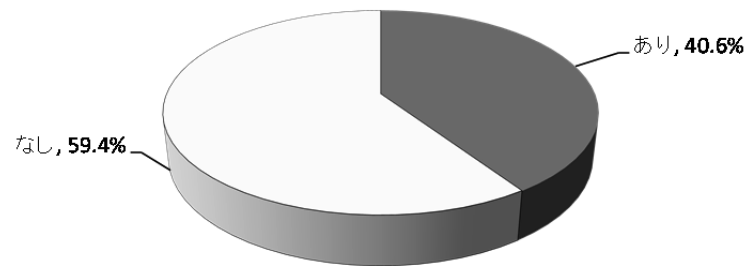
2. 医療機関の受診状況等

(1) 医療機関の受診頻度等

①定期的に医療機関に受診している傷病の有無

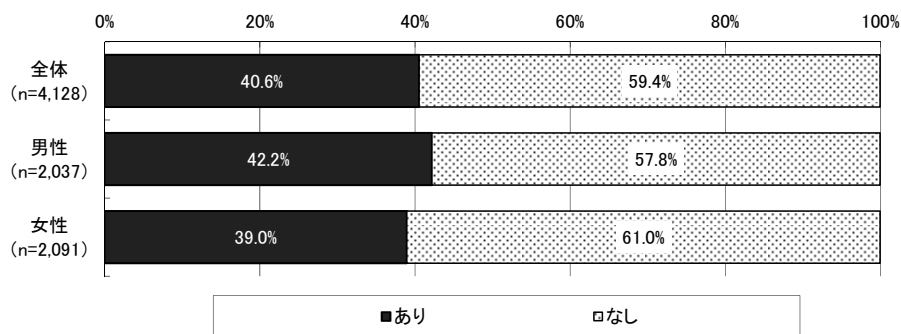
定期的に医療機関に受診している傷病の有無をみると、「あり」が40.6%、「なし」が59.4%であった。

図表 15 定期的に医療機関に受診している傷病の有無 (n=4,128)



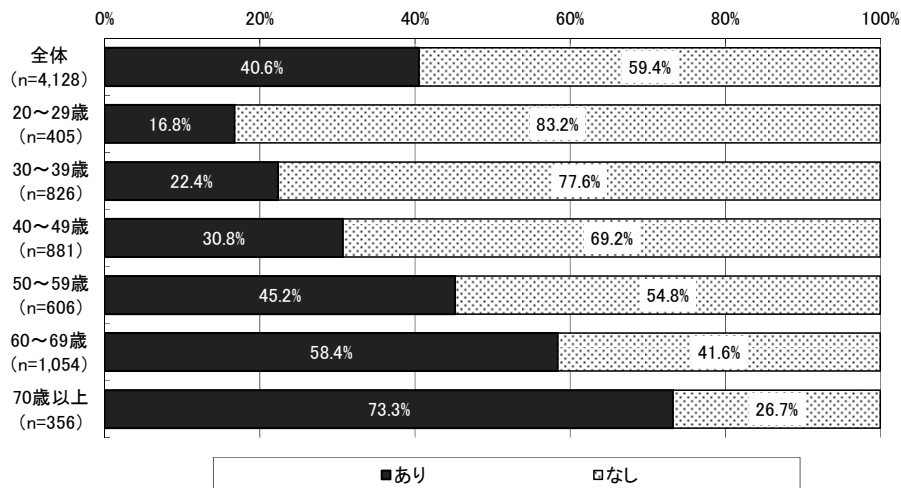
男女別にみると、男性の方が女性よりも「あり」の割合が3.2ポイント高かった。

図表 16 定期的に医療機関に受診している傷病の有無 (男女別)



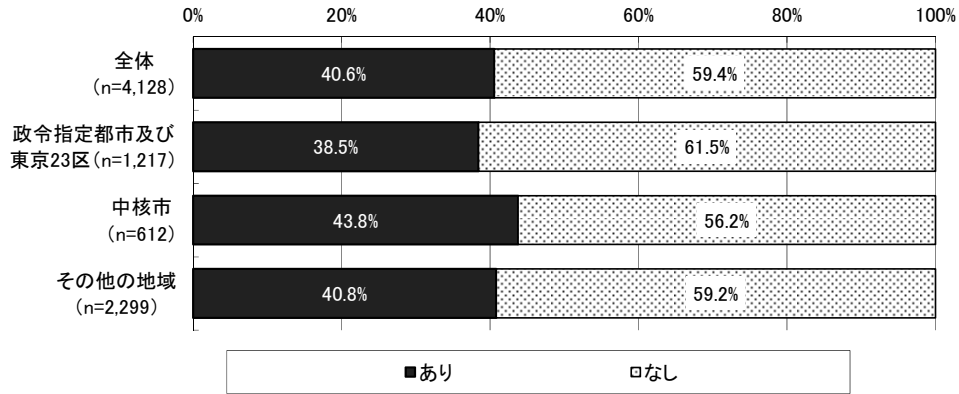
年齢階級別にみると、年齢階級が高いほど「あり」の割合が高くなった。

図表 17 定期的に医療機関に受診している傷病の有無 (年齢階級別)



地域区別にみると、「あり」の割合は、政令指定都市及び東京 23 区では 38.5%と他の地域と比較して低く、中核市では 43.8%と他の地域と比較して高かった。

図表 18 定期的に医療機関に受診している傷病の有無（地域区分別）

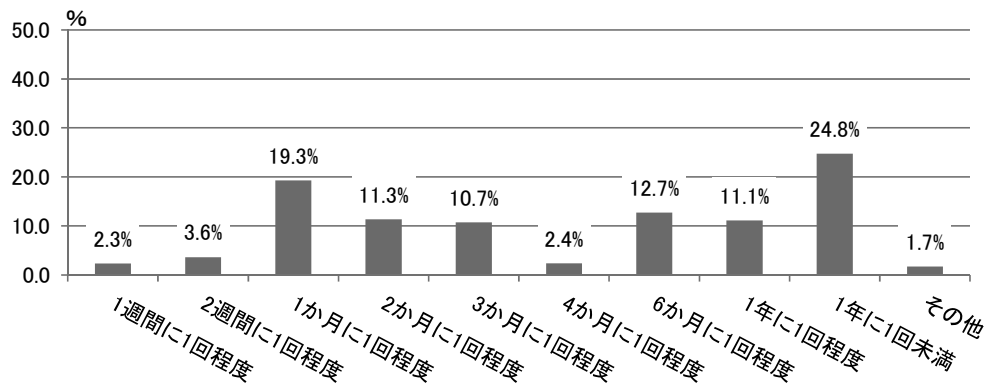


②医療機関の受診頻度

1) 本人

回答者本人の医療機関の受診頻度をみると、「1年に1回未満」が24.8%で最も多く、次いで「1か月に1回程度」(19.3%)、「6か月に1回程度」(12.7%)であった。

図表 19 医療機関の受診頻度 (n=4, 128)



図表 20 医療機関の受診頻度（男女別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1週間に1回程度	2週間に1回程度	1か月に1回程度	2か月に1回程度	3か月に1回程度	4か月に1回程度	6か月に1回程度	1年に1回程度	1年に1回未満	その他
全体	4,128	95	149	797	468	443	98	526	459	1,022	71
	100.0	2.3	3.6	19.3	11.3	10.7	2.4	12.7	11.1	24.8	1.7
男性	2,037	44	76	421	227	220	50	223	212	535	29
	100.0	2.2	3.7	20.7	11.1	10.8	2.5	10.9	10.4	26.3	1.4
女性	2,091	51	73	376	241	223	48	303	247	487	42
	100.0	2.4	3.5	18.0	11.5	10.7	2.3	14.5	11.8	23.3	2.0

図表 21 医療機関の受診頻度（年齢階級別）

（単位：上段「人」、下段「％」）

	総数	1週間に1 回程度	2週間に1 回程度	1か月に1 回程度	2か月に1 回程度	3か月に1 回程度	4か月に1 回程度	6か月に1 回程度	1年に1回 程度	1年に1回 未済	その他
全体	4,128 100.0	95 2.3	149 3.6	797 19.3	468 11.3	443 10.7	98 2.4	526 12.7	459 11.1	1,022 24.8	71 1.7
20～29歳	405 100.0	11 2.7	14 3.5	32 7.9	35 8.6	56 13.8	15 3.7	72 17.8	52 12.8	117 28.9	1 0.2
30～39歳	826 100.0	17 2.1	29 3.5	97 11.7	61 7.4	83 10.0	32 3.9	159 19.2	124 15.0	217 26.3	7 0.8
40～49歳	881 100.0	15 1.7	33 3.7	129 14.6	72 8.2	73 8.3	24 2.7	128 14.5	123 14.0	271 30.8	13 1.5
50～59歳	606 100.0	18 3.0	23 3.8	122 20.1	66 10.9	61 10.1	16 2.6	68 11.2	57 9.4	163 26.9	12 2.0
60～69歳	1,054 100.0	21 2.0	34 3.2	287 27.2	163 15.5	125 11.9	8 0.8	81 7.7	88 8.3	217 20.6	30 2.8
70歳以上	356 100.0	13 3.7	16 4.5	130 36.5	71 19.9	45 12.6	3 0.8	18 5.1	15 4.2	37 10.4	8 2.2

図表 22 医療機関の受診頻度（地域区分別）

（単位：上段「人」、下段「％」）

	総数	1週間に1 回程度	2週間に1 回程度	1か月に1 回程度	2か月に1 回程度	3か月に1 回程度	4か月に1 回程度	6か月に1 回程度	1年に1回 程度	1年に1回 未済	その他
全体	4,128 100.0	95 2.3	149 3.6	797 19.3	468 11.3	443 10.7	98 2.4	526 12.7	459 11.1	1,022 24.8	71 1.7
政令指定都市 及び東京23区	1,217 100.0	26 2.1	43 3.5	225 18.5	148 12.2	129 10.6	31 2.5	169 13.9	142 11.7	285 23.4	19 1.6
中核市	612 100.0	14 2.3	24 3.9	121 19.8	76 12.4	63 10.3	9 1.5	66 10.8	72 11.8	159 26.0	8 1.3
その他の地域	2,299 100.0	55 2.4	82 3.6	451 19.6	244 10.6	251 10.9	58 2.5	291 12.7	245 10.7	578 25.1	44 1.9

定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、定期的に医療機関に受診している傷病がある人では「1か月に1回程度」が42.7%で最も多く、これに「1週間に1回程度」「2週間に1回程度」を合わせると55.0%と過半数となる。

図表 23 医療機関の受診頻度（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）

（単位：上段「人」、下段「％」）

	総数	1週間に1 回程度	2週間に1 回程度	1か月に1 回程度	2か月に1 回程度	3か月に1 回程度	4か月に1 回程度	6か月に1 回程度	1年に1回 程度	1年に1回 未済	その他
全体	4,128 100.0	95 2.3	149 3.6	797 19.3	468 11.3	443 10.7	98 2.4	526 12.7	459 11.1	1,022 24.8	71 1.7
あり	1,675 100.0	80 4.8	126 7.5	715 42.7	367 21.9	237 14.1	20 1.2	68 4.1	29 1.7	19 1.1	14 0.8
なし	2,453 100.0	15 0.6	23 0.9	82 3.3	101 4.1	206 8.4	78 3.2	458 18.7	430 17.5	1,003 40.9	57 2.3

2) 家族等の付添による受診頻度

図表 24 家族等の付添による医療機関の受診頻度（男女別・年齢階級別・地域区分別）
 （単位：上段「人」、下段「%」）

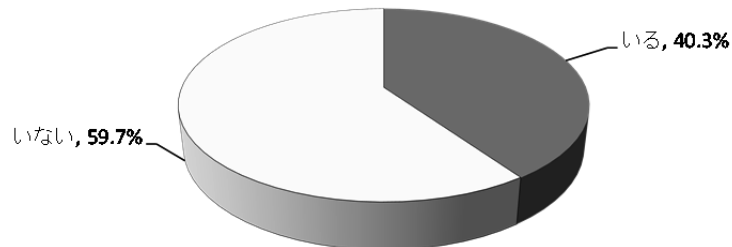
	総数	1週間に1 回程度	2週間に1 回程度	1か月に1 回程度	2か月に1 回程度	3か月に1 回程度	4か月に1 回程度	6か月に1 回程度	1年に1回 程度	1年に1回 未満	その他
全体	4,128 100.0	66 1.6	118 2.9	404 9.8	179 4.3	233 5.6	69 1.7	226 5.5	214 5.2	1,929 46.7	690 16.7
男性	2,037 100.0	32 1.6	54 2.7	168 8.2	82 4.0	105 5.2	24 1.2	109 5.4	124 6.1	1,046 51.4	293 14.4
女性	2,091 100.0	34 1.6	64 3.1	236 11.3	97 4.6	128 6.1	45 2.2	117 5.6	90 4.3	883 42.2	397 19.0
20～29歳	405 100.0	6 1.5	14 3.5	28 6.9	16 4.0	24 5.9	8 2.0	22 5.4	18 4.4	246 60.7	23 5.7
30～39歳	826 100.0	13 1.6	24 2.9	105 12.7	55 6.7	68 8.2	30 3.6	50 6.1	50 6.1	385 46.6	46 5.6
40～49歳	881 100.0	9 1.0	23 2.6	79 9.0	41 4.7	57 6.5	23 2.6	75 8.5	69 7.8	411 46.7	94 10.7
50～59歳	606 100.0	14 2.3	20 3.3	61 10.1	9 1.5	21 3.5	7 1.2	30 5.0	27 4.5	338 55.8	79 13.0
60～69歳	1,054 100.0	18 1.7	27 2.6	99 9.4	47 4.5	47 4.5	1 0.1	39 3.7	37 3.5	438 41.6	301 28.6
70歳以上	356 100.0	6 1.7	10 2.8	32 9.0	11 3.1	16 4.5	0 0.0	10 2.8	13 3.7	111 31.2	147 41.3
政令指定都市及び 東京23区	1,217 100.0	19 1.6	24 2.0	111 9.1	55 4.5	59 4.8	21 1.7	65 5.3	66 5.4	600 49.3	197 16.2
中核市	612 100.0	6 1.0	27 4.4	49 8.0	27 4.4	27 4.4	10 1.6	40 6.5	30 4.9	290 47.4	106 17.3
その他の地域	2,299 100.0	41 1.8	67 2.9	244 10.6	97 4.2	147 6.4	38 1.7	121 5.3	118 5.1	1,039 45.2	387 16.8

(2) かかりつけの医師の状況等

① かかりつけの医師の有無

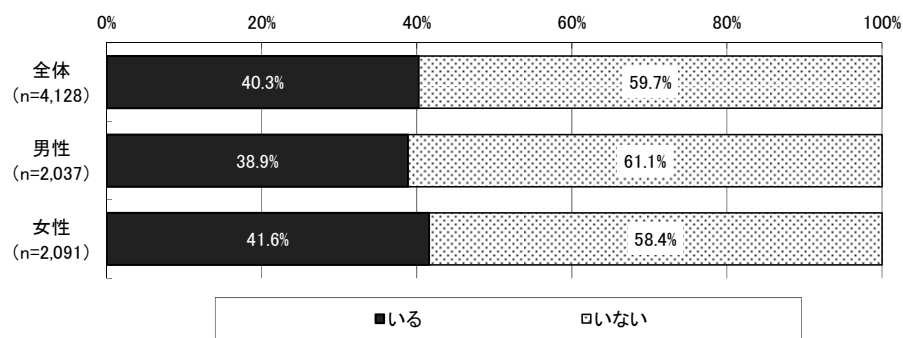
かかりつけの医師が「いる」という回答は40.3%、「いない」という人が59.7%であった。

図表 25 かかりつけの医師の有無 (n=4,128)



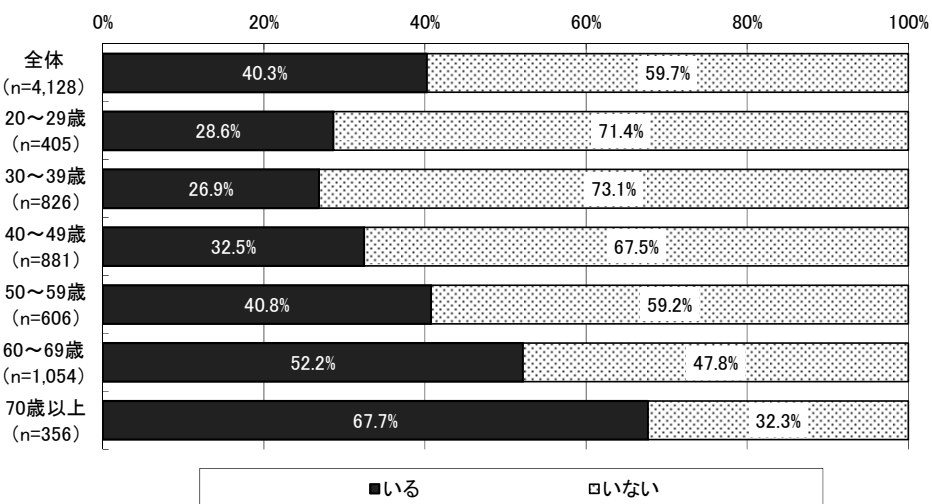
男女別にみると、女性の方が男性より「いる」の割合が2.7ポイント高かった。

図表 26 かかりつけの医師の有無 (男女別)

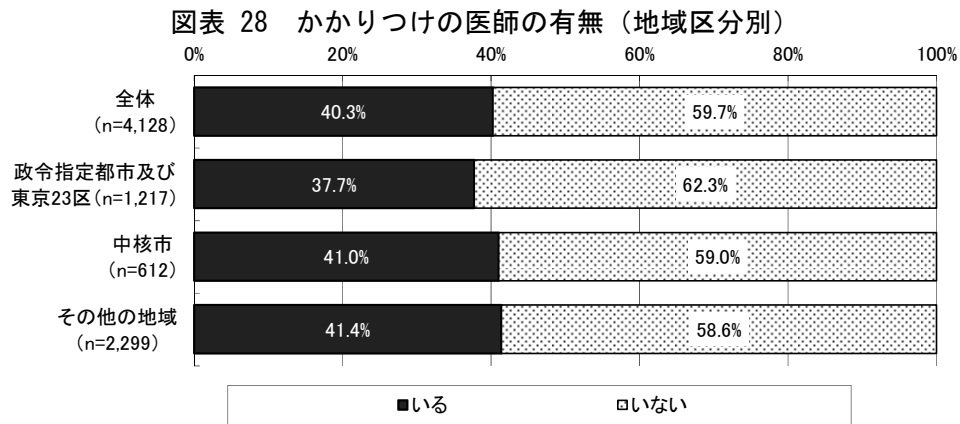


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「いる」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 27 かかりつけの医師の有無 (年齢階級別)

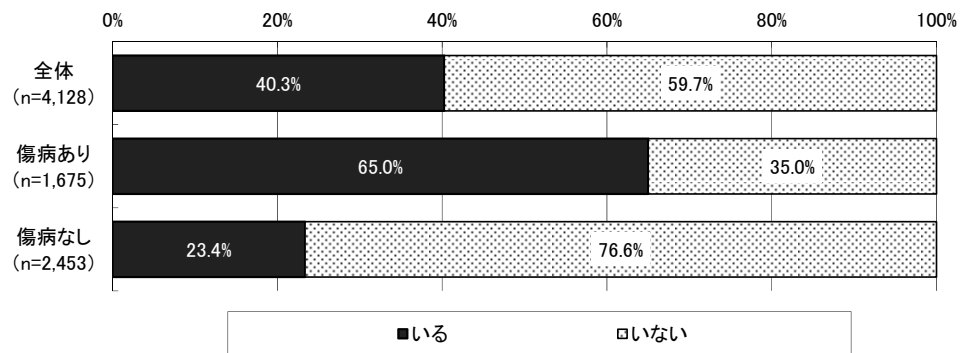


地域区別にみると、「いる」の割合は、その他の地域で41.4%で最も高く、次いで中核市（41.0%）、政令指定都市及び東京23区（37.7%）であった。



定期的に医療機関を受診している傷病の有無別にみると、定期的に医療機関を受診している傷病がある人ではかかりつけの医師が「いる」という割合は65.0%で、傷病がない人と比較すると41.6ポイント高かった。

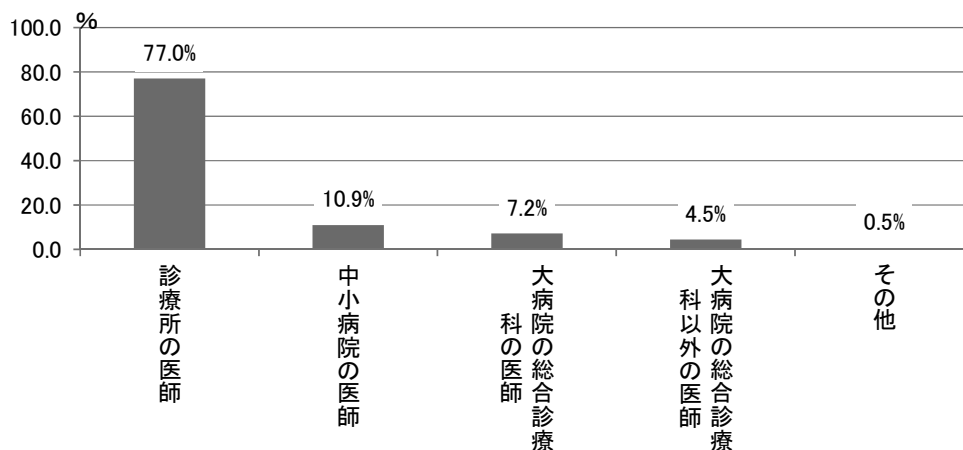
図表 29 かかりつけの医師の有無（定期的に医療機関を受診している傷病の有無別）



②かかりつけの医師の所属

かかりつけの医師が「いる」と回答した人に対して、かかりつけの医師の所属を尋ねたところ、「診療所の医師」が77.0%で最も多く、次いで「中小病院の医師」(10.9%)、「大病院の総合診療科の医師」(7.2%)、「大病院の総合診療科以外の医師」(4.5%)という順であった。

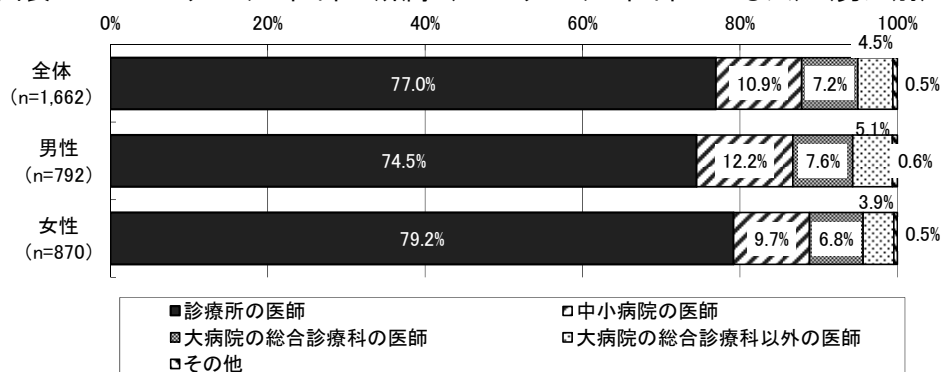
図表 30 かかりつけの医師の所属（かかりつけの医師がいる人、n=1,662）



(注) 最も近いものを1つだけ選び回答していただいた。

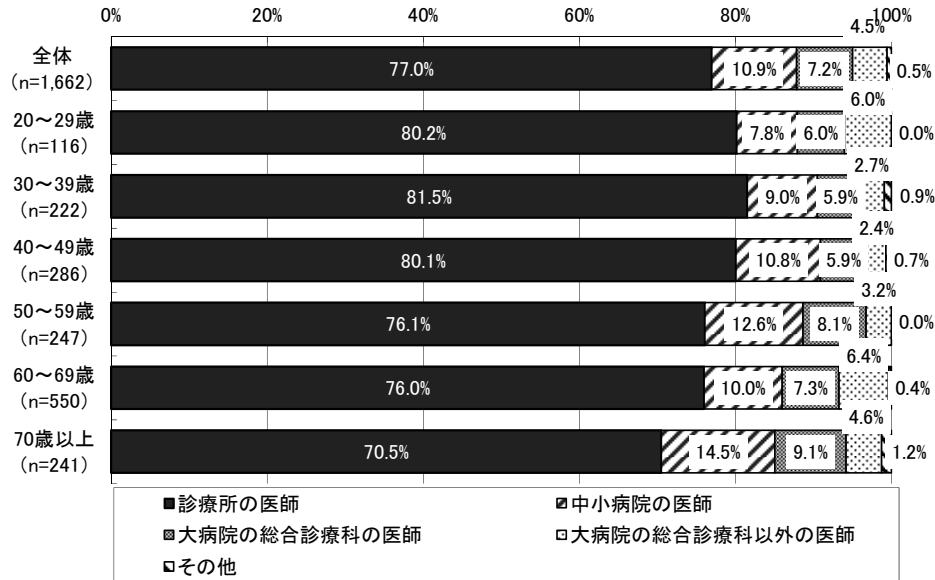
男女別にみると、男性は女性と比較して「診療所の医師」が4.7ポイント低く、「中小病院の医師」が2.5ポイント、「大病院の総合診療科の医師」が0.8ポイント、「大病院の総合診療科以外の医師」が1.2ポイント高かった。

図表 31 かかりつけの医師の所属（かかりつけの医師がいる人）（男女別）



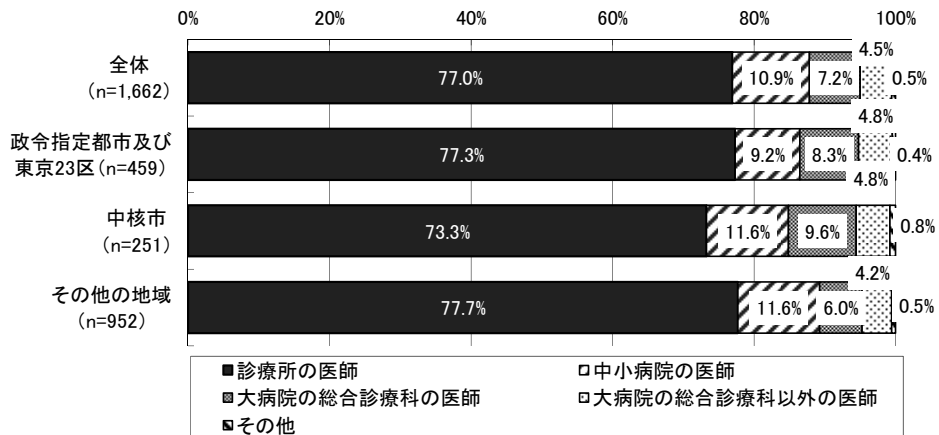
年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「診療所の医師」の割合が低くなり、「中小病院の医師」、「大病院の総合診療科の医師」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 32 かかりつけの医師の所属（かかりつけの医師がいる人）（年齢階級別）



地域区分別にみると、中核市では「全体」と比較して「診療所の医師」の割合が相対的に低く、「中小病院の医師」、「大病院の総合診療科の医師」の割合が相対的に高かった。

図表 33 かかりつけの医師の所属（かかりつけの医師がいる人）（地域区分別）



③かかりつけの医師の担当診療科

かかりつけの医師が「大病院の総合診療科の医師」以外であった人に対して、医師の担当診療科を尋ねたところ、「内科」が78.4%で最も多かった。

かかりつけの医師の所属別にみると、診療所の医師では「内科」が81.0%で「全体」と比較して高かった。中小病院の医師について、「全体」や他の医療機関の医師と比較して相対的に高かったのは「外科」、「整形外科」、「皮膚科」、「眼科」、「精神科・心療内科」であった（「その他」を除く）。大病院の総合診療科以外の医師について、「全体」や他の医療機関の医師と比較して相対的に高かったのは「産婦人科・産科・婦人科」であった（「その他」を除く）。

図表 34 かかりつけの医師の担当診療科
 （「大病院の総合診療科の医師」以外を回答した人）（かかりつけの医師の所属別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

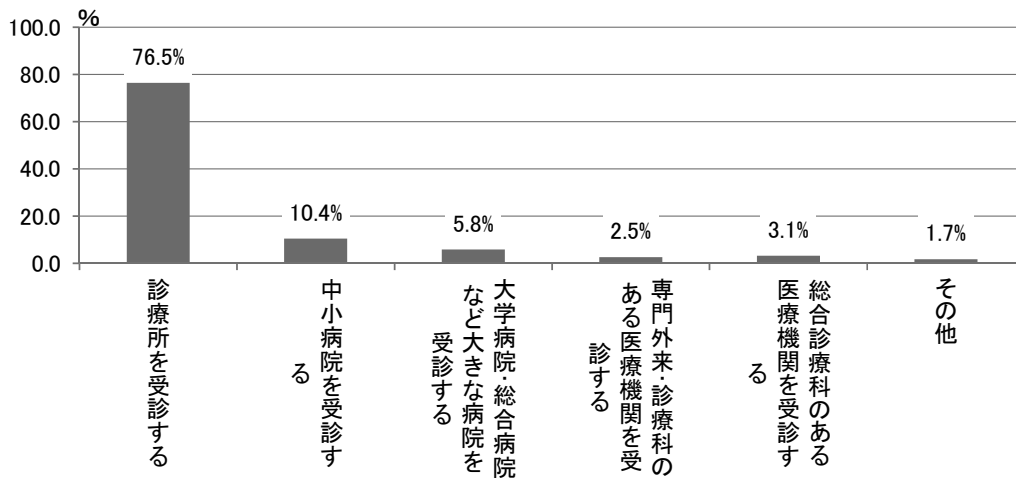
	総数	内科	外科	整形外科	小児科	産婦人科・ 産科・婦人 科	皮膚科	眼科	耳鼻いんこ う科	精神科・心 療内科	その他
全体	1,543	1,209	39	42	29	27	21	17	35	66	58
	100.0	78.4	2.5	2.7	1.9	1.7	1.4	1.1	2.3	4.3	3.8
診療所の医師	1,279	1,036	16	32	27	23	17	13	32	47	36
	100.0	81.0	1.3	2.5	2.1	1.8	1.3	1.0	2.5	3.7	2.8
中小病院の医師	181	128	16	8	1	1	3	4	2	13	5
	100.0	70.7	8.8	4.4	0.6	0.6	1.7	2.2	1.1	7.2	2.8
大病院の総合診療科 以外の医師	74	42	6	1	1	2	1	0	1	4	16
	100.0	56.8	8.1	1.4	1.4	2.7	1.4	0.0	1.4	5.4	21.6
その他	9	3	1	1	0	1	0	0	0	2	1
	100.0	33.3	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1

(3) 医療機関の受診方法等

① 気になる症状があった場合等に最初に受診する医療機関

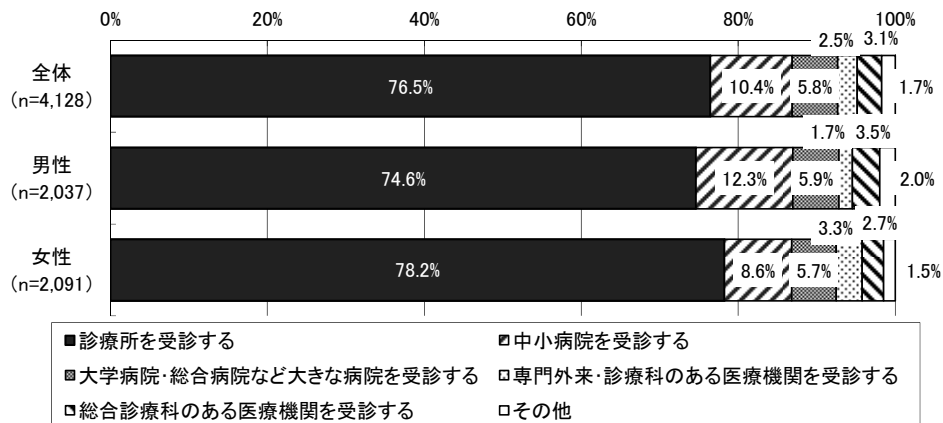
自分や家族にどこか気になる症状があった時や体調が悪くなった時に、まず最初にどのような医療機関を受診するか尋ねたところ、「診療所を受診する」が76.5%で最も多く、次いで「中小病院を受診する」が10.4%、「大学病院・総合病院など大きな病院を受診する」が5.8%、「総合診療科のある医療機関を受診する」が3.1%、「専門外来・診療科のある医療機関を受診する」が2.5%という順であった。

図表 35 気になる症状があった場合等に最初に受診する医療機関 (n=4, 128)



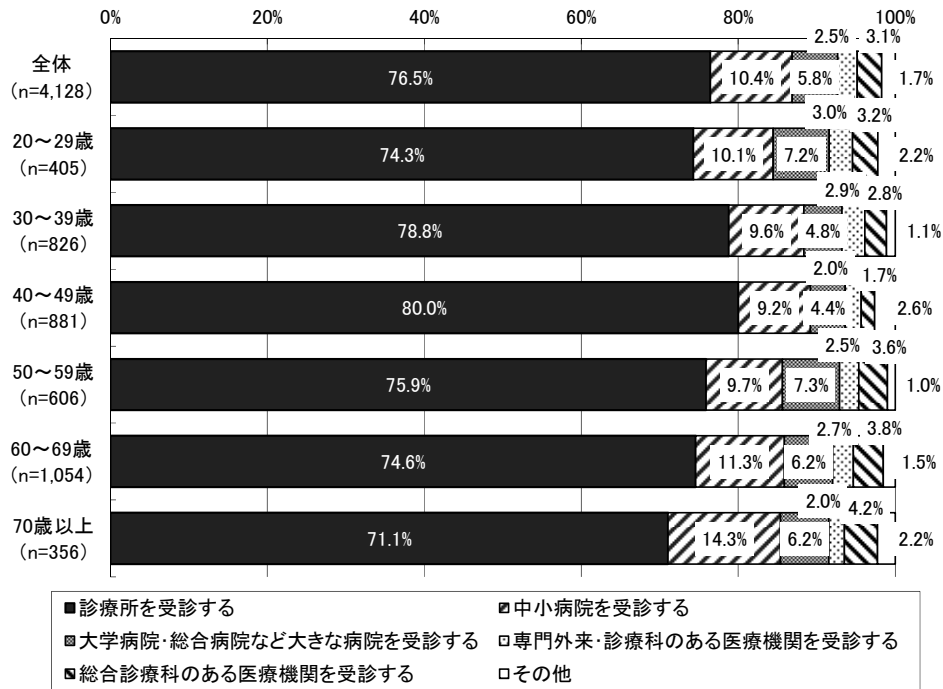
男女別にみると、男性は女性と比較して「診療所を受診する」の割合が3.6ポイント低く、「中小病院の医師」の割合が3.7ポイント高かった。

図表 36 気になる症状があった場合等に最初に受診する医療機関 (男女別)



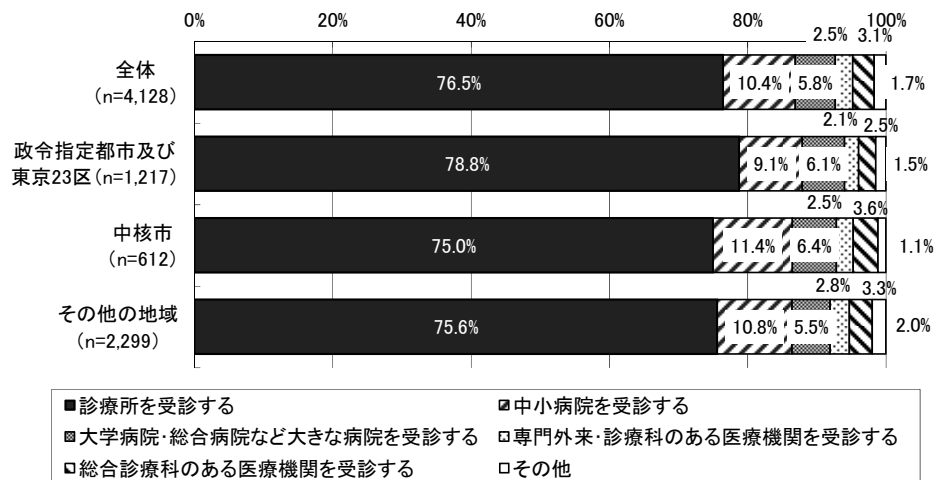
年齢階級別にみると、40歳以上の年齢階級では年齢階級が高くなるほど「診療所を受診する」の割合が低くなり、「中小病院を受診する」、「総合診療科のある医療機関を受診する」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表 37 気になる症状があった場合等に最初に受診する医療機関（年齢階級別）



地域区別にみると、政令指定都市及び東京 23 区では、「全体」や他の地域と比較して「診療所を受診する」の割合が高く、「中小病院を受診する」の割合が低かった。

図表 38 気になる症状があった場合等に最初に受診する医療機関（地域区分別）



かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「診療所を受診する」の割合が8.8ポイント高かった。

一方、かかりつけの医師がいない人ではいる人と比較して「総合診療科のある医療機関を受診する」、「専門外来・診療科のある医療機関を受診する」の割合が相対的に高かった。

図表 39 気になる症状があった場合等に最初に受診する医療機関
(かかりつけの医師の有無別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	診療所を受診する	中小病院を受診する	大学病院・総合病院など大きな病院を受診する	専門外来・診療科のある医療機関を受診する	総合診療科のある医療機関を受診する	その他
全体	4,128 100.0	3,156 76.5	430 10.4	239 5.8	104 2.5	128 3.1	71 1.7
いる	1,662 100.0	1,358 81.7	167 10.0	93 5.6	20 1.2	16 1.0	8 0.5
いない	2,466 100.0	1,798 72.9	263 10.7	146 5.9	84 3.4	112 4.5	63 2.6

図表 40 気になる症状があった場合等に最初に受診する医療機関
(かかりつけの医師がいる人)(かかりつけの医師の所属別)

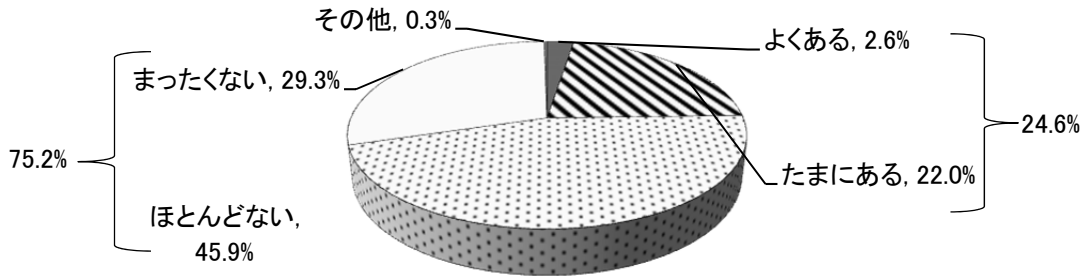
(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	診療所を受診する	中小病院を受診する	大学病院・総合病院など大きな病院を受診する	専門外来・診療科のある医療機関を受診する	総合診療科のある医療機関を受診する	その他
全体	1,662 100.0	1,358 81.7	167 10.0	93 5.6	20 1.2	16 1.0	8 0.5
診療所の医師	1,279 100.0	1,218 95.2	17 1.3	23 1.8	10 0.8	6 0.5	5 0.4
中小病院の医師	181 100.0	37 20.4	137 75.7	2 1.1	3 1.7	2 1.1	0 0.0
大病院の総合診療科の医師	119 100.0	61 51.3	6 5.0	44 37.0	1 0.8	6 5.0	1 0.8
大病院の総合診療科以外の医師	74 100.0	35 47.3	5 6.8	24 32.4	6 8.1	2 2.7	2 2.7
その他	9 100.0	7 77.8	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

②重複受診の経験

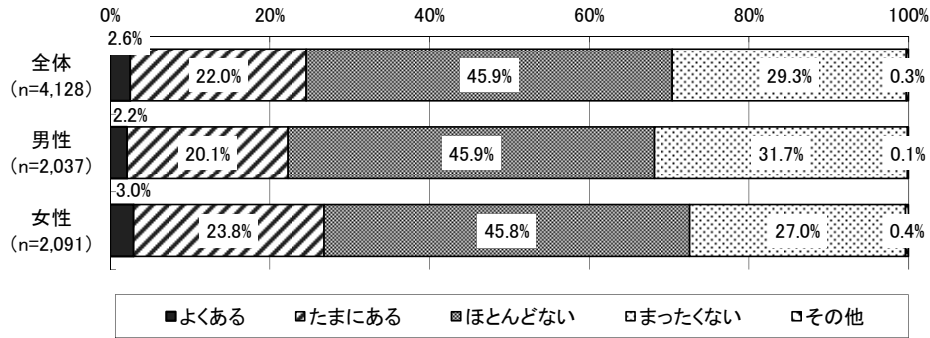
自分や家族が、今までにどの診療科に行けばよいかわからず、いろいろな診療科や複数の医療機関を受診した経験があるか尋ねたところ、「ほとんどない」が45.9%で最も多く、次いで「まったくない」(29.3%)であった。しかし、「よくある」が2.6%、「たまにある」が22.0%となっており、4人に1人は経験があるという回答であった。

図表 41 重複受診の経験 (n=4,128)



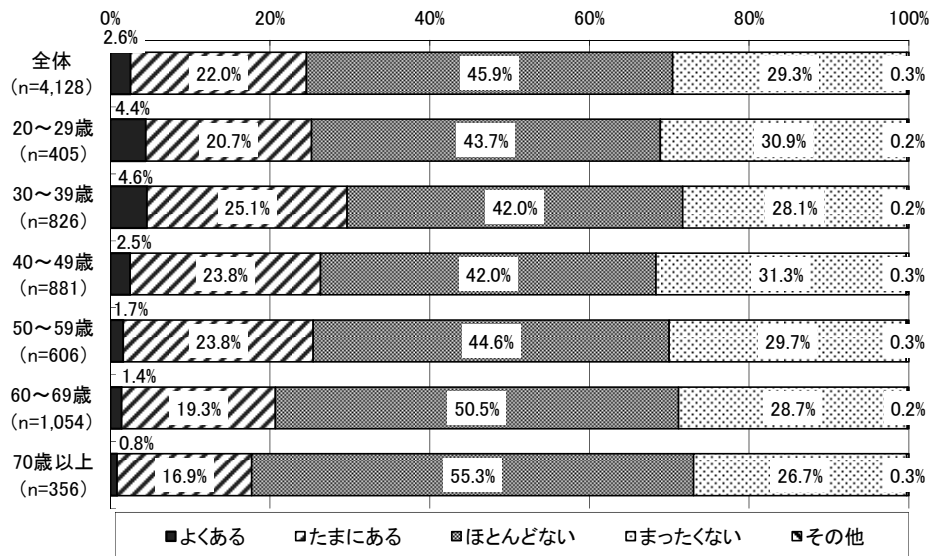
男女別にみると、女性の方が男性と比較して「よくある」と「たまにある」を合わせた割合が4.5ポイント高かった。

図表 42 重複受診の経験 (男女別)

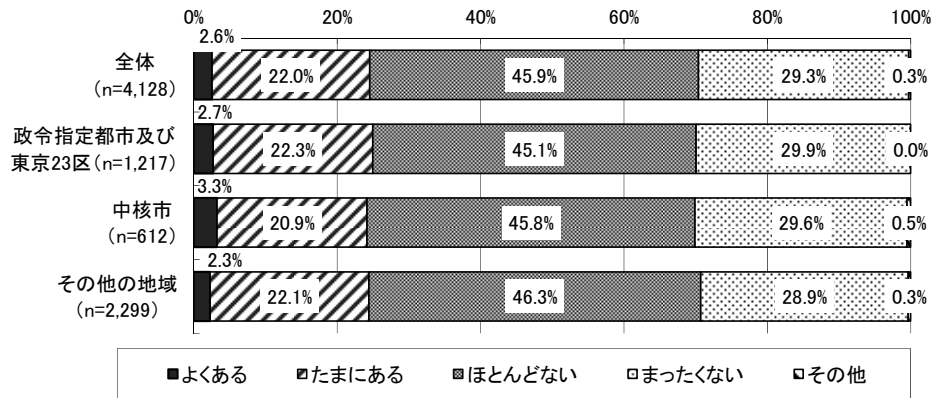


年齢階級別にみると、20～29歳の年齢階級を除くと、年齢階級が低いほど「よくある」、「たまにある」の割合が高かった。

図表 43 重複受診の経験 (年齢階級別)

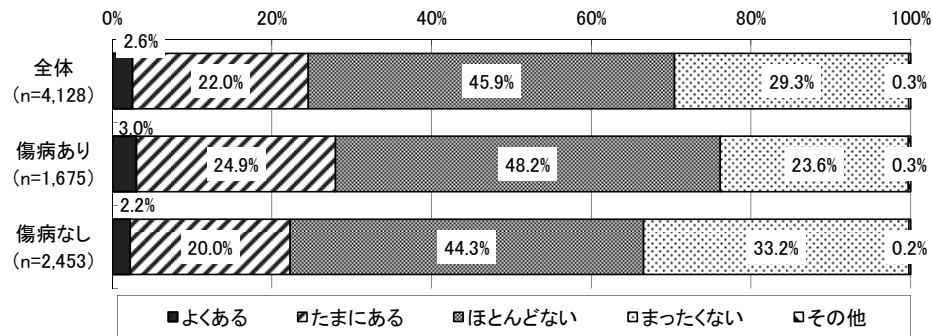


図表 44 重複受診の経験（地域区分別）



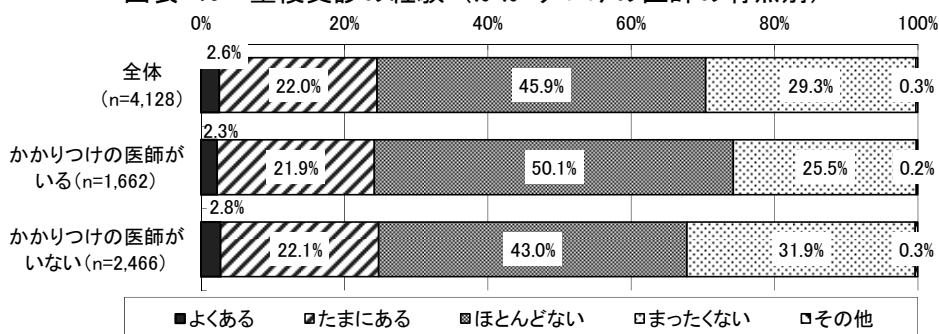
定期的に医療機関を受診している傷病の有無別にみると、定期的に医療機関を受診している傷病がある人ではない人と比較して「よくある」、「たまにある」の割合が高かった。

図表 45 重複受診の経験（定期的に医療機関を受診している傷病の有無別）



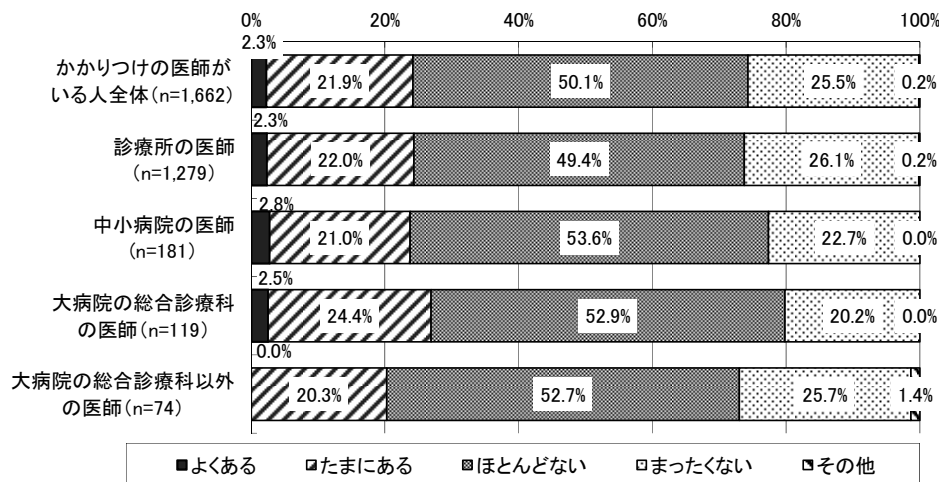
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師のいる人では「ほとんどない」が半数を占めた。しかし、かかりつけの医師がいる人でも 2 割強が「たまにある」という回答であった。

図表 46 重複受診の経験（かかりつけの医師の有無別）



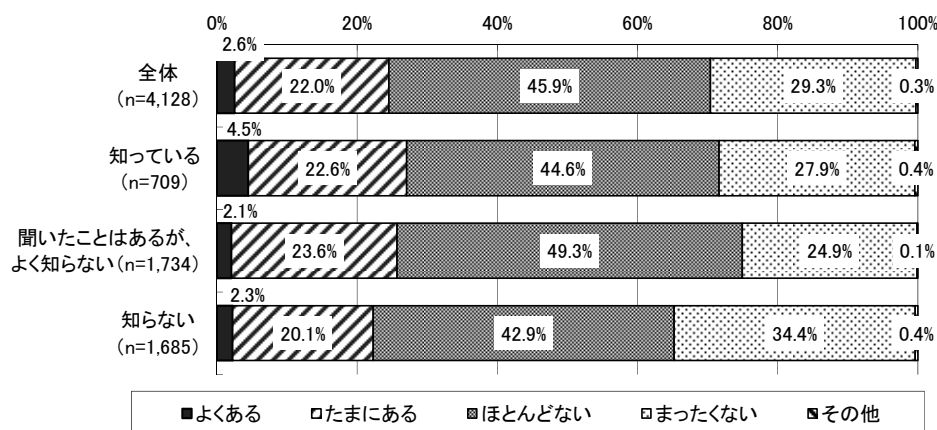
かかりつけの医師の所属別にみると、かかりつけの医師が「大病院の総合診療科の医師」では「よくある」と「たまにある」を合わせた割合が「かかりつけの医師がいる人全体」や他と比較してやや高かった。

図表 47 重複受診の経験（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知っている人では、「よくある」と「たまにある」を合わせた割合が「全体」や他と比較してやや高かった。

図表 48 重複受診の経験（「総合診療医」の認知度別）



③望ましい受診の仕組み

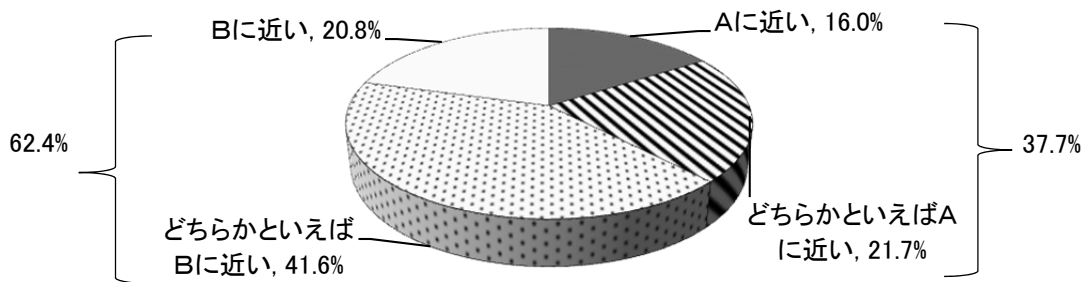
以下の2つの考え方について、どちらに近いかを尋ねた結果が次の図表である。

A：どの医療機関や診療科に行くのがよいかを自分で判断して受診する仕組みがよい
 B：自分のことをよく知っていて何でも相談できる、かかりつけの医師にまずは相談し、適切な医療機関・診療科を紹介してもらう仕組みがよい

この結果、「どちらかといえばBに近い」が41.6%で最も多く、次いで「どちらかといえばAに近い」が21.7%、「Bに近い」が20.8%、「Aに近い」が16.0%であった。

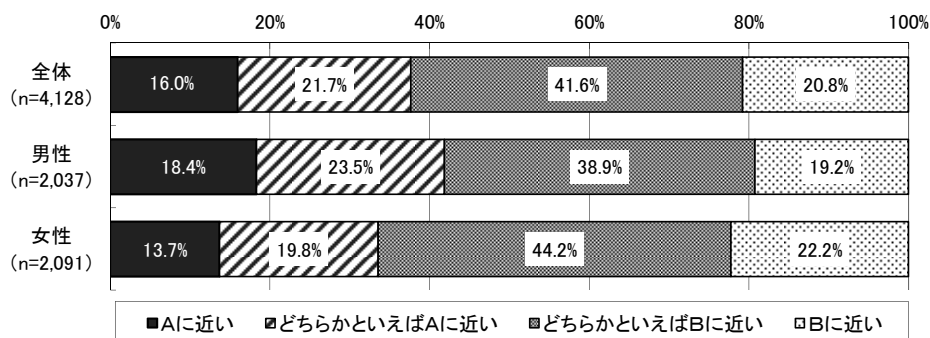
「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計割合は37.7%、「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計割合は62.4%であり、全体としてAよりもBの方が多かった。

図表 49 望ましい受診の仕組み (n=4,128)



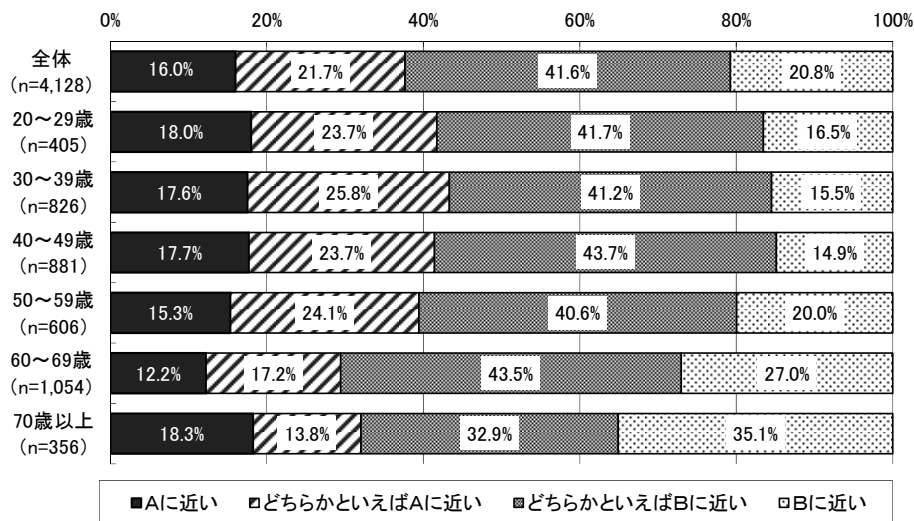
男女別にみると、「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計割合は、男性では41.9%、女性では33.5%となっており、男性は女性と比較して8.4ポイント高かった。

図表 50 望ましい受診の仕組み (男女別)



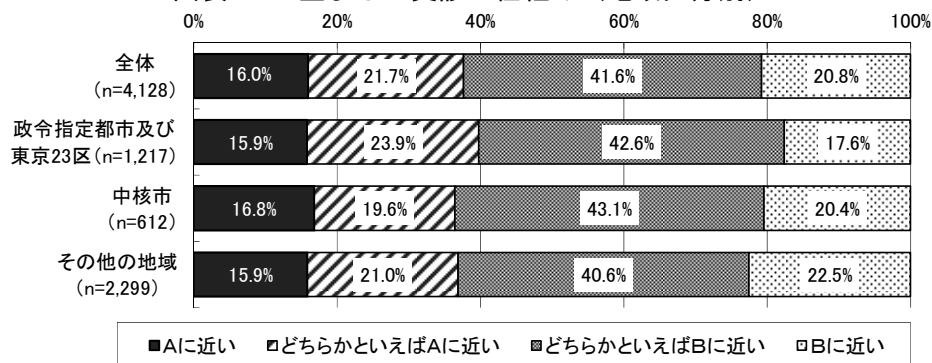
年齢階級別にみると、50歳未満の各年齢階級では「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計割合が4割を超え、「全体」や50歳以上の各年齢階級と比較して高かった。しかし、これらの年齢階級であっても、「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計割合のほうが6割近くとなっており、Aの合計割合よりも高かった。また、60歳以上では「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計割合が7割近くとなった。

図表 51 望ましい受診の仕組み（年齢階級別）



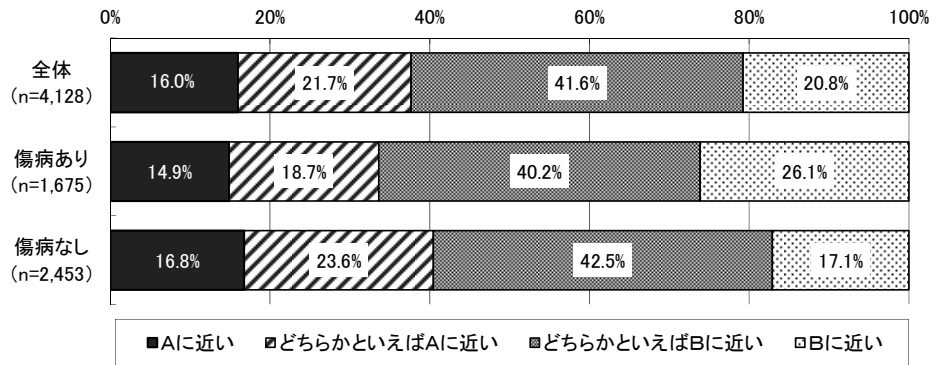
地域区別にみると、政令指定都市及び東京23区では、「全体」や他の地域と比較して、「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計割合が高かった。

図表 52 望ましい受診の仕組み（地域区分別）



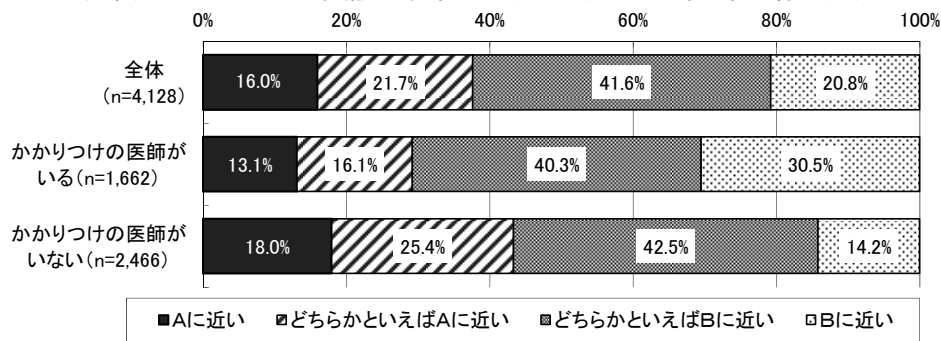
定期的に医療機関を受診している傷病の有無別にみると、定期的に医療機関を受診している傷病がある人では「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計割合が66.3%となっており、傷病がない人（59.6%）と比較して6.7ポイント高かった。

図表 53 望ましい受診の仕組み（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）



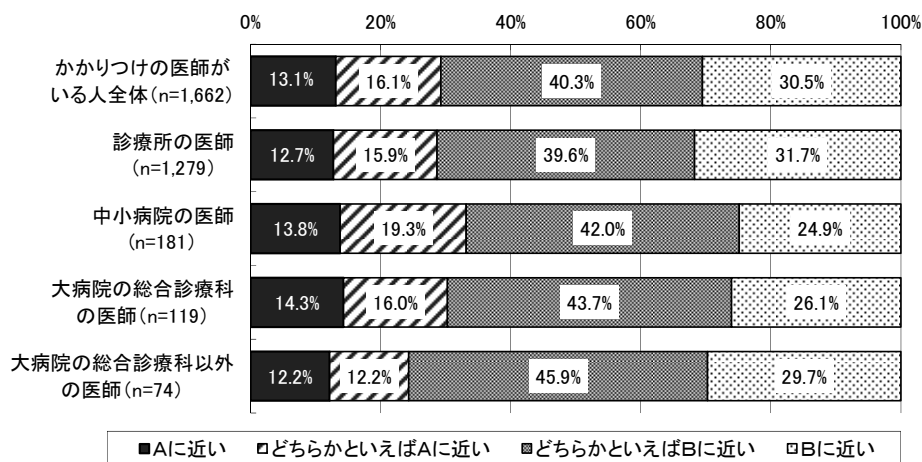
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人では「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計割合が70.8%となっており、いない人（56.7%）と比較して14.1ポイント高かった。

図表 54 望ましい受診の仕組み（かかりつけの医師の有無別）



かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科以外の医師では「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計割合が75.6%で「かかりつけの医師がいる人全体」や他と比較しても割合が高かった。

図表 55 望ましい受診の仕組み（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）

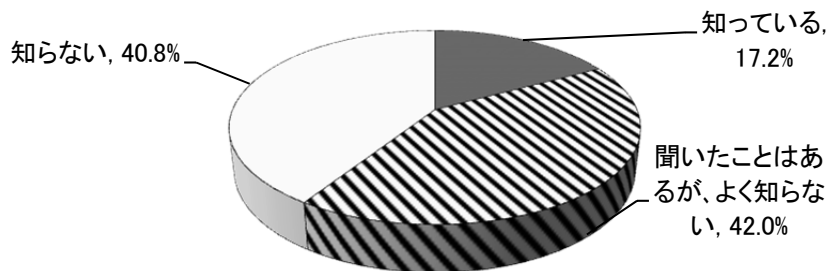


3. 総合診療医に関する認知度・イメージ

①総合診療医に関する認知度

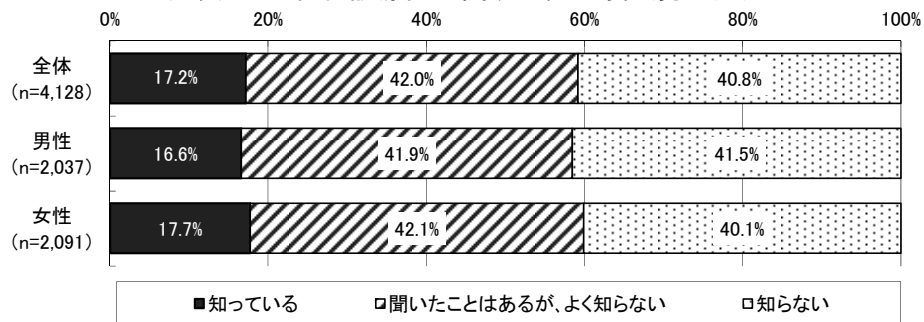
「総合診療医」に関する認知度をみると、「知っている」が 17.2%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 42.0%、「知らない」が 40.8%であった。

図表 56 総合診療医に関する認知度 (n=4,128)



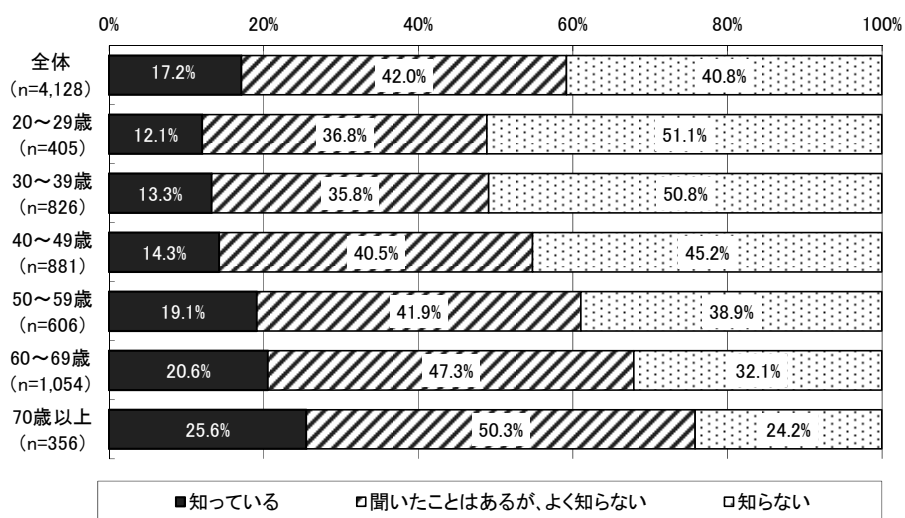
男女別にみると、「知っている」の割合は、男性が 16.6%、女性が 17.7%であった。

図表 57 総合診療医に関する認知度 (男女別)



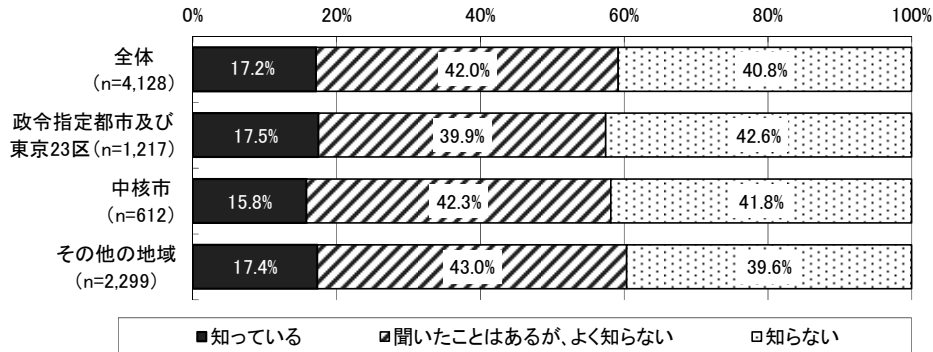
年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「知っている」の割合が高くなった。

図表 58 総合診療医に関する認知度 (年齢階級別)



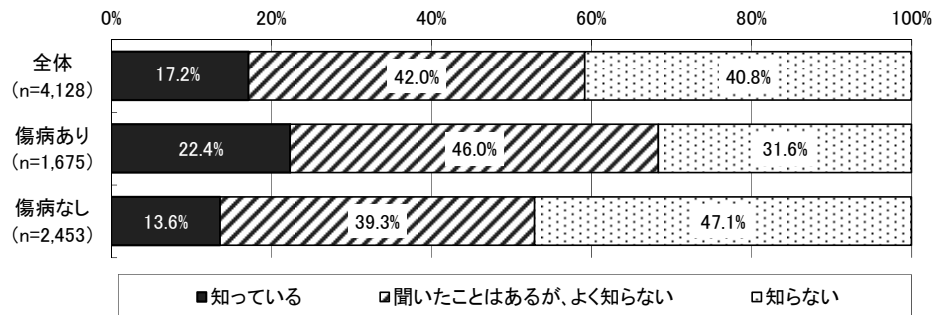
地域区別にみると、「知っている」の割合は、政令指定都市及び東京 23 区が 17.5%、中核市が 15.8%、その他の地域が 17.4%であった。

図表 59 総合診療医に関する認知度（地域区分別）



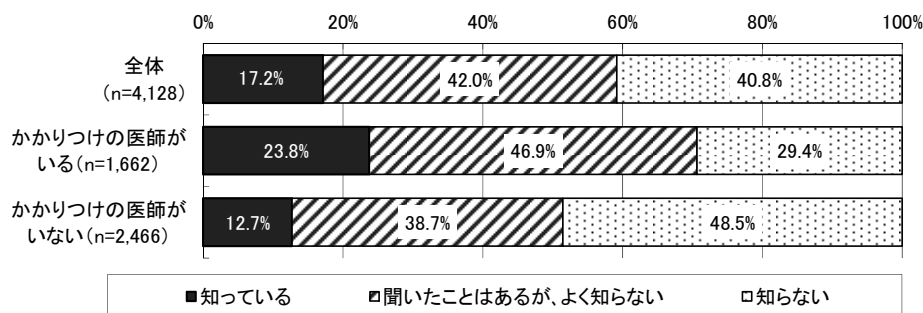
定期的に医療機関を受診している傷病の有無別にみると、「知っている」の割合は、定期的に医療機関を受診している傷病のある人（傷病あり）では 22.4%で、ない人（傷病なし）（13.6%）と比較して 8.8 ポイント高かった。

図表 60 総合診療医に関する認知度
（定期的に医療機関を受診している傷病の有無別）



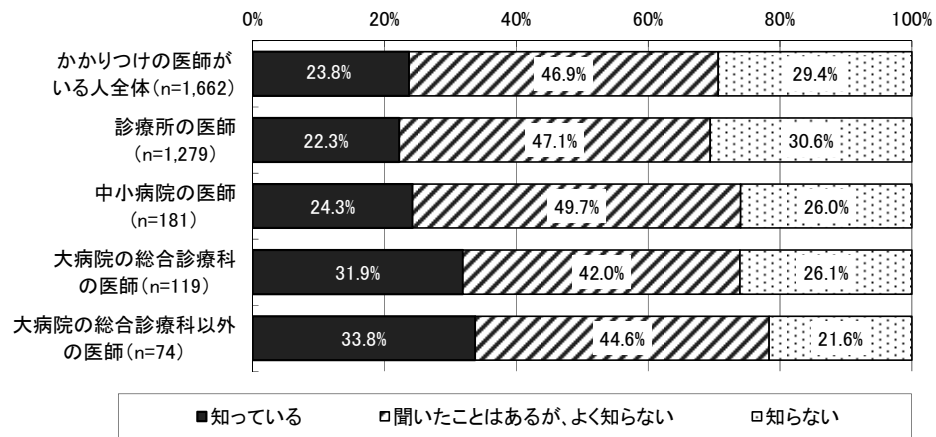
かかりつけの医師の有無別にみると、「知っている」の割合は、かかりつけの医師がいる人では 23.8%で、いない人（12.7%）と比較して 11.1 ポイント高かった。

図表 61 総合診療医に関する認知度（かかりつけの医師の有無別）



かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科の医師の場合でも「知っている」の割合は31.9%にとどまった。

図表 62 総合診療医に関する認知度（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）

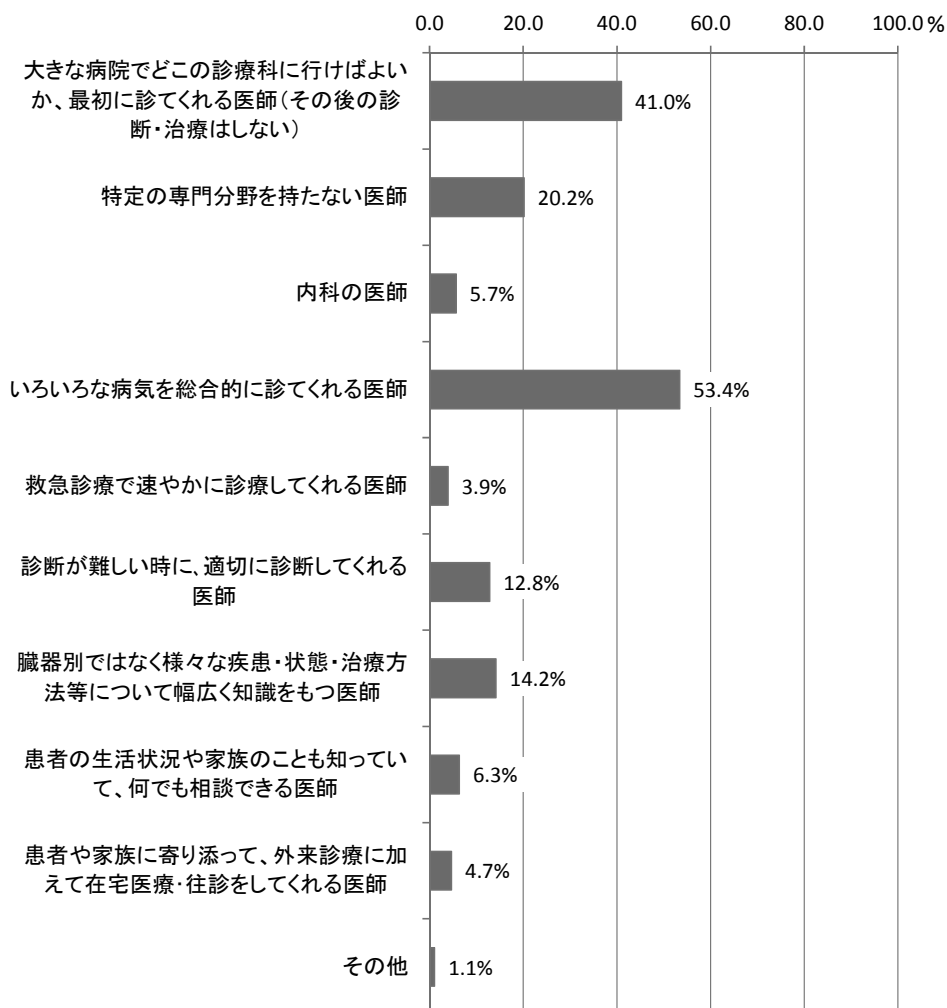


②「総合診療医」という言葉のイメージ

1)「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの

「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるものを複数回答で尋ねたところ、「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」が 53.4%で最も多く、次いで「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」が 41.0%であった。3 位以降では、「特定の専門分野を持たない医師」が 20.2%、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識を持つ医師」が 14.2%、「診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師」が 12.8%という順であった。

図表 63 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
(n=4, 128、複数回答)



男女別にみると、女性では男性と比較して「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」が 5.7 ポイント、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」が 3.1 ポイント高かった。

図表 64 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの（男女別）（複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,691 41.0	833 20.2	234 5.7	2,204 53.4	163 3.9	529 12.8	586 14.2	261 6.3	192 4.7	44 1.1
男性	2,037 100.0	822 40.4	426 20.9	129 6.3	1,029 50.5	84 4.1	232 11.4	257 12.6	118 5.8	91 4.5	26 1.3
女性	2,091 100.0	869 41.6	407 19.5	105 5.0	1,175 56.2	79 3.8	297 14.2	329 15.7	143 6.8	101 4.8	18 0.9

年齢階級別にみると、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」の回答割合は、年齢階級が高くなるほど高くなる傾向がみられた。一方、「特定の専門分野を持たない医師」の回答割合は年齢階級が低くなるほど高くなる傾向がみられた。

図表 65 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの

（年齢階級別）（複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,691 41.0	833 20.2	234 5.7	2,204 53.4	163 3.9	529 12.8	586 14.2	261 6.3	192 4.7	44 1.1
20～29歳	405 100.0	155 38.3	120 29.6	33 8.1	239 59.0	21 5.2	31 7.7	36 8.9	15 3.7	19 4.7	2 0.5
30～39歳	826 100.0	332 40.2	197 23.8	63 7.6	472 57.1	34 4.1	91 11.0	86 10.4	40 4.8	42 5.1	8 1.0
40～49歳	881 100.0	359 40.7	164 18.6	53 6.0	449 51.0	34 3.9	118 13.4	92 10.4	58 6.6	35 4.0	12 1.4
50～59歳	606 100.0	247 40.8	119 19.6	28 4.6	302 49.8	21 3.5	81 13.4	85 14.0	45 7.4	23 3.8	8 1.3
60～69歳	1,054 100.0	445 42.2	183 17.4	41 3.9	542 51.4	34 3.2	156 14.8	205 19.4	77 7.3	53 5.0	10 0.9
70歳以上	356 100.0	153 43.0	50 14.0	16 4.5	200 56.2	19 5.3	52 14.6	82 23.0	26 7.3	20 5.6	4 1.1

地域区別にみると、政令指定都市及び東京 23 区では「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」、「特定の専門分野を持たない医師」、「内科の医師」、「診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師」、「患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師」の回答割合が、「全体」や他の地域と比較してやや高かった。

図表 66 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
(地域区分別) (複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,691 41.0	833 20.2	234 5.7	2,204 53.4	163 3.9	529 12.8	586 14.2	261 6.3	192 4.7	44 1.1
政令指定都市及び東京23区	1,217 100.0	515 42.3	260 21.4	80 6.6	635 52.2	48 3.9	182 15.0	174 14.3	88 7.2	59 4.8	14 1.2
中核市	612 100.0	248 40.5	121 19.8	25 4.1	331 54.1	20 3.3	64 10.5	79 12.9	24 3.9	20 3.3	7 1.1
その他の地域	2,299 100.0	928 40.4	452 19.7	129 5.6	1,238 53.8	95 4.1	283 12.3	333 14.5	149 6.5	113 4.9	23 1.0

定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病がある人では傷病がない人と比較して、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」(5.2 ポイントの差)、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」(4.2 ポイントの差)、「診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師」(3.3 ポイントの差)で、割合がやや高かった。

図表 67 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
(定期的に医療機関に受診している傷病の有無別) (複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,691 41.0	833 20.2	234 5.7	2,204 53.4	163 3.9	529 12.8	586 14.2	261 6.3	192 4.7	44 1.1
あり	1,675 100.0	728 43.5	332 19.8	88 5.3	903 53.9	65 3.9	248 14.8	289 17.3	124 7.4	66 3.9	16 1.0
なし	2,453 100.0	963 39.3	501 20.4	146 6.0	1,301 53.0	98 4.0	281 11.5	297 12.1	137 5.6	126 5.1	28 1.1

かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人では、いない人と比較して、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」（4.9ポイントの差）、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」（4.5ポイントの差）で、割合がやや高かった。

図表 68 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
（かかりつけの医師の有無別）（複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,691 41.0	833 20.2	234 5.7	2,204 53.4	163 3.9	529 12.8	586 14.2	261 6.3	192 4.7	44 1.1
いる	1,662 100.0	729 43.9	317 19.1	95 5.7	904 54.4	78 4.7	240 14.4	281 16.9	112 6.7	70 4.2	13 0.8
いない	2,466 100.0	962 39.0	516 20.9	139 5.6	1,300 52.7	85 3.4	289 11.7	305 12.4	149 6.0	122 4.9	31 1.3

かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科の医師（をかかりつけの医師としている人）で、「全体」や他と比較して割合が相対的に高かったのは、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」、「内科の医師」、「救急診療で速やかに診療してくれる医師」であった。一方、低かったのは、「診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師」、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」であった。

図表 69 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）（複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	1,662 100.0	729 43.9	317 19.1	95 5.7	904 54.4	78 4.7	240 14.4	281 16.9	112 6.7	70 4.2	13 0.8
診療所の医師	1,279 100.0	567 44.3	232 18.1	65 5.1	688 53.8	61 4.8	192 15.0	217 17.0	76 5.9	53 4.1	8 0.6
中小病院の医師	181 100.0	74 40.9	42 23.2	11 6.1	107 59.1	8 4.4	26 14.4	30 16.6	19 10.5	10 5.5	3 1.7
大病院の総合診療科の医師	119 100.0	54 45.4	23 19.3	16 13.4	65 54.6	6 5.0	9 7.6	16 13.4	12 10.1	6 5.0	1 0.8
大病院の総合診療科以外の医師	74 100.0	29 39.2	18 24.3	3 4.1	40 54.1	3 4.1	12 16.2	15 20.3	4 5.4	1 1.4	1 1.4
その他	9 100.0	5 55.6	2 22.2	0 0.0	4 44.4	0 0.0	1 11.1	3 33.3	1 11.1	0 0.0	0 0.0

「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を「知っている」と回答した人では、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」が55.0%で最も多く、「全体」とは異なる結果となった。

「総合診療医」を「知っている」と回答した人で、「全体」や他と比較して回答割合が高かったのは、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」（「全体」と比較して14.0ポイントの差）の他、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」（同11.8ポイントの差）、「診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師」（同8.8ポイントの差）、「救急診療で速やかに診療してくれる医師」（同3.3ポイントの差）、「内科の医師」（同2.2ポイントの差）、「患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師」（同2.0ポイントの差）であった。

図表 70 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
（「総合診療医」の認知度別）（複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,691 41.0	833 20.2	234 5.7	2,204 53.4	163 3.9	529 12.8	586 14.2	261 6.3	192 4.7	44 1.1
知っている	709 100.0	390 55.0	131 18.5	56 7.9	378 53.3	51 7.2	153 21.6	184 26.0	59 8.3	32 4.5	5 0.7
聞いたことはあるが、よく知らない	1,734 100.0	747 43.1	353 20.4	98 5.7	942 54.3	72 4.2	223 12.9	249 14.4	110 6.3	74 4.3	8 0.5
知らない	1,685 100.0	554 32.9	349 20.7	80 4.7	884 52.5	40 2.4	153 9.1	153 9.1	92 5.5	86 5.1	31 1.8

望ましい受診の仕組み別にみると、「自分で判断して受診する仕組み」が望ましいと考えている人では「かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み」が望ましいと考えている人と比較して、「内科の医師」以外の割合が低く、特に「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」（7.7ポイントの差）、「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」（7.0ポイントの差）、「診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師」（4.4ポイントの差）でその差が大きくなっている。

図表 71 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
(望ましい受診の仕組み別) (複数回答)

(単位: 上段「人」、下段「%」)

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師(その後の診断・治療はしない)	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,691 41.0	833 20.2	234 5.7	2,204 53.4	163 3.9	529 12.8	586 14.2	261 6.3	192 4.7	44 1.1
自分で判断して受診する仕組み	1,555 100.0	621 39.9	312 20.1	123 7.9	762 49.0	49 3.2	157 10.1	146 9.4	66 4.2	60 3.9	18 1.2
かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み	2,573 100.0	1,070 41.6	521 20.2	111 4.3	1,442 56.0	114 4.4	372 14.5	440 17.1	195 7.6	132 5.1	26 1.0

(注) 「自分で判断して受診する仕組み」とは、望ましい受診の仕組みとして「どの医療機関や診療科に行くのがよいかを自分で判断して受診する仕組みがよい」という考えに近い、どちらかといえば近いと回答した人、「かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み」とは「自分のことをよく知っていて何でも相談できる、かかりつけの医師にまずは相談し、適切な医療機関・診療科を紹介してもらう仕組みがよい」という考えに近い、どちらかといえば近いと回答した人を指す(以下、同様)。

かかりつけの医師がいる人について、現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別にみると、「あてはまる」と回答した人では「あてはまらない」と回答した人と比較して、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか最初に診てくれる医師(その後の診断・治療はしない) (4.6ポイントの差)」、「患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師」(3.8ポイントの差)で割合が高かった。

図表 72 「総合診療医」という言葉のイメージとしてあてはまるもの
(かかりつけの医師がいる人)

(現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別) (複数回答)

(単位: 上段「人」、下段「%」)

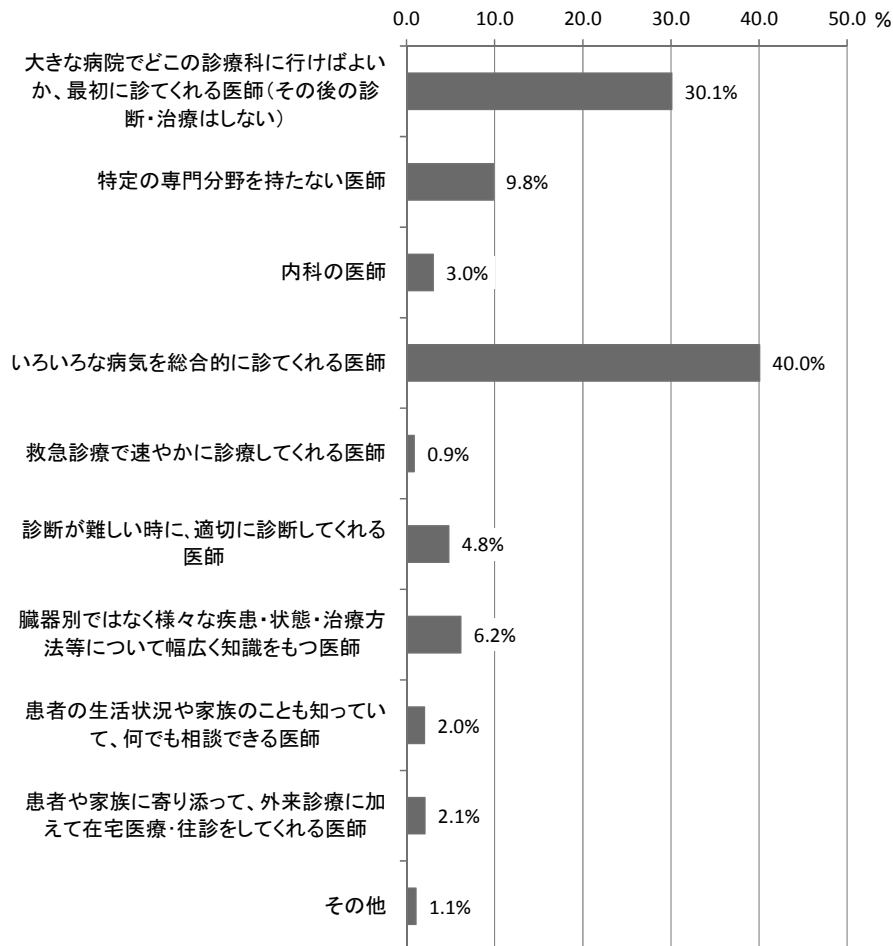
	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師(その後の診断・治療はしない)	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	1,662 100.0	729 43.9	317 19.1	95 5.7	904 54.4	78 4.7	240 14.4	281 16.9	112 6.7	70 4.2	13 0.8
あてはまる	651 100.0	308 47.3	120 18.4	51 7.8	354 54.4	36 5.5	93 14.3	112 17.2	62 9.5	30 4.6	3 0.5
あてはまらない	804 100.0	343 42.7	162 20.1	37 4.6	433 53.9	34 4.2	122 15.2	133 16.5	46 5.7	34 4.2	5 0.6
わからない	207 100.0	78 37.7	35 16.9	7 3.4	117 56.5	8 3.9	25 12.1	36 17.4	4 1.9	6 2.9	5 2.4

(注) かかりつけの医師がいる人に対して現在のかかりつけの医師が総合診療専門医の定義にあてはまるか否かを尋ねた結果、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人を「あてはまる」とし、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した人を「あてはまらない」とした(以下、同様)。

2) 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ

「総合診療医」という言葉の最も強いイメージを単数回答で尋ねたところ、「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」が40.0%で最も多く、次いで「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師(その後の診断・治療はしない)」が30.1%、「特定の専門分野を持たない医師」が9.8%であった。

図表 73 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ (単数回答、n=4,128)



男女別にみると、女性では男性と比較して「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」が2.7ポイント、「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」が2.2ポイント高かった。

図表 74 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ（男女別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどここの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
男性	2,037 100.0	618 30.3	221 10.8	82 4.0	793 38.9	19 0.9	87 4.3	98 4.8	42 2.1	51 2.5	26 1.3
女性	2,091 100.0	624 29.8	185 8.8	43 2.1	860 41.1	17 0.8	111 5.3	156 7.5	42 2.0	35 1.7	18 0.9

年齢階級別にみると、「大きな病院でどここの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」の回答割合は、年齢階級が高くなるほど高くなる傾向がみられた。一方、「特定の専門分野を持たない医師」の回答割合は年齢階級が低くなるほど高くなる傾向がみられた。

図表 75 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ（年齢階級別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどここの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
20～29歳	405 100.0	104 25.7	59 14.6	15 3.7	197 48.6	3 0.7	3 0.7	6 1.5	5 1.2	11 2.7	2 0.5
30～39歳	826 100.0	242 29.3	87 10.5	29 3.5	367 44.4	5 0.6	32 3.9	21 2.5	12 1.5	23 2.8	8 1.0
40～49歳	881 100.0	270 30.6	88 10.0	36 4.1	348 39.5	8 0.9	48 5.4	40 4.5	19 2.2	12 1.4	12 1.4
50～59歳	606 100.0	179 29.5	62 10.2	20 3.3	240 39.6	5 0.8	37 6.1	32 5.3	13 2.1	10 1.7	8 1.3
60～69歳	1,054 100.0	335 31.8	94 8.9	19 1.8	373 35.4	9 0.9	61 5.8	106 10.1	25 2.4	22 2.1	10 0.9
70歳以上	356 100.0	112 31.5	16 4.5	6 1.7	128 36.0	6 1.7	17 4.8	49 13.8	10 2.8	8 2.2	4 1.1

図表 76 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ（地域区分別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
政令指定都市及び東京23区	1,217 100.0	367 30.2	126 10.4	40 3.3	465 38.2	11 0.9	70 5.8	72 5.9	22 1.8	30 2.5	14 1.2
中核市	612 100.0	173 28.3	71 11.6	14 2.3	261 42.6	4 0.7	34 5.6	33 5.4	6 1.0	9 1.5	7 1.1
その他の地域	2,299 100.0	702 30.5	209 9.1	71 3.1	927 40.3	21 0.9	94 4.1	149 6.5	56 2.4	47 2.0	23 1.0

定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、定期的に医療機関に受診している傷病がある人では、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」（3.8 ポイントの差）、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」（2.2 ポイントの差）で、傷病がない人と比較して割合がやや高かった。

図表 77 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
あり	1,675 100.0	526 31.4	153 9.1	41 2.4	636 38.0	17 1.0	86 5.1	141 8.4	38 2.3	21 1.3	16 1.0
なし	2,453 100.0	716 29.2	253 10.3	84 3.4	1,017 41.5	19 0.8	112 4.6	113 4.6	46 1.9	65 2.6	28 1.1

かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人では、「大きな病院でこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」（2.6ポイントの差）、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」（3.3ポイントの差）で、かかりつけの医師がいない人と比較して割合がやや高かった。

図表 78 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ
（かかりつけの医師の有無別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・住診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
いる	1,662 100.0	526 31.6	141 8.5	51 3.1	647 38.9	15 0.9	86 5.2	135 8.1	26 1.6	22 1.3	13 0.8
いない	2,466 100.0	716 29.0	265 10.7	74 3.0	1,006 40.8	21 0.9	112 4.5	119 4.8	58 2.4	64 2.6	31 1.3

かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科の医師（をかかりつけの医師としている人）では、「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」が35.3%で最も多く、次いで「大きな病院でこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」が32.8%であった。

図表 79 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・住診をしてくれる医師	その他
全体	1,662 100.0	526 31.6	141 8.5	51 3.1	647 38.9	15 0.9	86 5.2	135 8.1	26 1.6	22 1.3	13 0.8
診療所の医師	1,279 100.0	415 32.4	105 8.2	37 2.9	499 39.0	11 0.9	72 5.6	99 7.7	16 1.3	17 1.3	8 0.6
中小病院の医師	181 100.0	47 26.0	17 9.4	7 3.9	77 42.5	2 1.1	6 3.3	13 7.2	6 3.3	3 1.7	3 1.7
大病院の総合診療科の医師	119 100.0	39 32.8	13 10.9	7 5.9	42 35.3	2 1.7	2 1.7	9 7.6	2 1.7	2 1.7	1 0.8
大病院の総合診療科以外の医師	74 100.0	20 27.0	6 8.1	0 0.0	28 37.8	0 0.0	5 6.8	12 16.2	2 2.7	0 0.0	1 1.4
その他	9 100.0	5 55.6	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0

「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を「知っている」と回答した人では、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」が36.8%で最も多く、次いで「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」(29.9%)、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」(12.3%)という順であった。

「知っている」と回答した人で、「全体」や他の回答者と比較して相対的に割合が高かったのは、「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」（「全体」と比較して6.7ポイントの差）、「臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師」（6.1ポイントの差）であった。

図表 80 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ
（「総合診療医」の認知度別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
知っている	709 100.0	261 36.8	45 6.3	19 2.7	212 29.9	11 1.6	51 7.2	87 12.3	12 1.7	6 0.8	5 0.7
聞いたことはあるが、よく知らない	1,734 100.0	546 31.5	168 9.7	57 3.3	697 40.2	19 1.1	80 4.6	105 6.1	32 1.8	22 1.3	8 0.5
知らない	1,685 100.0	435 25.8	193 11.5	49 2.9	744 44.2	6 0.4	67 4.0	62 3.7	40 2.4	58 3.4	31 1.8

望ましい受診の仕組み別にみると、「自分で判断して受診する仕組み」が望ましいと考えている人、「かかりつけの医師に紹介してもらおう仕組み」が望ましいと考えている人のいずれも「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」の割合が最も高く、次いで「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」であった。

図表 81 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ
（望ましい受診の仕組み別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診療してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
自分で判断して受診する仕組み	1,555 100.0	494 31.8	163 10.5	74 4.8	601 38.6	13 0.8	69 4.4	63 4.1	23 1.5	37 2.4	18 1.2
かかりつけの医師に紹介してもらおう仕組み	2,573 100.0	748 29.1	243 9.4	51 2.0	1,052 40.9	23 0.9	129 5.0	191 7.4	61 2.4	49 1.9	26 1.0

かかりつけの医師がいる人について、現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別にみると、「あてはまる」と回答した人、「あてはまらない」と回答した人のいずれも「いろいろな病気を総合的に診てくれる医師」の割合が最も高く、次いで「大きな病院でどこの診療科に行けばよいか最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）」であった。

図表 82 「総合診療医」という言葉の最も強いイメージ（かかりつけの医師がいる人）
（現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別）（単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	大きな病院でどこの診療科に行けばよいか、最初に診てくれる医師（その後の診断・治療はしない）	特定の専門分野を持たない医師	内科の医師	いろいろな病気を総合的に診てくれる医師	救急診療で速やかに診察してくれる医師	診断が難しい時に、適切に診断してくれる医師	臓器別ではなく様々な疾患・状態・治療方法等について幅広く知識をもつ医師	患者の生活状況や家族のことも知っていて、何でも相談できる医師	患者や家族に寄り添って、外来診療に加えて在宅医療・往診をしてくれる医師	その他
全体	4,128 100.0	1,242 30.1	406 9.8	125 3.0	1,653 40.0	36 0.9	198 4.8	254 6.2	84 2.0	86 2.1	44 1.1
あてはまる	651 100.0	218 33.5	54 8.3	28 4.3	258 39.6	5 0.8	25 3.8	43 6.6	11 1.7	6 0.9	3 0.5
あてはまらない	804 100.0	250 31.1	75 9.3	20 2.5	295 36.7	9 1.1	50 6.2	72 9.0	14 1.7	14 1.7	5 0.6
わからない	207 100.0	58 28.0	12 5.8	3 1.4	94 45.4	1 0.5	11 5.3	20 9.7	1 0.5	2 1.0	5 2.4

4. 総合診療専門医に対する受診意向等

本調査では、「総合診療専門医」について、以下の説明を行った後、回答者に各設問に回答していただいた。

総合診療専門医とは下記のような医師です。

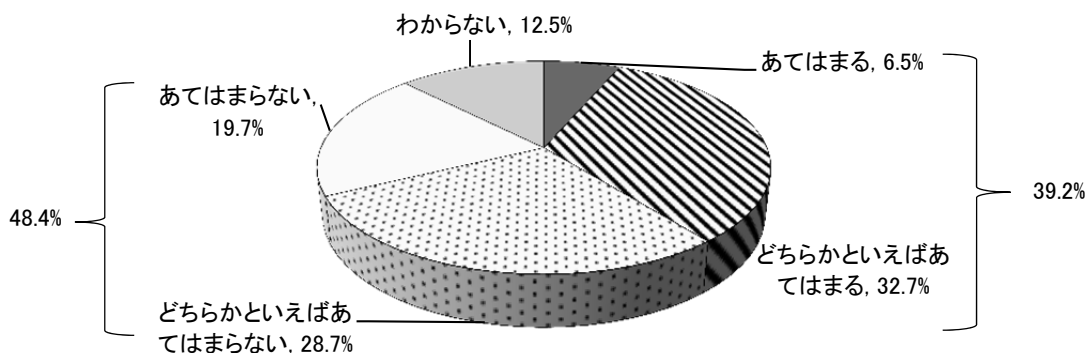
総合診療専門医は日頃よく発症する症状や病気のほとんどについて診療科の垣根を越えて適切に診療するための訓練を受け、その能力を認められた専門医です。看護師や薬剤師などの多職種と連携しながら、例えば、通院できない方には在宅医療、がんなどで終末期医療が必要な方には緩和ケアなど、幅広い健康問題について多様な医療を地域の必要に応じて柔軟に提供できます。また、地域の一般住民に対しては、健康講話などの健康を高めるための活動や、健康診断・予防接種などの予防医療を提供して地域全体が一層健康であり続けられるように貢献します。

また、「総合診療専門医」と比較するうえで、循環器内科、呼吸器科、耳鼻いんこう科、皮膚科、眼科、外科などの特定の診療科領域を専門とする医師を「領域別専門医」という表現を用いた。

(1) かかりつけの医師の状況等

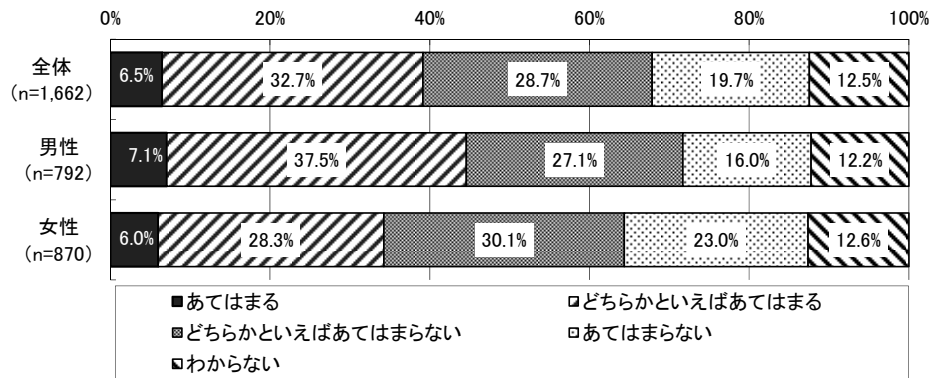
かかりつけの医師がいる人 1,662 人に対して、かかりつけの医師が前述の「総合診療専門医」の定義にあてはまるかどうかを尋ねたところ、「あてはまる」が 6.5%、「どちらかといえばあてはまる」が 32.7%で両者を合わせた割合は 39.2%であった。一方、「どちらかといえばあてはまらない」が 28.7%、「あてはまらない」が 19.7%であり、両者を合わせると 48.4%で、あてはまらないという回答の方が多かった。この他、「わからない」という回答が 12.5%あった。

図表 83 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (n=1,662)



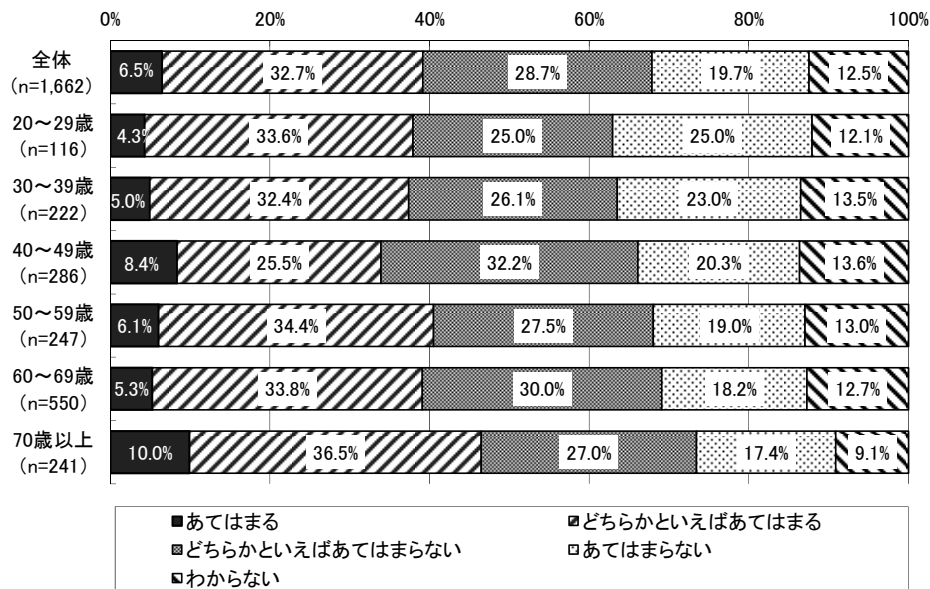
男女別にみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合は、男性では44.6%、女性では34.3%となっており、男性の方が女性と比較して10.3ポイント高かった。

図表 84 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (男女別)



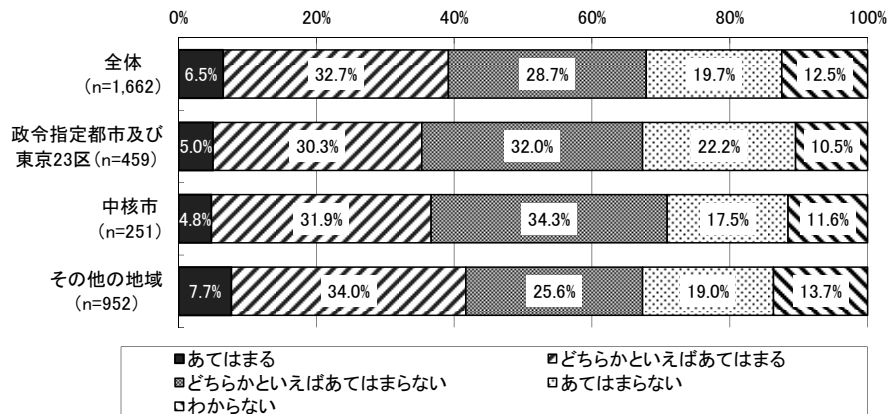
年齢階級別にみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合は、70歳以上では46.5%となっており、「全体」や他の年齢階級と比較して高かった。一方、40～49歳ではこの割合は33.9%となっており、「全体」や他の年齢階級と比較して低かった。

図表 85 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (年齢階級別)



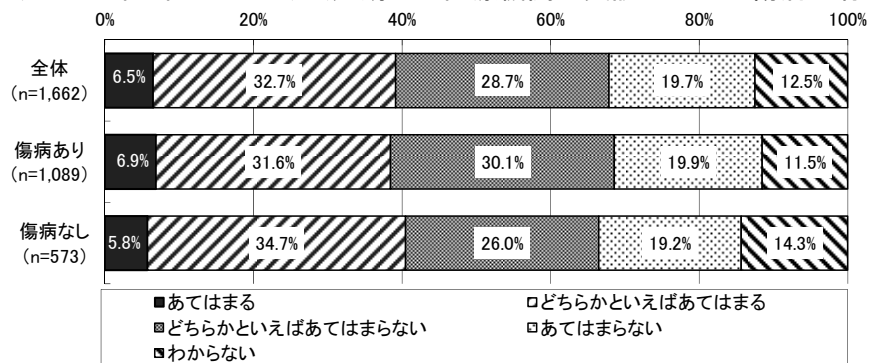
地域区分別にみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合は、政令指定都市及び東京23区では35.3%、中核市では36.7%、その他の地域では41.7%であった。政令指定都市及び東京23区、中核市では「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」の合計割合が5割を超えている。

図表 86 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (地域区分別)



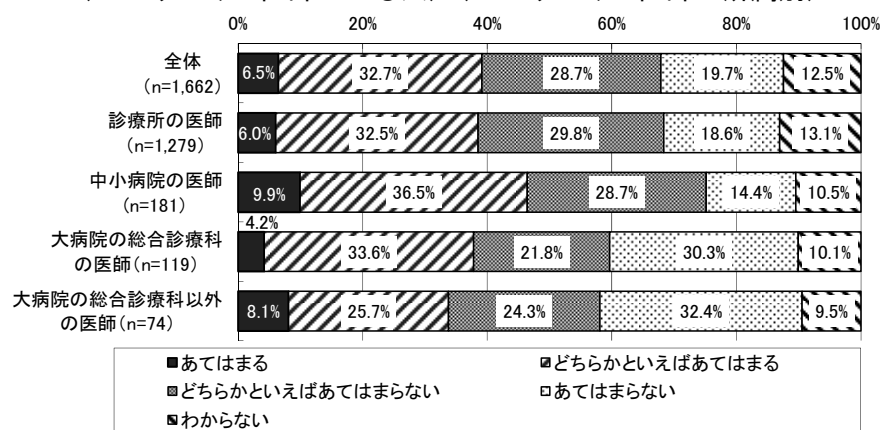
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病がある人では「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」の合計割合が50.0%であった。

図表 87 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (定期的に医療機関に受診している傷病の有無別)



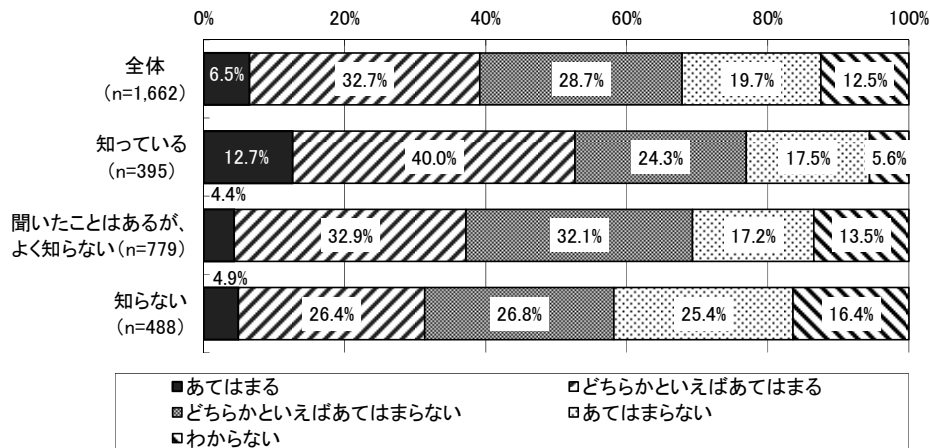
かかりつけの医師の所属別にみると、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」の合計割合は、中小病院の医師で46.4%と最も高かった。

図表 88 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (かかりつけの医師の所属別)



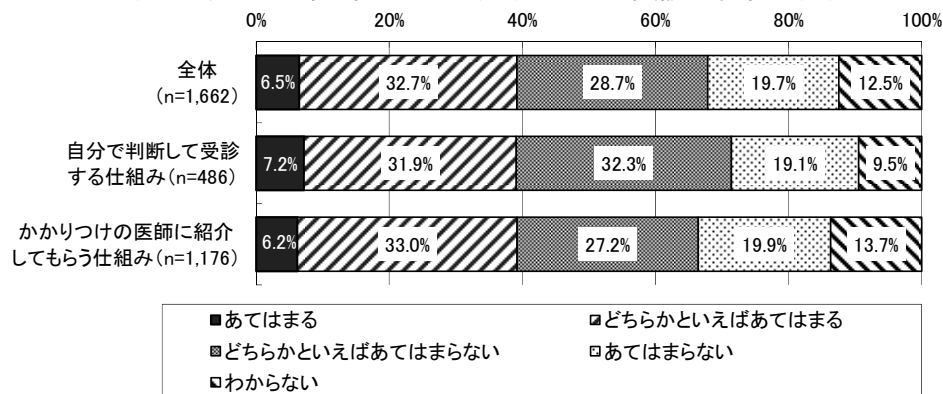
「総合診療医」（※総合診療専門医ではない）の認知度別にみると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合は、総合診療医を知っている人では 52.7%となっており、「全体」や他と比較して高かった。

図表 89 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (「総合診療医」の認知度別)



望ましい受診の仕組み別にみると、「自分で判断して受診する仕組み」を望ましいと考えている人では「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」の合計割合が 5割を超えており、「かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み」を望ましいと考えている人と比較して 4.3 ポイント高かった。

図表 90 かかりつけの医師は総合診療専門医の定義にあてはまるか
(かかりつけの医師がいる人) (望ましい受診の仕組み別)

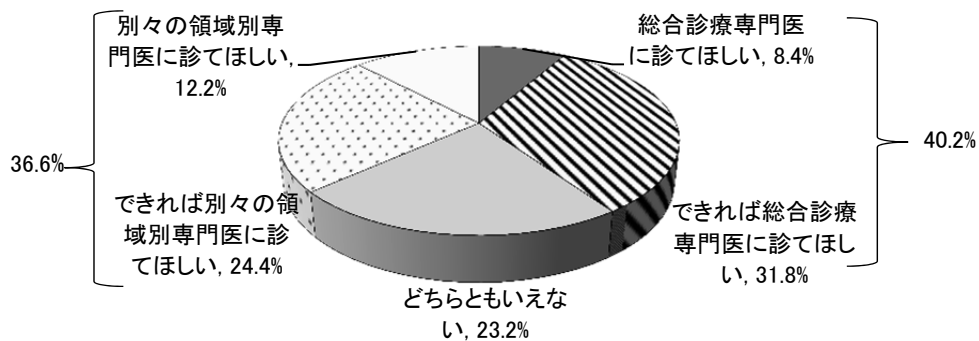


(2) 総合診療専門医に対する受診意向

① 複数の病気にかかった時の受診意向

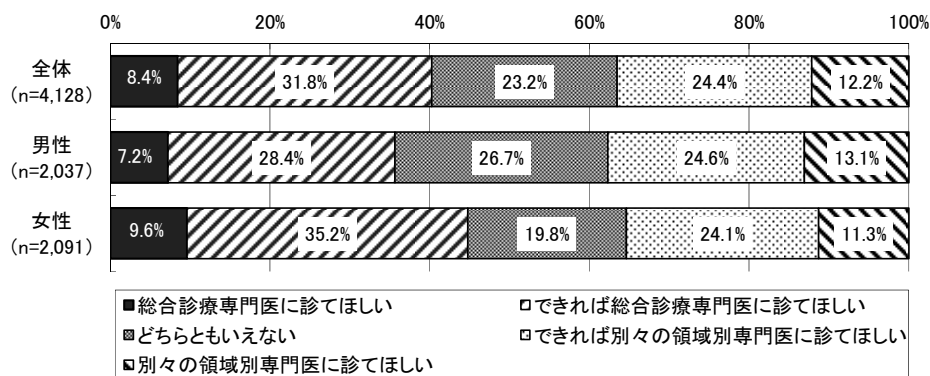
複数の病気にかかった時の受診意向をみると、「できれば総合診療専門医に診てほしい」が31.8%で最も多く、これに「総合診療専門医に診てほしい」を合わせると40.2%となり、「別々の領域別専門医に診てほしい」(12.2%)、「できれば別々の領域別専門医に診てほしい」(24.4%)を合わせた割合(36.6%)を上回っている。

図表 91 複数の病気にかかった時の受診意向 (n=4, 128)



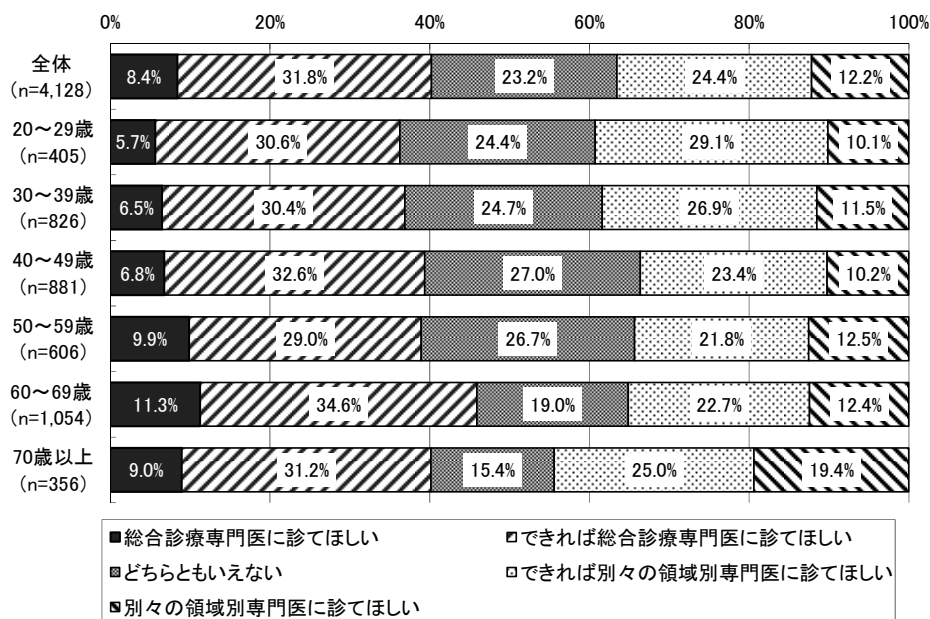
男女別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、男性では35.6%、女性では44.8%であり、女性の方が男性と比較して9.2ポイント高かった。

図表 92 複数の病気にかかった時の受診意向 (男女別)



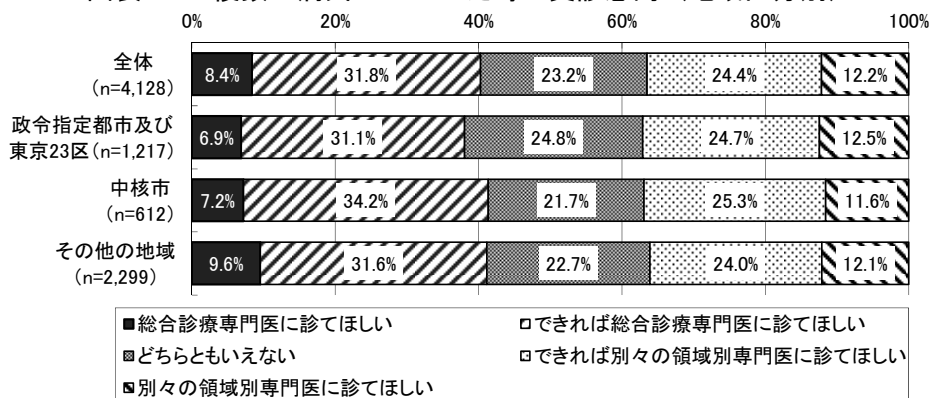
年齢階級別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、60～69歳では45.9%となっており、「全体」や他の年齢階級と比較して高かった。一方、70歳以上では「別々の領域別専門医に診てほしい」の割合が19.4%で「全体」や他の年齢階級と比較して高かった。

図表 93 複数の病気にかかった時の受診意向（年齢階級別）



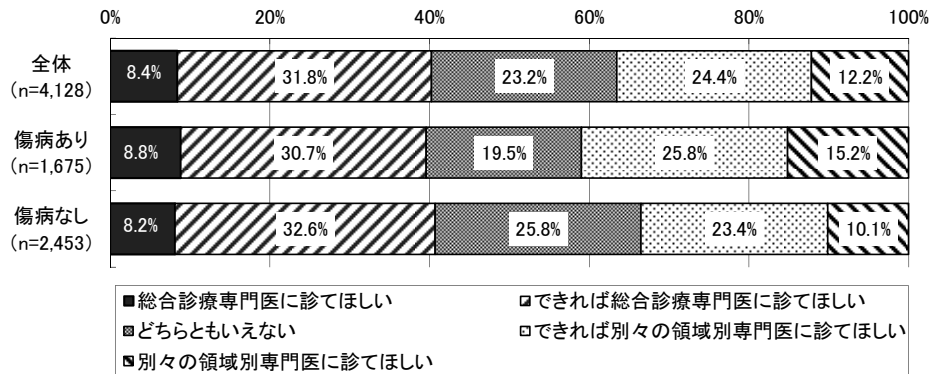
地域区分別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、すべての地域で「別々の領域別専門医に診てほしい」と「できれば別々の領域別専門医に診てほしい」の合計割合よりも上回った。

図表 94 複数の病気にかかった時の受診意向（地域区分別）



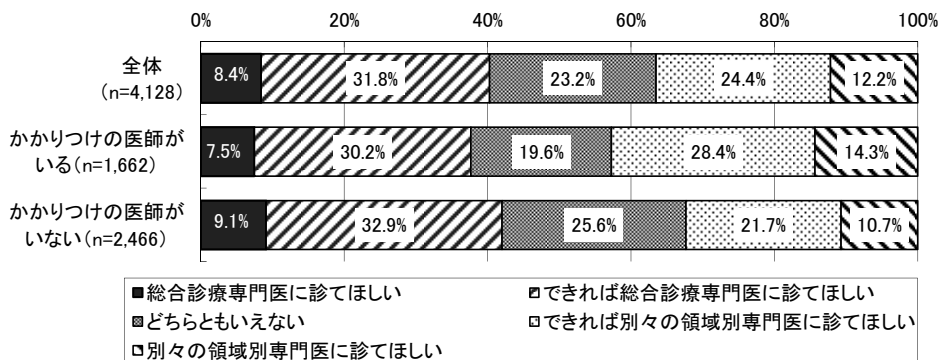
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、傷病の有無で大きな差異はみられないが、「別々の領域別専門医に診てほしい」と「できれば別々の領域別専門医に診てほしい」の合計割合については、傷病ありの人では 41.0%であるのに対し、傷病なしの人では 33.5%となり、傷病ありのほうが 7.5 ポイント高かった。

図表 95 複数の病気にかかった時の受診意向
(定期的に医療機関に受診している傷病の有無別)



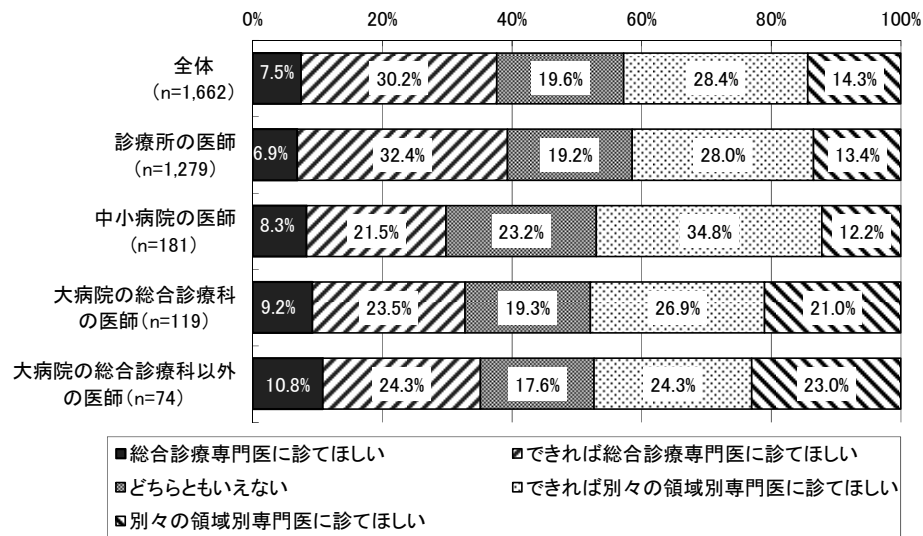
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人では「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が37.7%で、「別々の領域別専門医に診てほしい」と「できれば別々の領域別専門医に診てほしい」の合計割合が42.7%で、領域別専門医に診てほしいの方が割合が高かった。これに対し、かかりつけの医師がいない人では、総合診療専門医に診てほしいという回答が42.0%、領域別専門医に診てほしいが32.4%となっており、総合診療専門医に診てほしい人の割合が高かった。

図表 96 複数の病気にかかった時の受診意向 (かかりつけの医師の有無別)



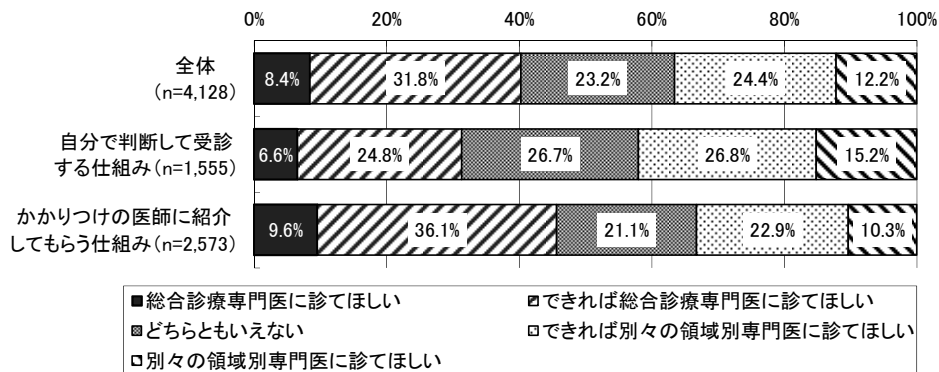
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、診療所の医師（をかかりつけの医師としている人）で39.3%と最も高く、中小病院の医師で29.8%と最も低かった。また、「別々の領域別専門医に診てほしい」と「できれば別々の領域別専門医に診てほしい」の合計割合は、大病院の総合診療科の医師で47.9%、大病院の総合診療科以外の医師で47.3%、中小病院の医師で47.0%となっており、診療所の医師が41.4%で最も低かった。

図表 97 複数の病気にかかった時の受診意向（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）



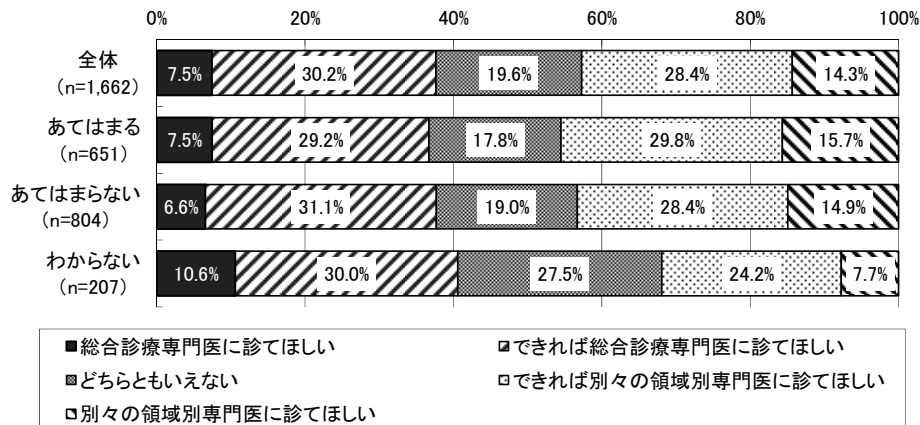
望ましい受診の仕組み別にみると、「かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み」を望ましいと考えている人では「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は45.7%と半数近くを占め、「自分で判断して受診する仕組み」を望ましいと考えている人（31.4%）と比較して14.3ポイント高かった。

図表 98 複数の病気にかかった時の受診意向（望ましい受診の仕組み別）



かかりつけの医師がいる人について、現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」と「できれば総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、「あてはまる」と回答した人（36.7%）と、「あてはまらない」と回答した人（37.7%）とでは大きな差異がみられなかった。

図表 99 複数の病気にかかった時の受診意向（かかりつけの医師がいる人）
（現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別）

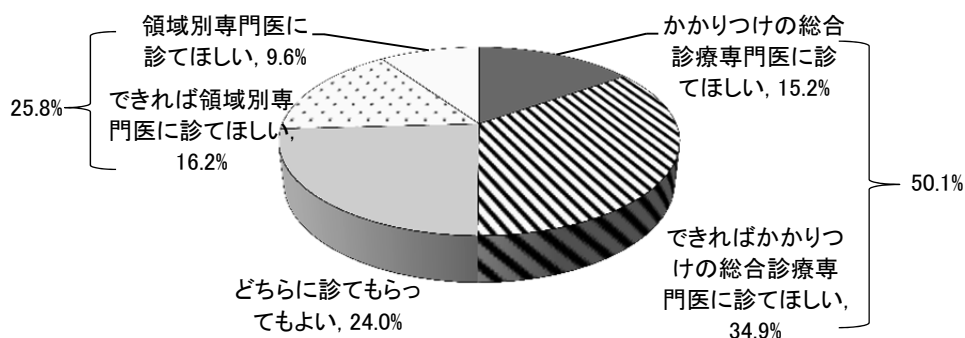


②子どもが風邪をひいた時の受診意向

同居している15歳以下の子どもがいる人に対して、子どもが風邪をひいた時の受診意向を尋ねたところ、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が34.9%で最も多く、これに「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」を合わせた割合（以下、『総合診療専門医に診てほしい』の合計割合）とする）は50.1%となった。

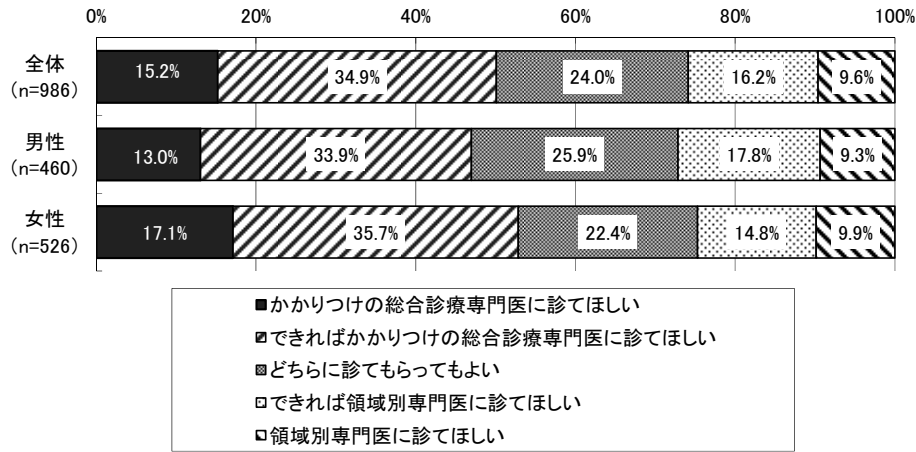
また、「領域別専門医に診てほしい」が9.6%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が16.2%で両者を合わせた割合（以下、『領域別専門医に診てほしい』の合計割合）とする）は25.8%であった。この他、「どちらに診てもらってもよい」が24.0%であった。

図表 100 子どもが風邪をひいた時の受診意向
（同居している15歳以下の子どもがいる人）（n=986）



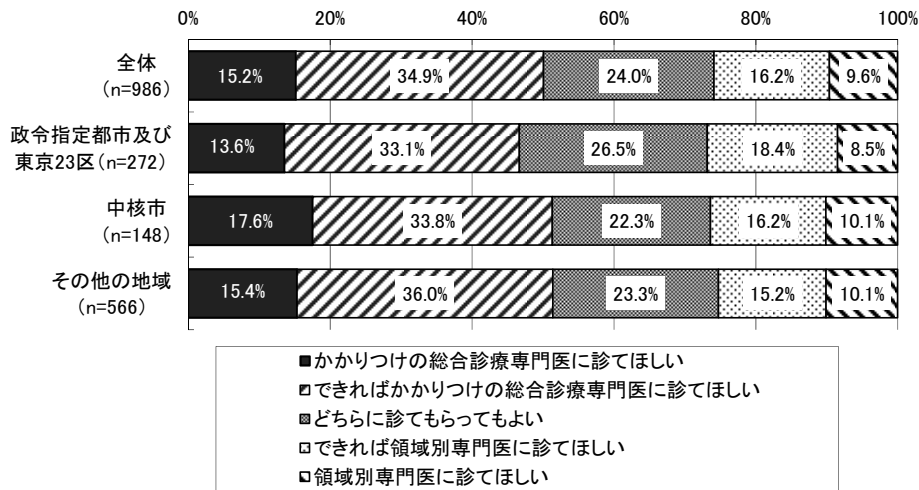
男女別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、男性では46.9%、女性では52.8%であった。

図表 101 子どもが風邪をひいた時の受診意向
(同居している15歳以下の子どもがいる人)(男女別)



地域区分別にみると、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合は、政令指定都市及び東京23区では46.7%で「全体」や他と比較してやや低く、「どちらに診てもらってもよい」が26.5%で「全体」や他と比較して高かった。

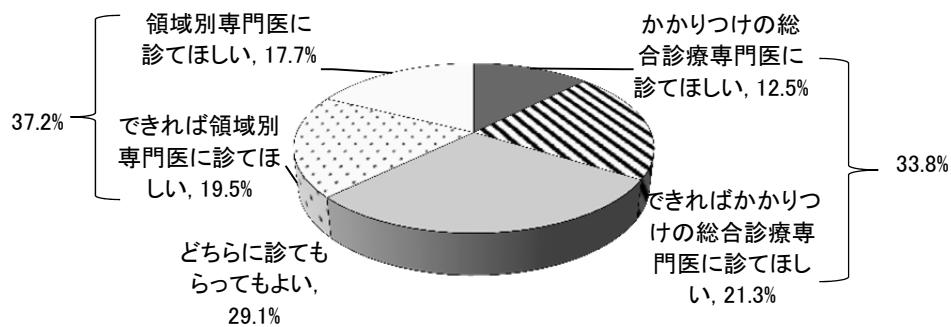
図表 102 子どもが風邪をひいた時の受診意向
(同居している15歳以下の子どもがいる人)(地域区分別)



③包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向

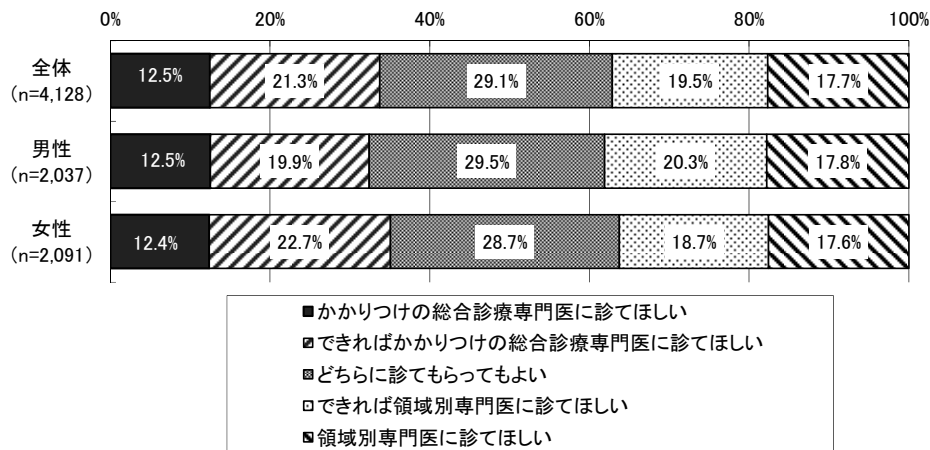
包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向をみると、「どちらに診てもらってもよい」が29.1%で最も多かった。また、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が12.5%、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が21.3%で、両者を合わせると33.8%であった。一方、「領域別専門医に診てほしい」が17.7%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が19.5%で、両者を合わせた割合は37.2%であった。

図表 103 包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向 (n=4, 128)



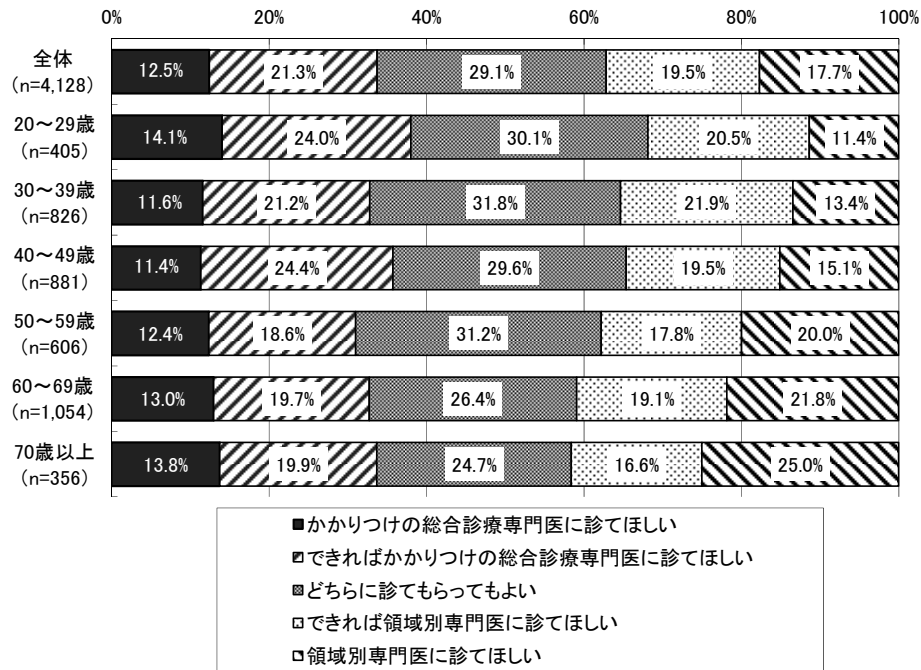
男女別にみると、女性の方が男性と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が2.7ポイント高かった。

図表 104 包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向 (男女別)



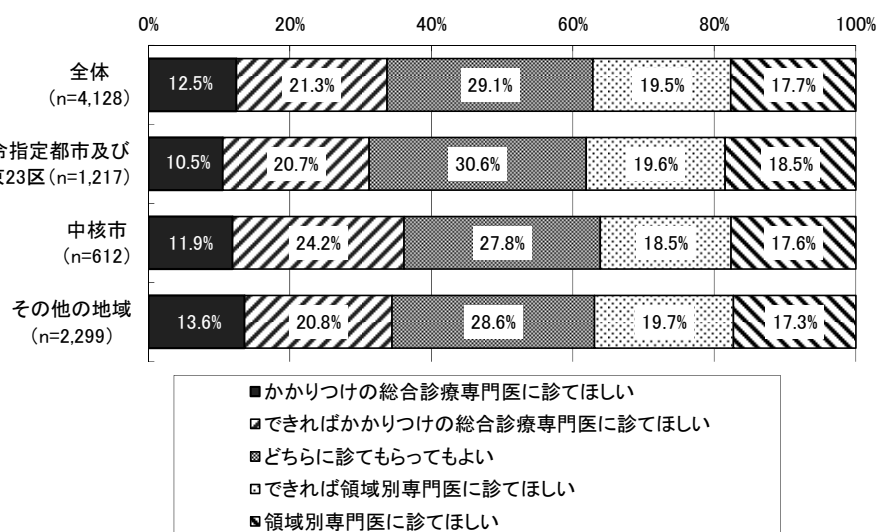
年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「領域別専門医に診てほしい」の割合が高くなっている。

図表 105 包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向（年齢階級別）



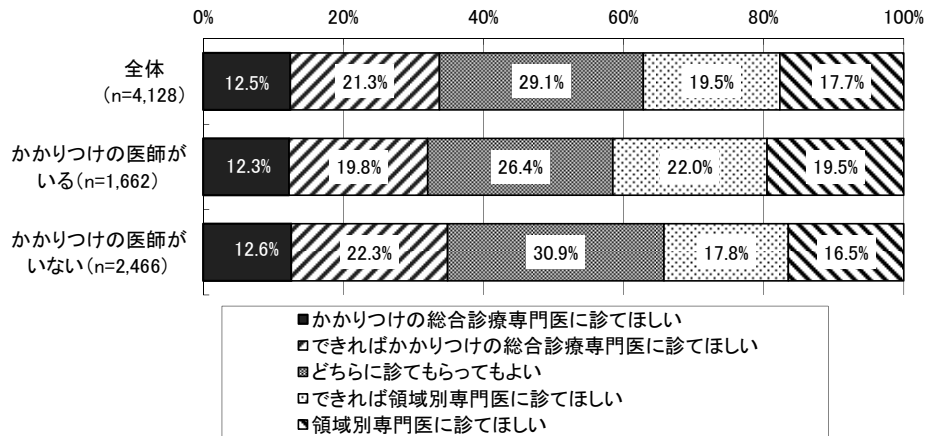
地域区分別にみると、政令指定都市及び東京 23 区では「全体」や他と比較して、「どちらに診てもらってもよい」の割合が高かった。中核市では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合と「領域別専門医に診てほしい」の合計割合がいずれも 36.1%と同じ割合であった。

図表 106 包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向（地域区分別）



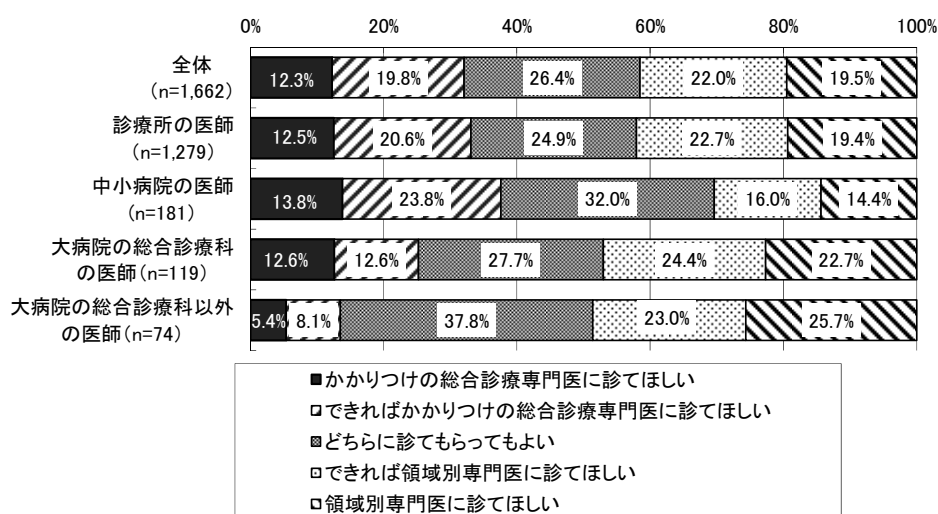
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいない人ではいる人と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合や、「どちらに診てもらってもよい」の割合が高かった。

図表 107 包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向
(かかりつけの医師の有無別)



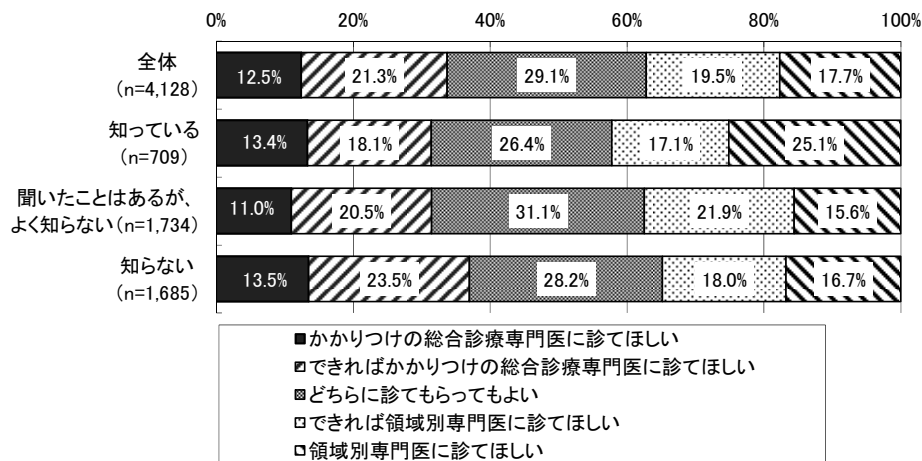
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科以外の医師（をかかりつけの医師としている人）では「どちらに診てもらってもよい」が4割近くを占めた。中小病院の医師（をかかりつけの医師としている人）では、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が「全体」や他と比較して高く、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が低かった。

図表 108 包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向
(かかりつけの医師がいる人) (かかりつけの医師の所属別)



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知らない人では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が「全体」や他と比較して高かった。

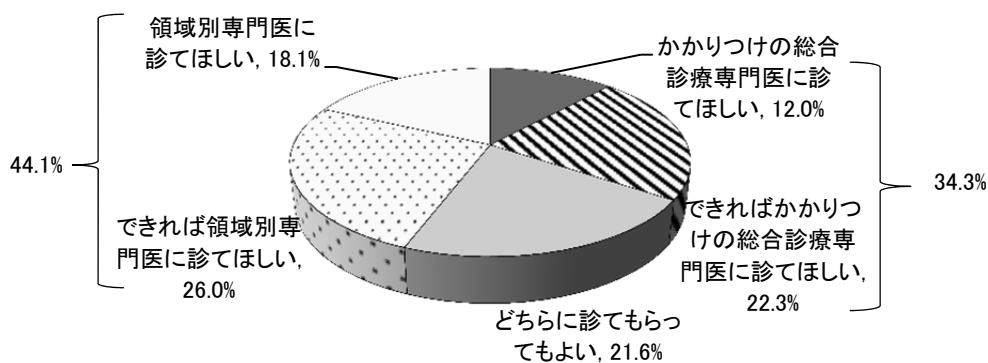
図表 109 包丁で手を切ったり、転んでヒザをすりむいたりした時の受診意向（「総合診療医」の認知度別）



④かゆみのある発疹が出ている時の受診意向

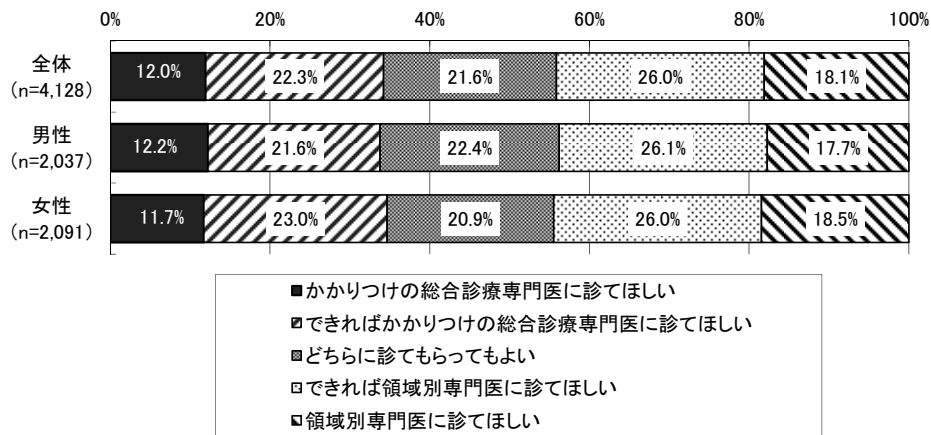
かゆみのある発疹が出ている時の受診意向をみると、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が 12.0%、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が 22.3%で、両者を合わせると 34.3%であった。一方、「領域別専門医に診てほしい」が 18.1%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が 26.0%で、両者を合わせた割合は 44.1%であった。また、「どちらに診てもらってもよい」が 21.6%であった。

図表 110 かゆみのある発疹が出ている時の受診意向 (n=4, 128)



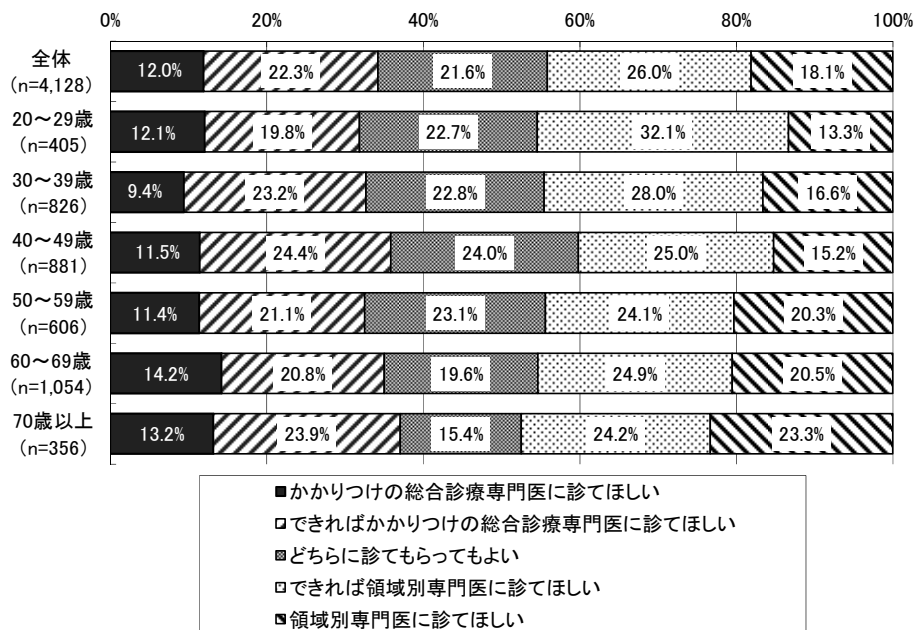
男女別にみると、男女による大きな差異はみられなかった。

図表 111 かゆみのある発疹が出ている時の受診意向（男女別）



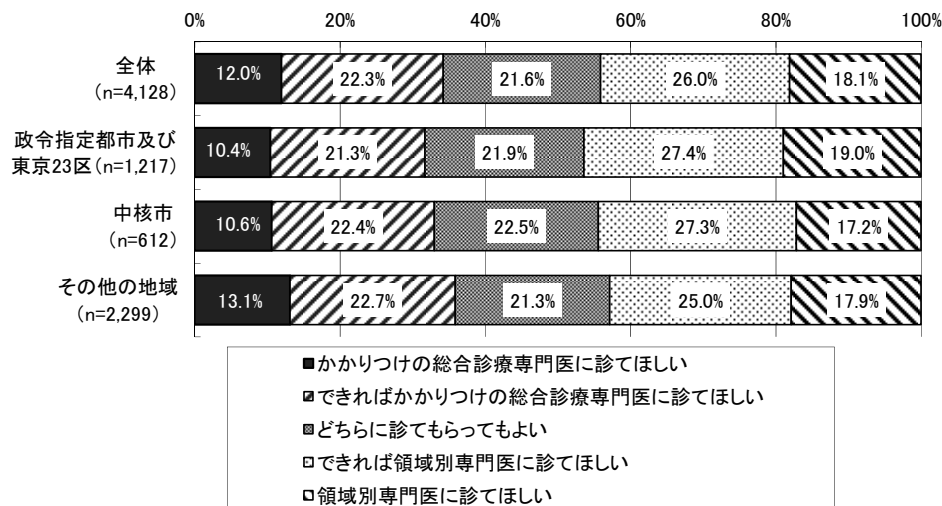
年齢階級別にみると、50歳以上の各年齢階級では「領域別専門医に診てほしい」がおよそ2割を占め、「全体」や50歳未満の各年齢階級と比較して割合が高かった。

図表 112 かゆみのある発疹が出ている時の受診意向（年齢階級別）



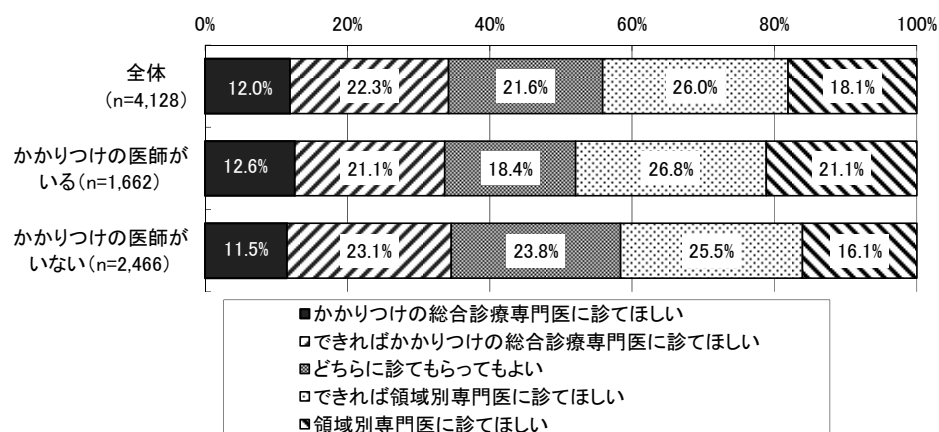
地域区別にみると、政令指定都市及び東京 23 区では、「全体」や他と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合がやや低く、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合がやや高かった。

図表 113 かゆみのある発疹が出ている時の受診意向（地域区分別）



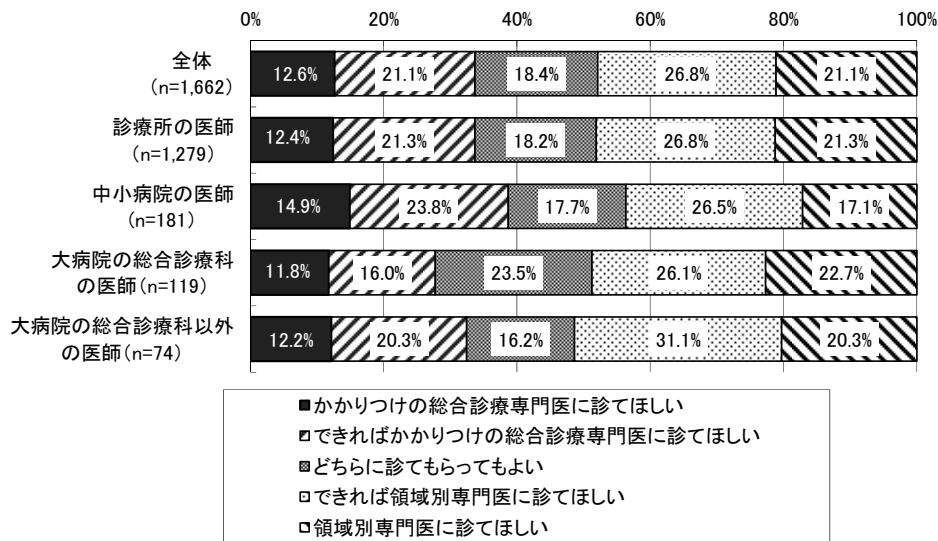
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して、「どちらに診てもらってもよい」の割合が低く、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

図表 114 かゆみのある発疹が出ている時の受診意向（かかりつけの医師の有無別）



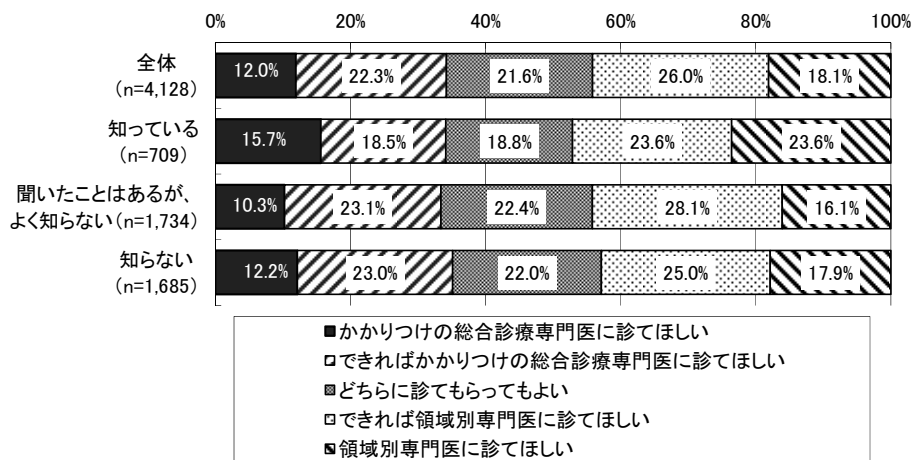
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、中小病院の医師（をかかりつけの医師としている人）では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が「全体」や他と比較して高かった。

図表 115 かゆみのある発疹が出ている時の受診意向（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知っている人では「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の割合が「全体」や他と比較して高かった。

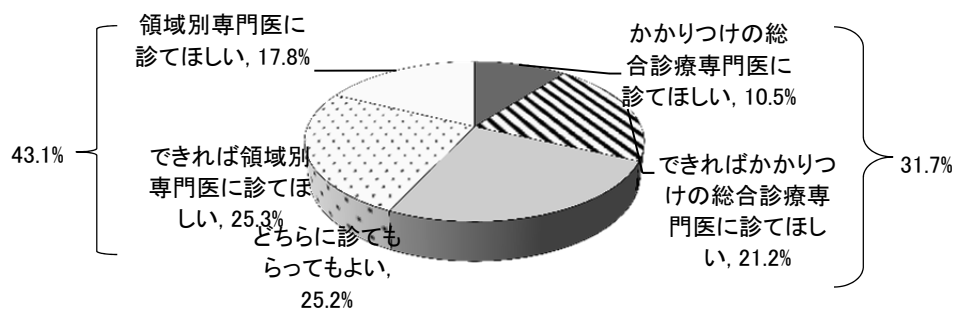
図表 116 かゆみのある発疹が出ている時の受診意向（「総合診療医」の認知度別）



⑤肩が痛い時の受診意向

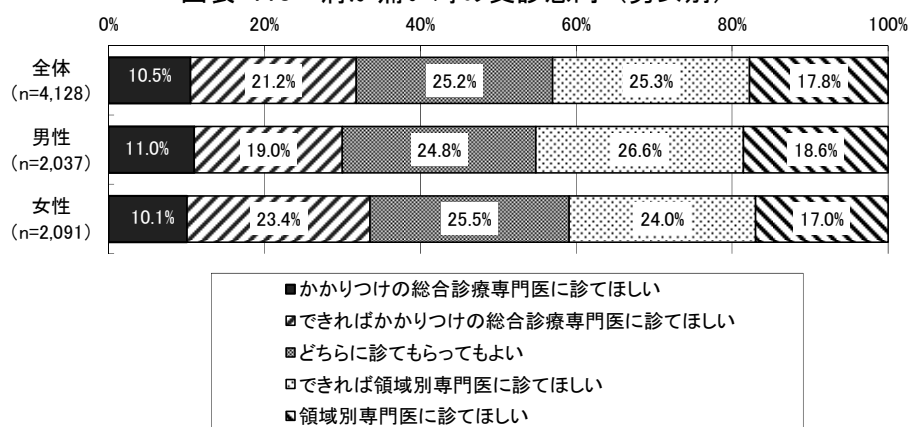
肩が痛い時の受診意向をみると、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が 10.5%、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が 21.2%で、両者を合わせると 31.7%であった。一方、「領域別専門医に診てほしい」が 17.8%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が 25.3%で、両者を合わせた割合は 43.1%であった。また、「どちらに診てもらってもよい」が 25.2%であった。

図表 117 肩が痛い時の受診意向 (n=4,128)



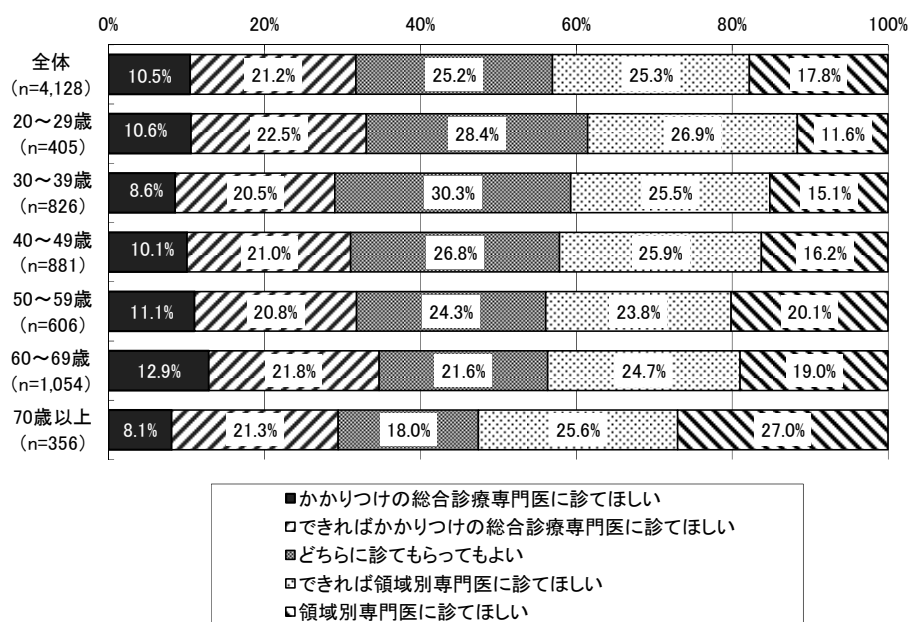
男女別にみると、女性の方が男性と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合がやや高かった。

図表 118 肩が痛い時の受診意向 (男女別)



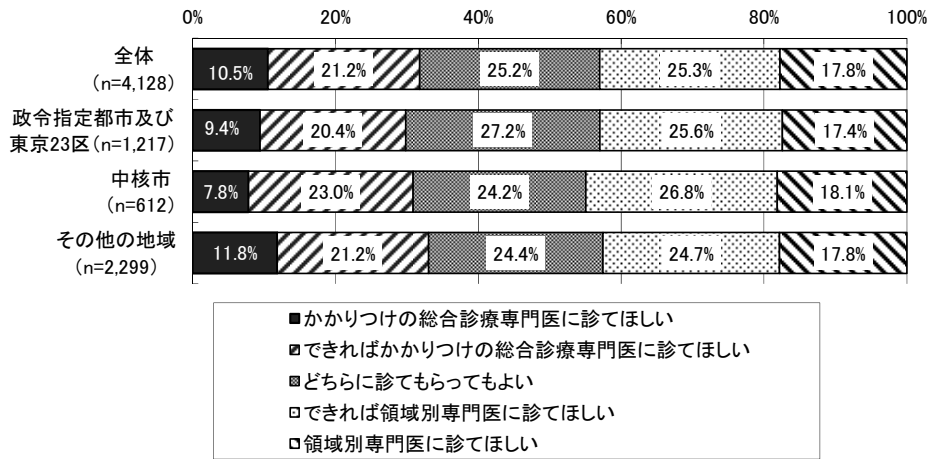
年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が高くなる傾向がみられた。

図表 119 肩が痛い時の受診意向 (年齢階級別)



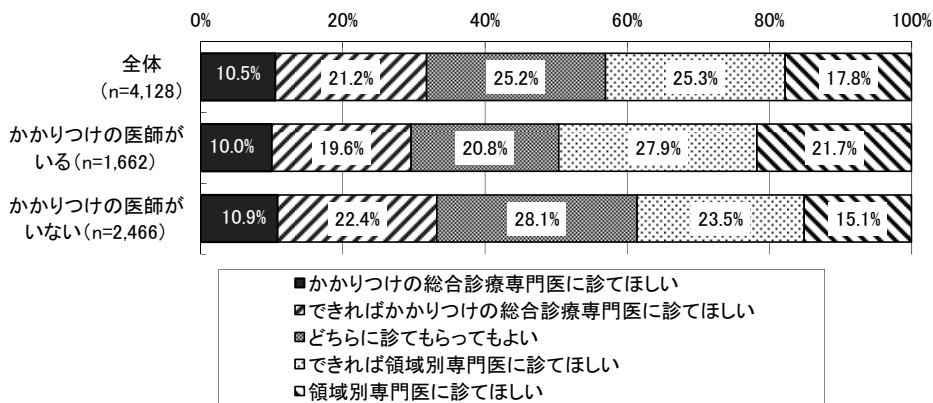
地域区別にみると、中核市では「全体」や他と比較して、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の割合がやや低く、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合がやや高かった。

図表 120 肩が痛い時の受診意向（地域区分別）



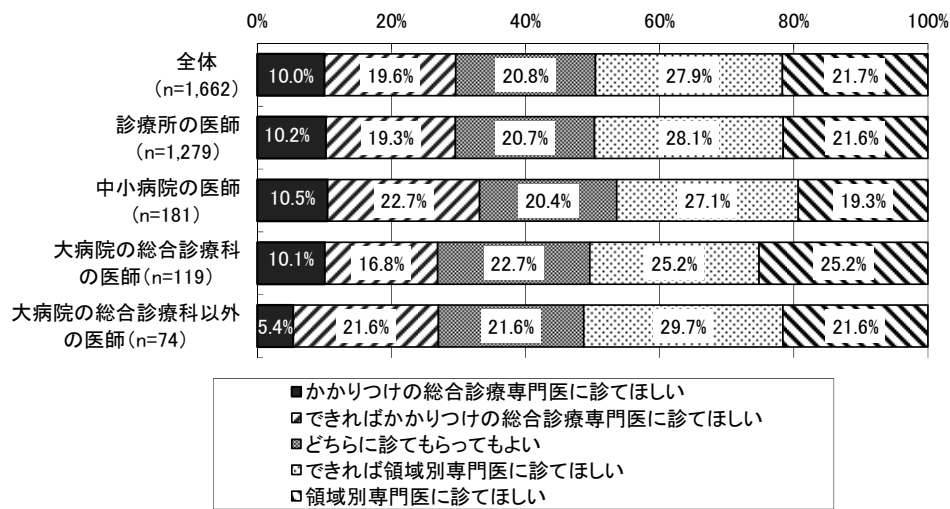
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して、「どちらに診てもらってもよい」の割合が低く、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

図表 121 肩が痛い時の受診意向（かかりつけの医師の有無別）



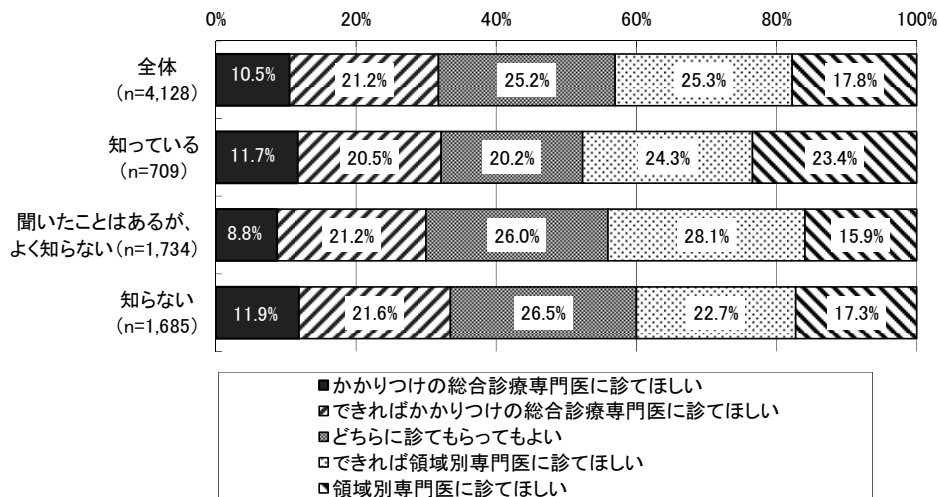
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、中小病院の医師では、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が「全体」や他と比較して高かった。大病院の医師では「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が5割程度となっている。

図表 122 肩が痛い時の受診意向（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知っている人では「全体」や他と比較して、「どちらに診てもらってもよい」の割合が低く、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合がやや高かった。

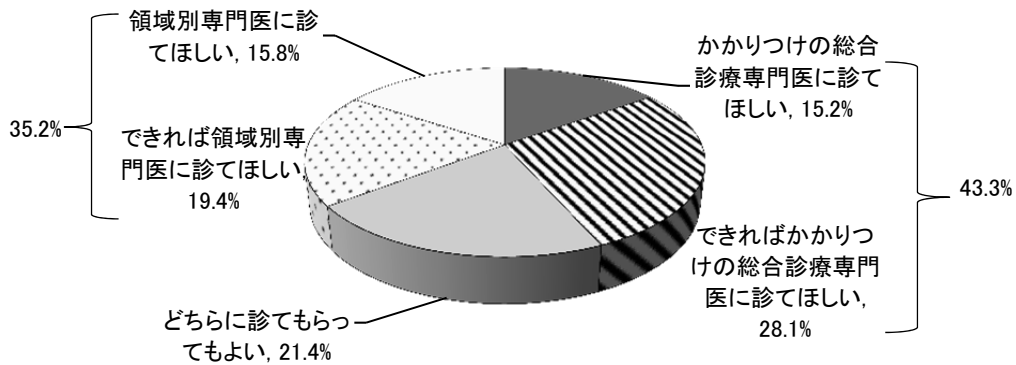
図表 123 肩が痛い時の受診意向（「総合診療医」の認知度別）



⑥めまいの時の受診意向

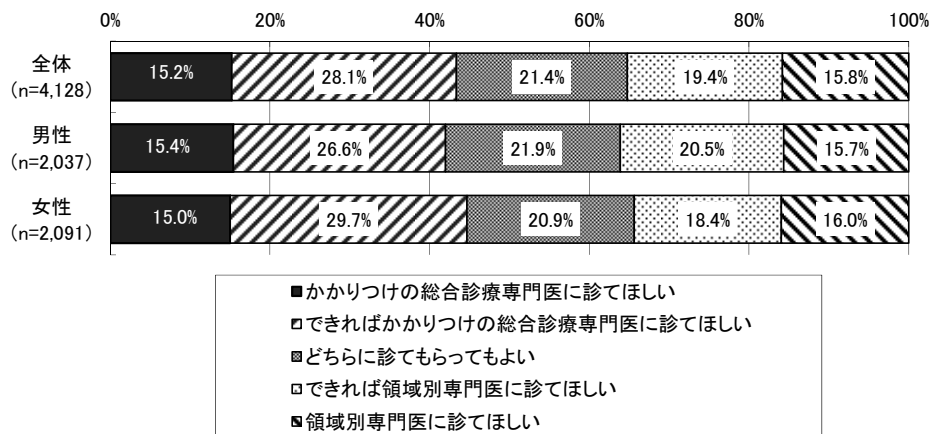
めまいの時の受診意向をみると、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が15.2%、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が28.1%で、両者を合わせると43.3%であった。一方、「領域別専門医に診てほしい」が15.8%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が19.4%で、両者を合わせた割合は35.2%であった。また、「どちらに診てもらってもよい」が21.4%であった。

図表 124 めまいの時の受診意向 (n=4,128)



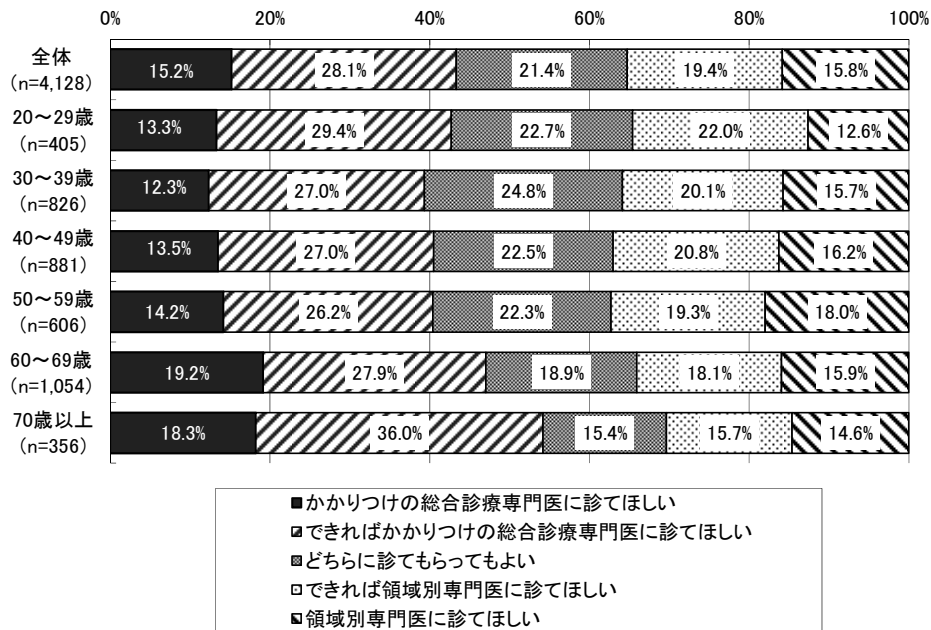
男女別にみると、女性の方が男性と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合がやや高かった。

図表 125 めまいの時の受診意向 (男女別)



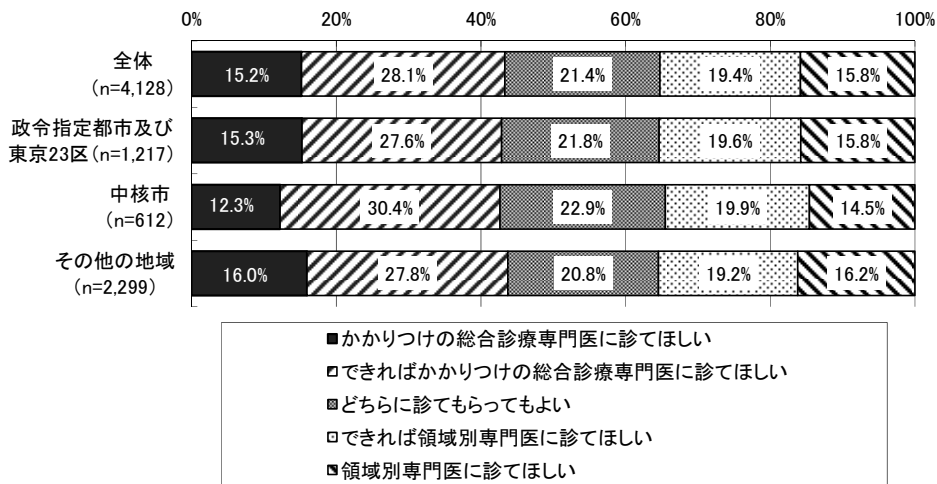
年齢階級別にみると、30歳以上では年齢階級が高くなるほど、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高くなる傾向がみられた。特に70歳以上ではこの割合が54.3%となっており、「全体」や他と比較して高かった。

図表 126 めまいの時の受診意向（年齢階級別）



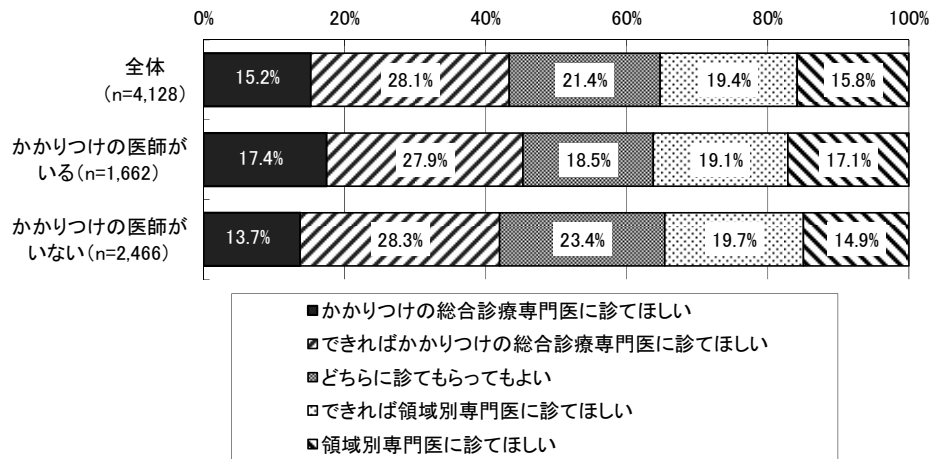
地域区分別にみると、中核市では「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の割合が「全体」や他と比較してやや低いものの、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」を合わせた割合では他の地域と大きな差異はみられなかった。

図表 127 めまいの時の受診意向（地域区分別）



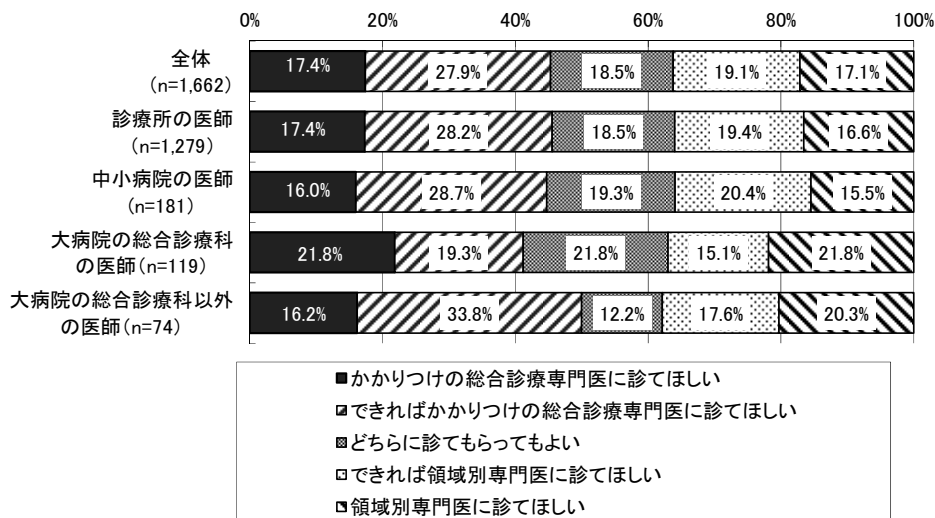
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して、「どちらに診てもらってもよい」の割合が低く、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

図表 128 めまいの時の受診意向（かかりつけの医師の有無別）



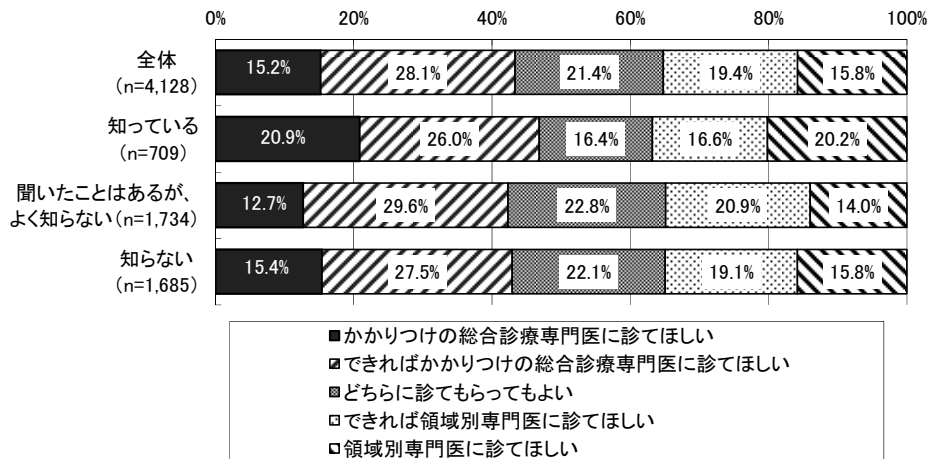
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科の医師（をかかりつけの医師としている人）では「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が 21.8%と「全体」や他と比較して高かった。また、大病院の総合診療科以外の医師では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が 50.0%で、「全体」や他と比較して高かった。

図表 129 めまいの時の受診意向（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知っている人では「全体」や他と比較して、「どちらに診てもらってもよい」の割合が低く、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

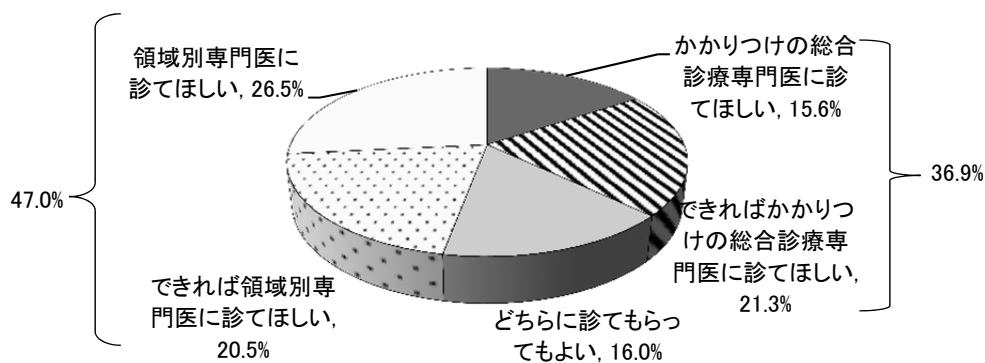
図表 130 めまいの時の受診意向（「総合診療医」の認知度別）



⑦ 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向

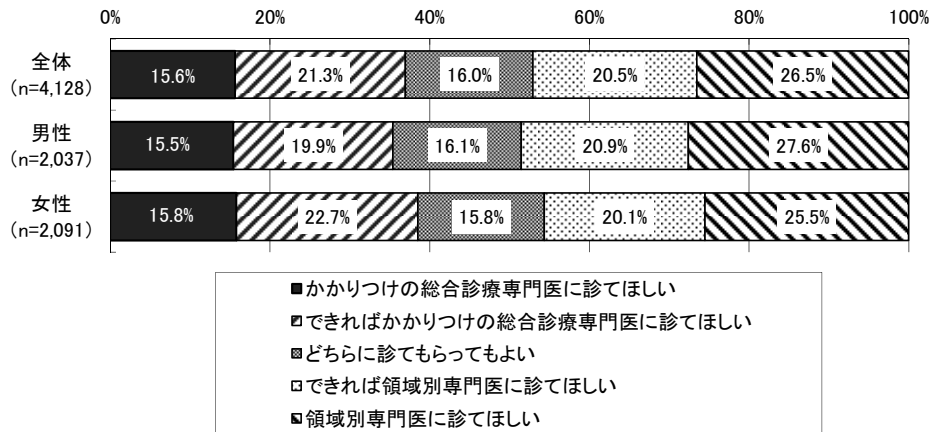
1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向をみると、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が15.6%、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が21.3%で、両者を合わせると36.9%であった。一方、「領域別専門医に診てほしい」が26.5%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が20.5%で、両者を合わせた割合は47.0%であった。また、「どちらに診てもらってもよい」が16.0%であった。

図表 131 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向 (n=4, 128)



男女別にみると、女性の方が男性と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

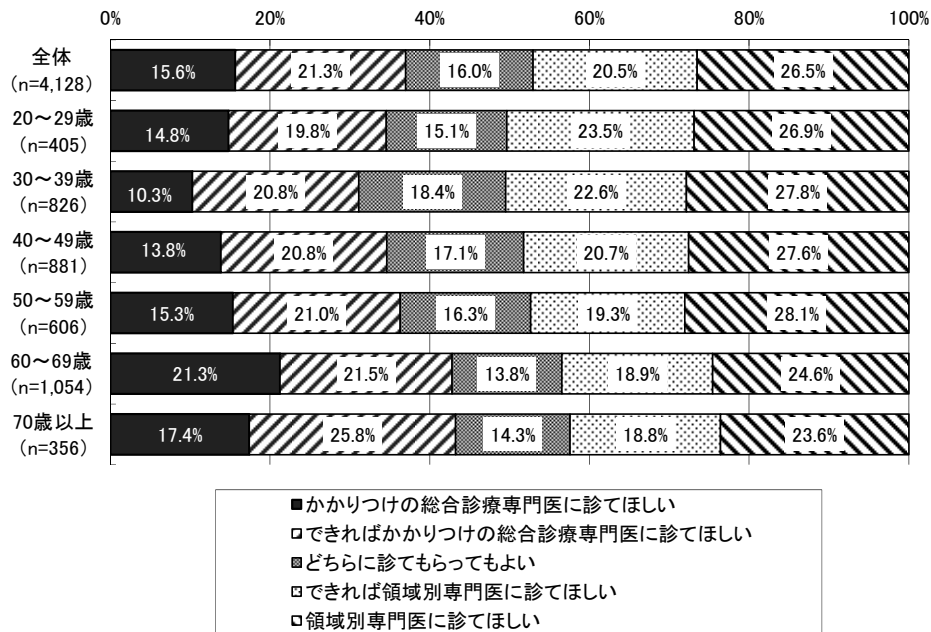
図表 132 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向（男女別）



年齢階級別にみると、60歳以上の年齢階級では「全体」や他と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

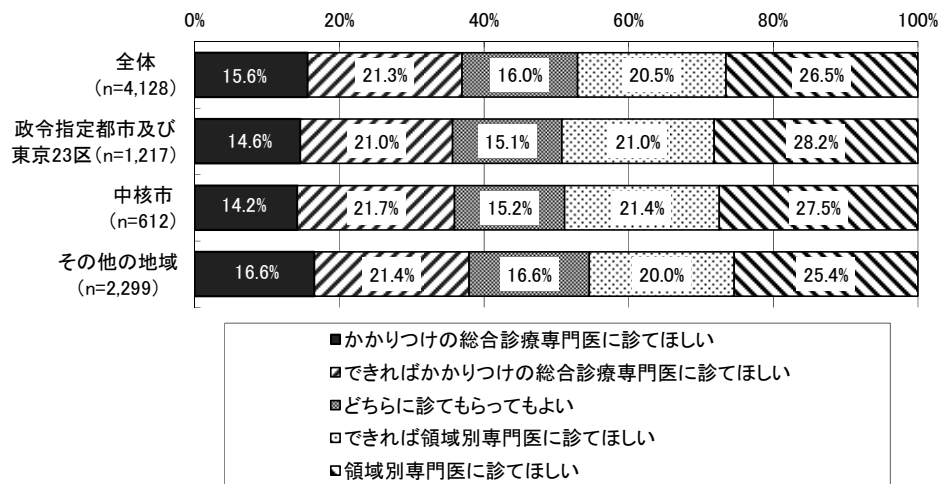
70歳未満の各年齢階級で最も多かったのは「領域別専門医に診てほしい」であった。

図表 133 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向（年齢階級別）



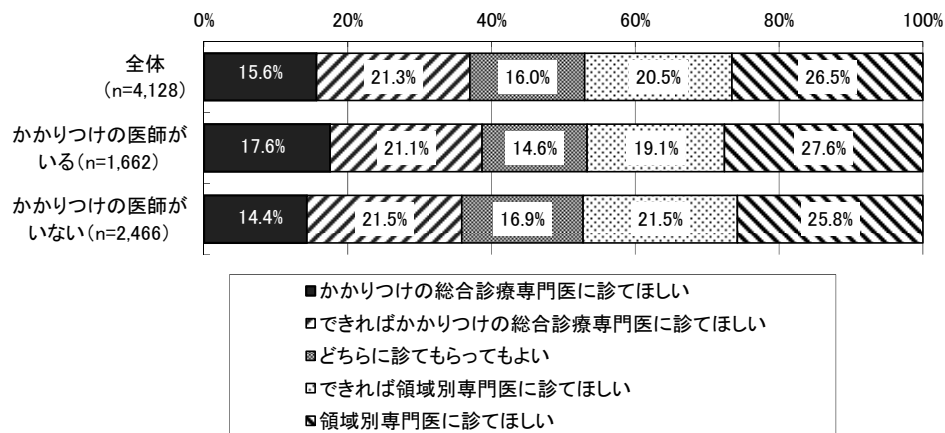
地域区分別にみると、いずれの地域でも「領域別専門医に診てほしい」が最も多かった。また、その他の地域では「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の割合が「全体」や他と比較してやや高かった。

図表 134 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向（地域区分別）



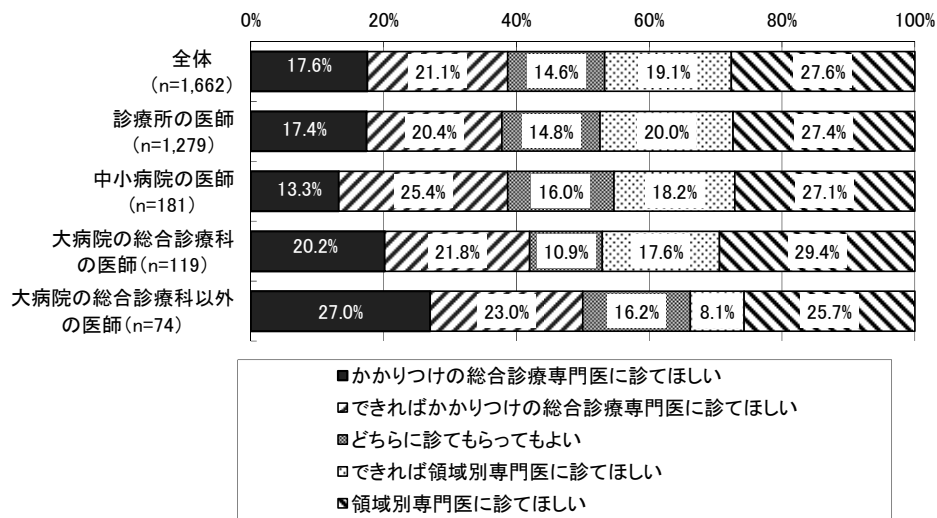
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して、「どちらに診てもらってもよい」の割合が低く、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合がやや高かった。一方で、かかりつけの医師がいる人では「領域別専門医に診てほしい」の割合も高かった。

図表 135 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向（かかりつけの医師の有無別）



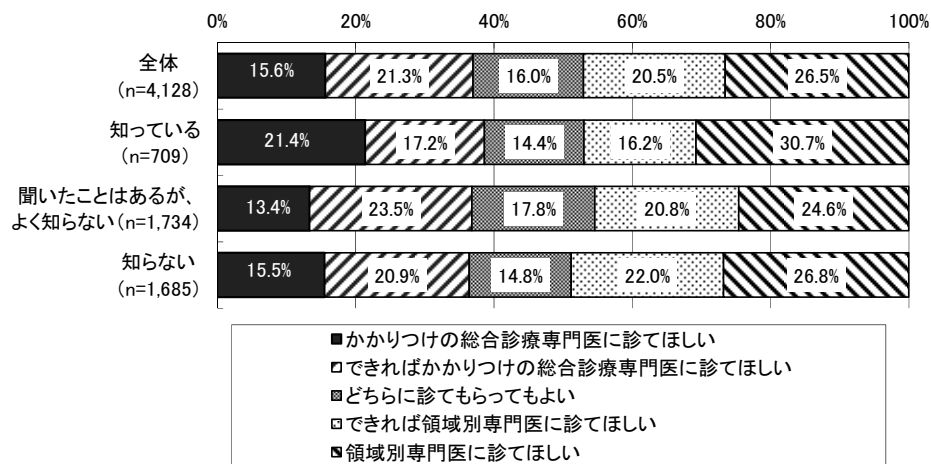
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科以外の医師（をかかりつけの医師としている人）では「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が27.0%と「全体」や他と比較して高かった。また、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が50.0%で、「全体」や他と比較して高かった。

図表 136 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向
(かかりつけの医師がいる人) (かかりつけの医師の所属別)



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知っている人では「全体」や他と比較して、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の割合が高い一方で、「領域別専門医に診てほしい」の割合も高かった。

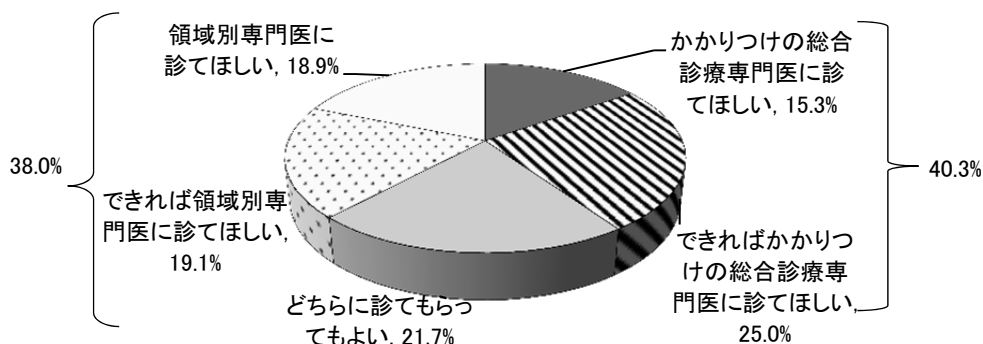
図表 137 1か月以上治らない咳が続いている時の受診意向
(「総合診療医」の認知度別)



⑧不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向

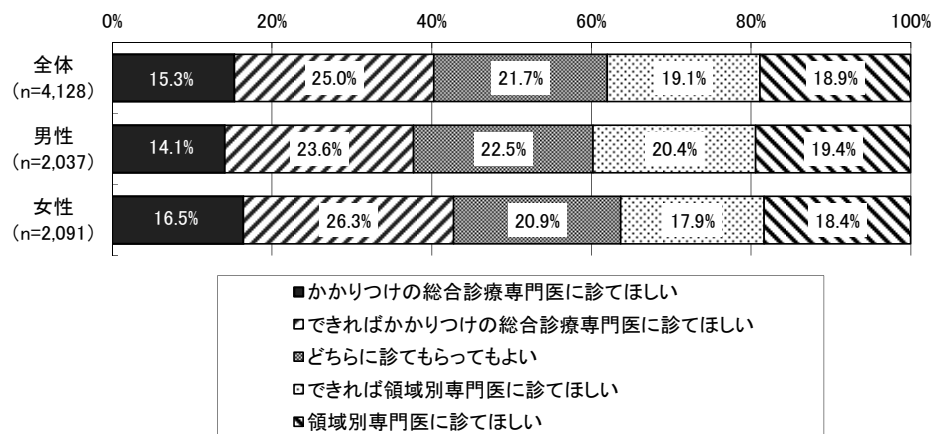
不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向をみると、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が 15.3%、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が 25.0%で、両者を合わせると 40.3%であった。一方、「領域別専門医に診てほしい」が 18.9%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が 19.1%で、両者を合わせた割合は 38.0%であった。また、「どちらに診てもらってもよい」が 21.7%であった。

図表 138 不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向 (n=4, 128)



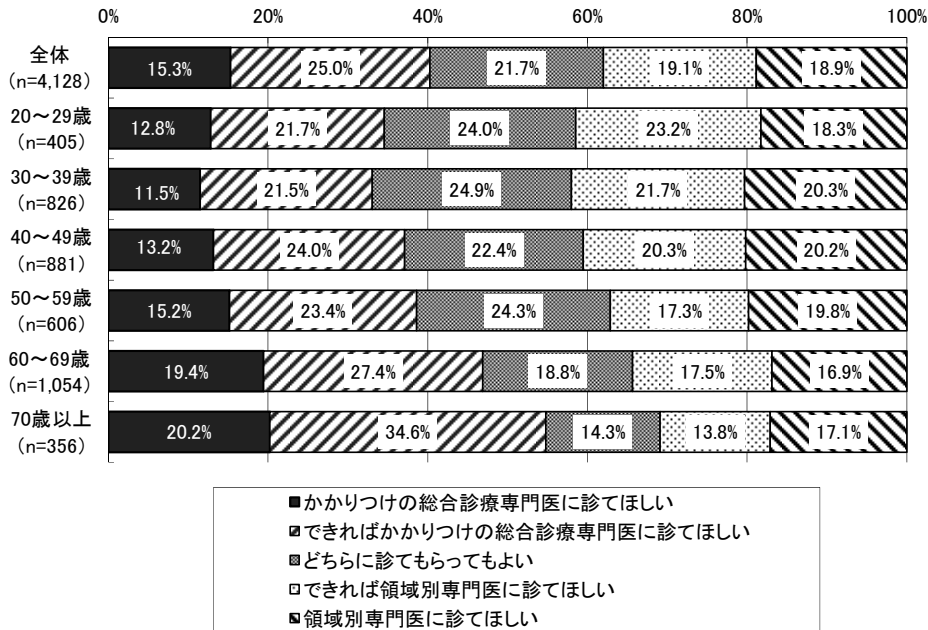
男女別にみると、女性の方が男性と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

図表 139 不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向 (男女別)



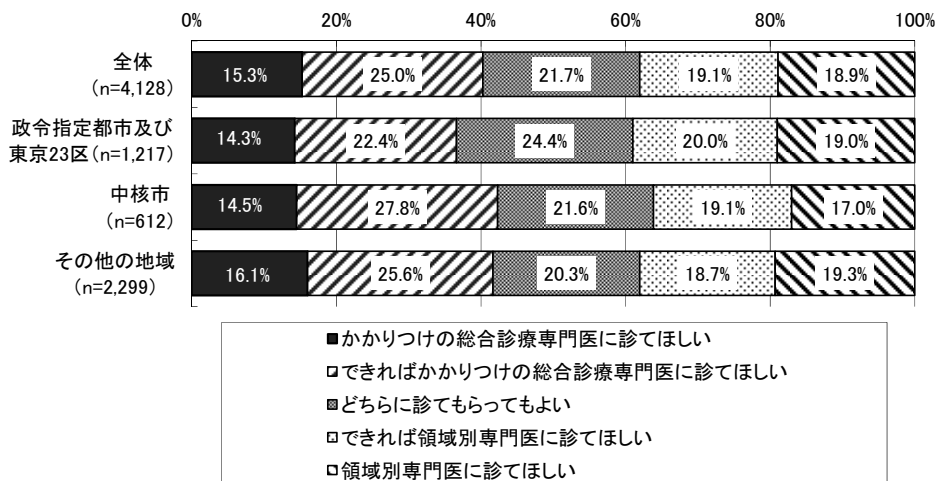
年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高くなる傾向がみられた。特に 70 歳以上では、この割合が 54.8%と過半数を占めている。

図表 140 不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向（年齢階級別）



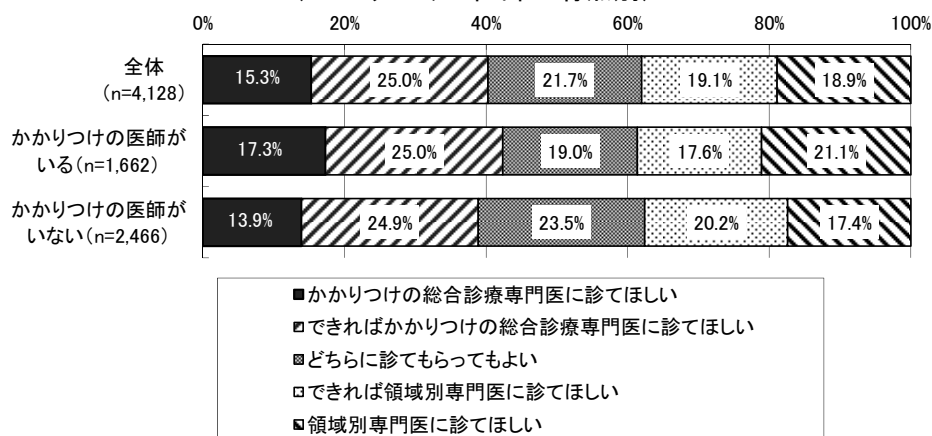
地域区分別にみると、政令指定都市及び東京 23 区では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が 36.7%、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が 39.0%で、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合のほうが高かった。一方、中核市、その他の地域では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合がそれぞれ 42.3%、41.7%で、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合がそれぞれ 36.1%、38.0%と、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合の方がやや高かった。

図表 141 不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向（地域区分別）



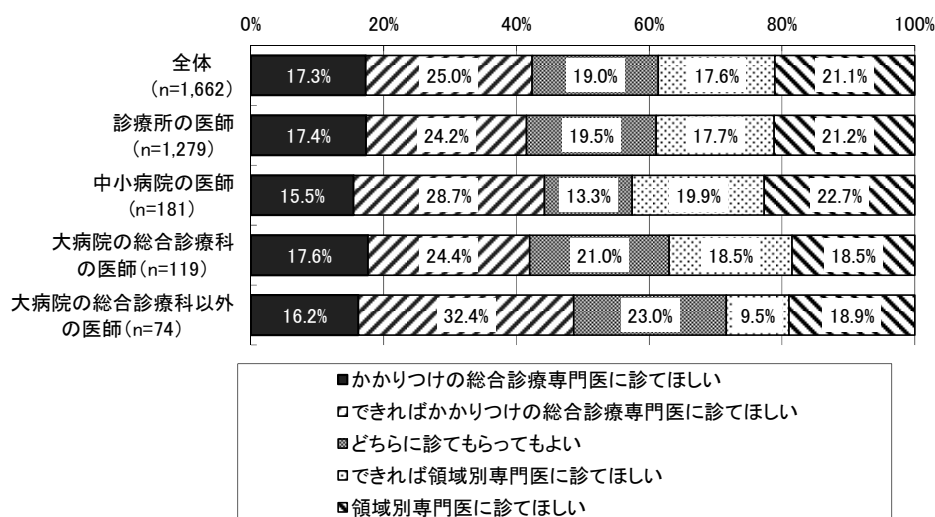
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合がやや高かった。また、かかりつけの医師がいる人もいない人も、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合の方が「領域別専門医に診てほしい」の合計割合よりもやや高かった。

図表 142 不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向
(かかりつけの医師の有無別)



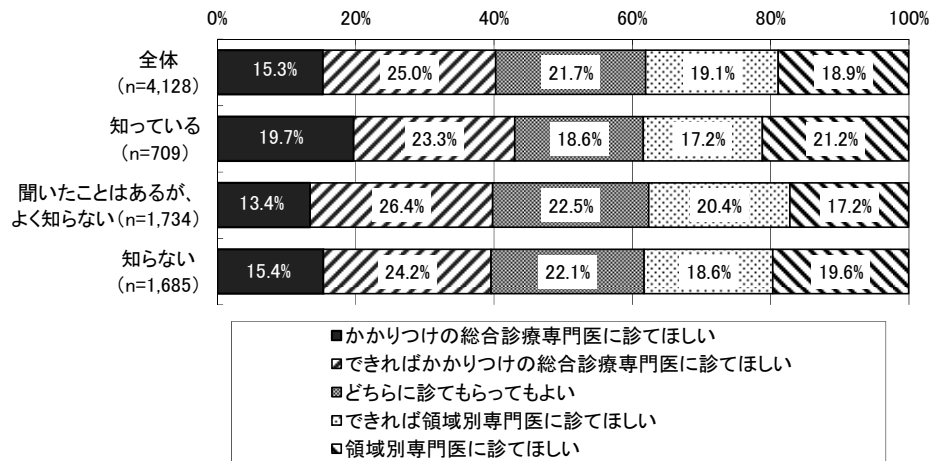
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科以外の医師（をかかりつけの医師としている人）では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が48.6%で、「全体」や他と比較して高かった。

図表 143 不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向
(かかりつけの医師がいる人) (かかりつけの医師の所属別)



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知っている人では「全体」や他と比較して、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の割合が高かった。

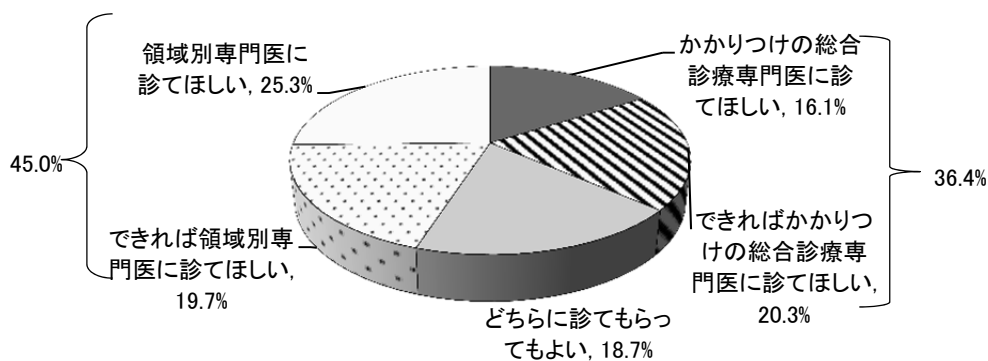
図表 144 不眠や気分の落ち込みについて相談したい時の受診意向
（「総合診療医」の認知度別）



⑨親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向

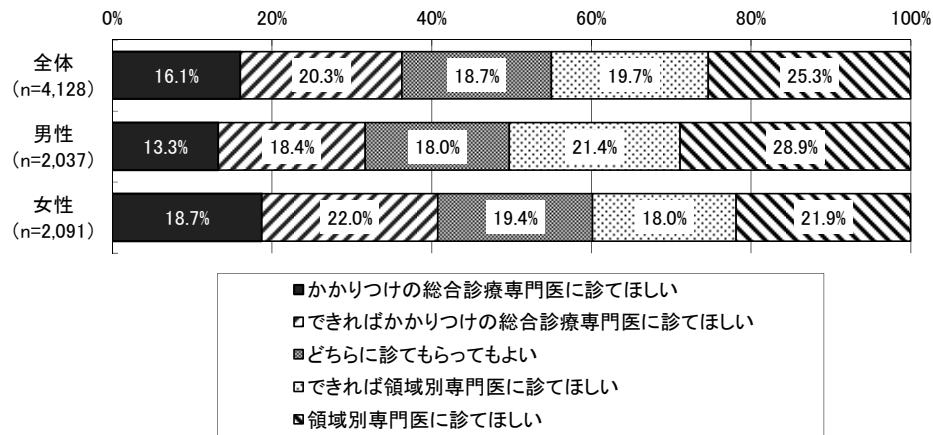
親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向をみると、「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が16.1%、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」が20.3%で、両者を合わせると36.4%であった。一方、「領域別専門医に診てほしい」が25.3%、「できれば領域別専門医に診てほしい」が19.7%で、両者を合わせた割合は45.0%であった。また、「どちらに診てもらってもよい」が18.7%であった。

図表 145 親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向 (n=4, 128)



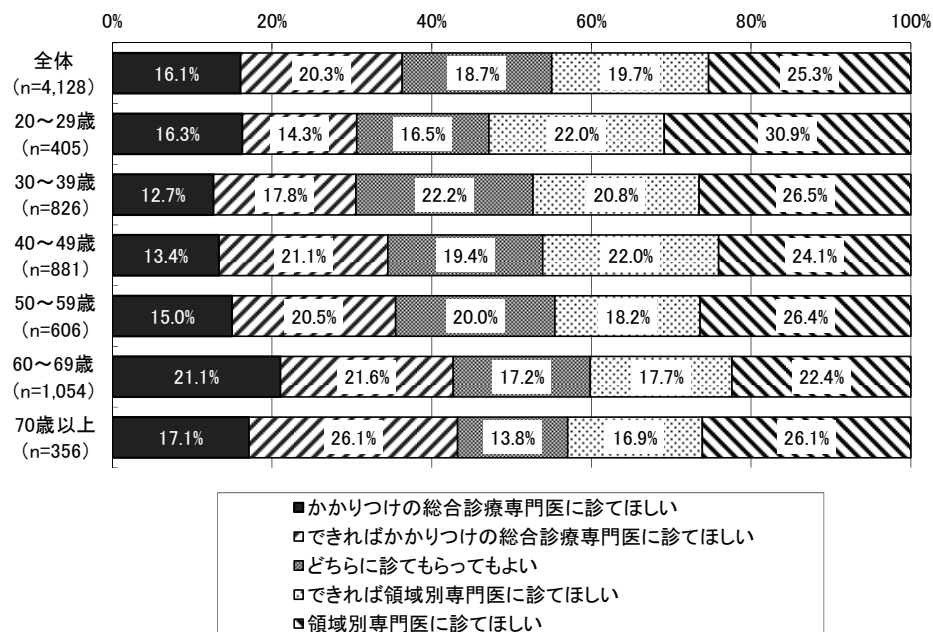
男女別にみると、女性の方が男性と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が9.0ポイント高かった。男性では「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が50.3%で女性と比較して10.4ポイント高かった。

図表 146 親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向（男女別）



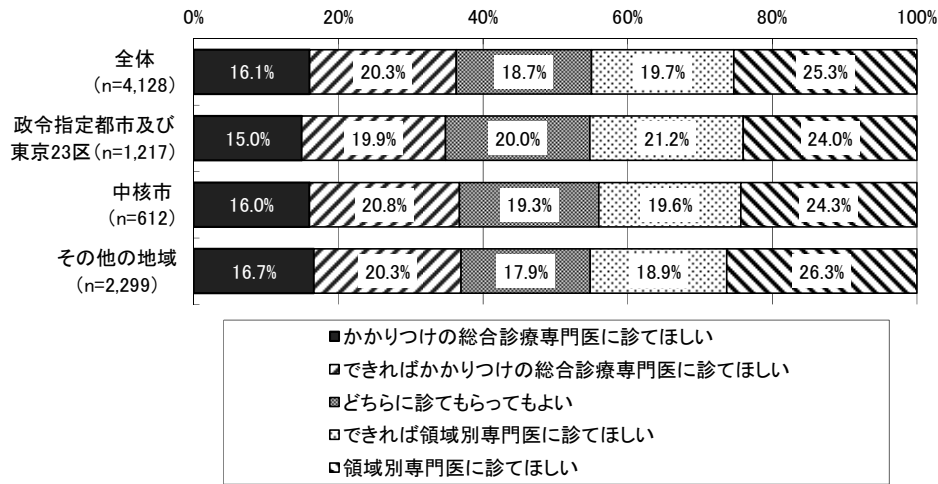
年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高くなる傾向がみられた。一方で、低い年齢階級では「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が「全体」と比較して高かった。

図表 147 親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向（年齢階級別）



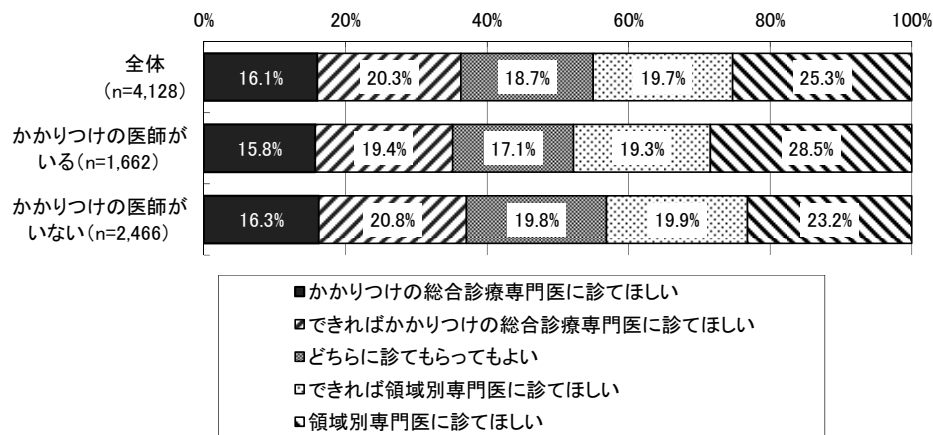
地域区別にみると、いずれの地域も、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合よりも高かった。

図表 148 親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向（地域区分別）



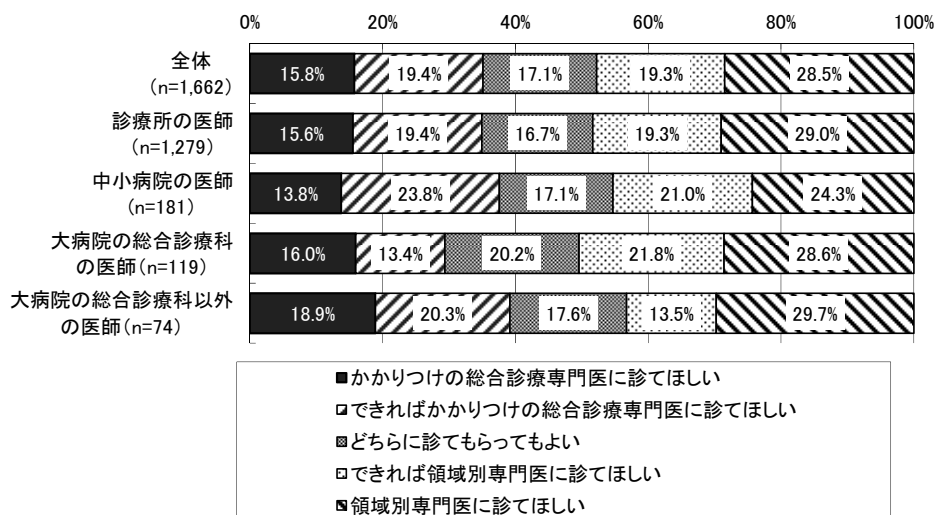
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して、「領域別専門医に診てほしい」の合計割合が高かった。

図表 149 親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向（かかりつけの医師の有無別）



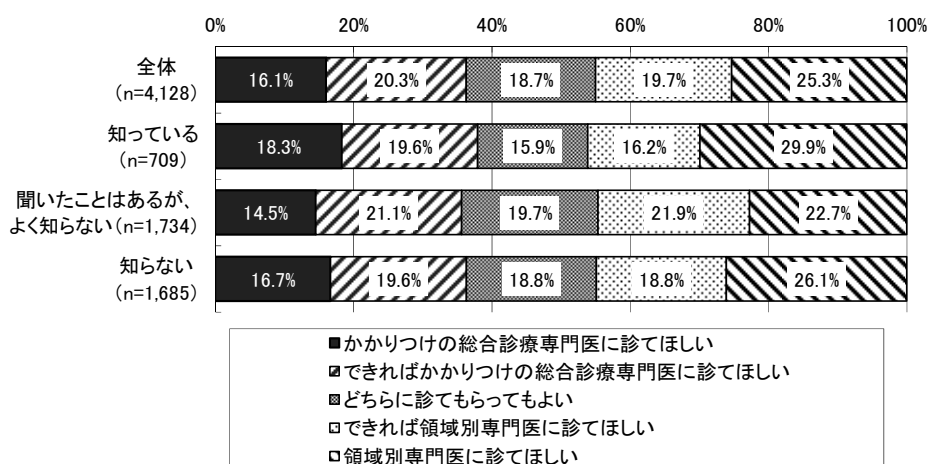
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、大病院の総合診療科以外の医師（をかかりつけの医師としている人）では「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が39.2%で、「全体」と比較して高かった。

図表 150 親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向
（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、総合診療医を知っている人では「全体」や他と比較して、「総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が高かったが、一方で「領域別専門医に診てほしい」の割合も「全体」や他と比較して高かった。

図表 151 親が認知症になり治療や介護の方法を相談したい時の受診意向
（「総合診療医」の認知度別）



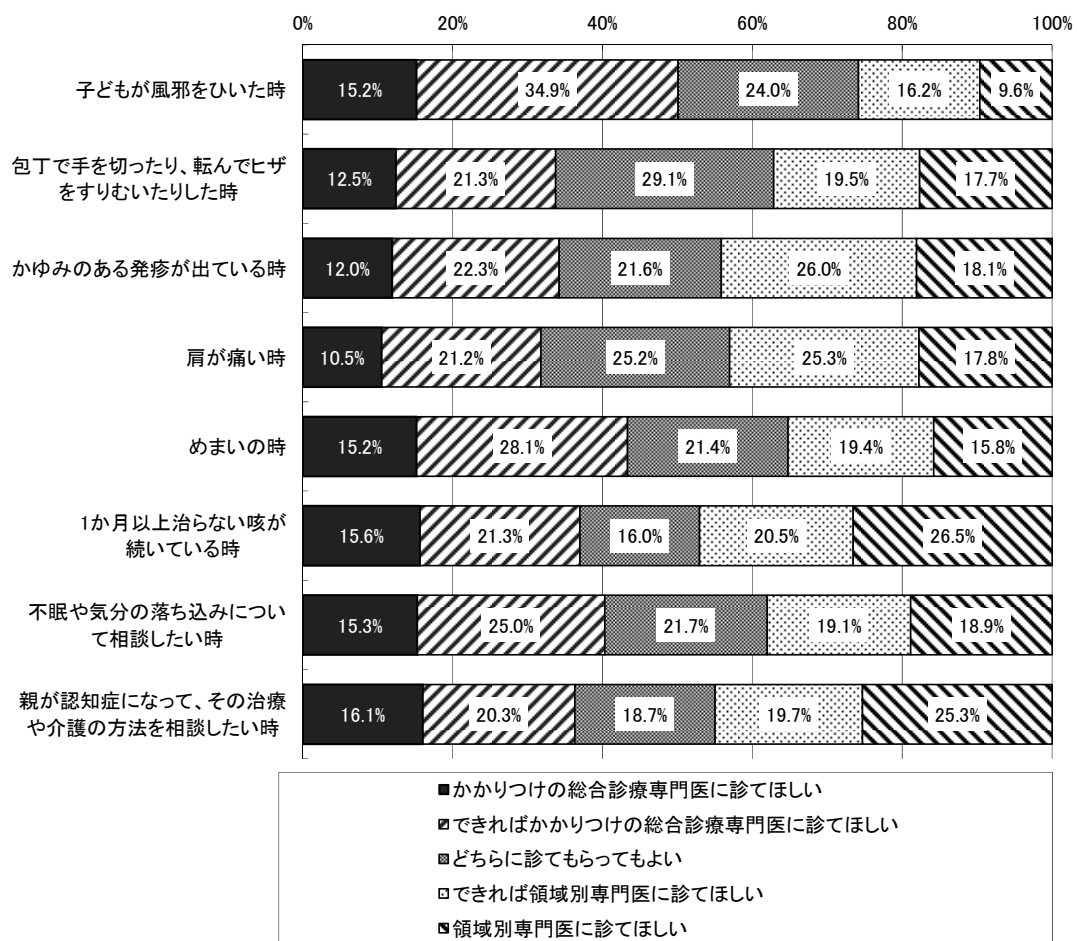
⑩状況別の受診意向

前述②～⑨の概要をまとめたものが下の図表である。

「かかりつけの総合診療専門医に診てほしい」、「できればかかりつけの総合診療専門医に診てほしい」の合計割合が比較的高かったのは「子どもが風邪をひいた時」(50.1%)、「めまいの時」(43.3%)、「不眠や気分の落ち込みについて相談したい時」(40.3%)であった。

一方、「領域別専門医に診てほしい」、「できれば領域別専門医に診てほしい」の合計割合が比較的高かったのは「1か月以上治らない咳が続いている時」(47.0%)、「親が認知症になって、その治療や介護の方法を相談したい時」(45.0%)、「かゆみのある発疹が出ている時」(44.1%)、「肩が痛い時」(43.1%)であった。

図表 152 状況別の受診意向 (まとめ)



(注) n 数：「子どもが風邪をひいた時」(n=986)、それ以外は n=4,128 である。

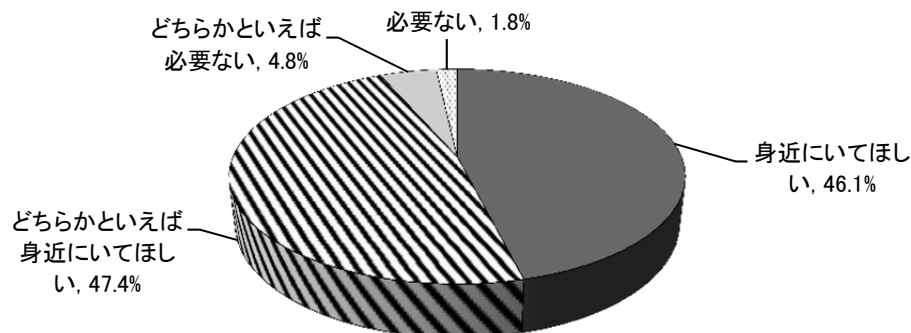
5. 総合診療専門医に対する今後への期待等

(1) 総合診療専門医の必要性

①健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医

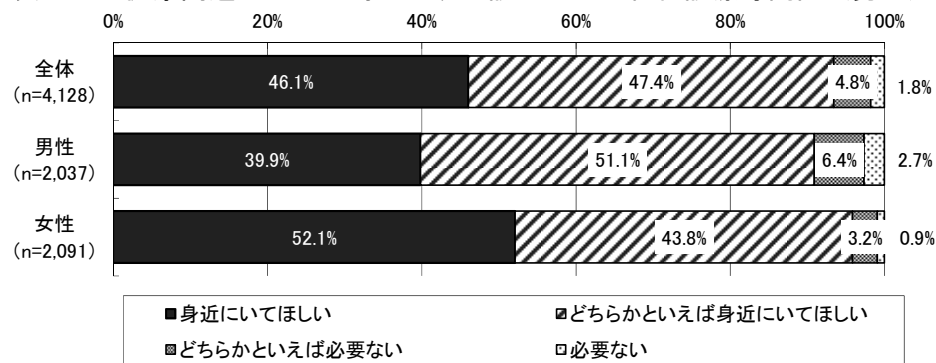
「何か健康問題が生じた時、年齢や性別、体の場所を問わずに、まずは診てくれる総合診療専門医」についての希望を尋ねたところ、「身近にいてほしい」が46.1%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が47.4%で、両者を合わせると93.5%であった。

図表 153 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医 (n=4,128)



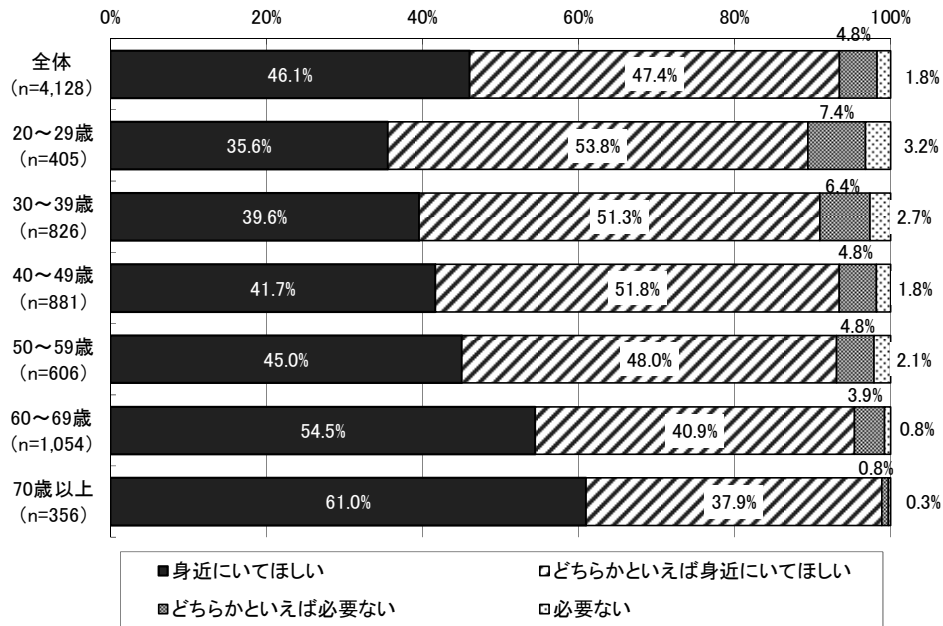
男女別にみると、男性より女性の方が「身近にいてほしい」の割合が12.2ポイント高かった。

図表 154 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医 (男女別)

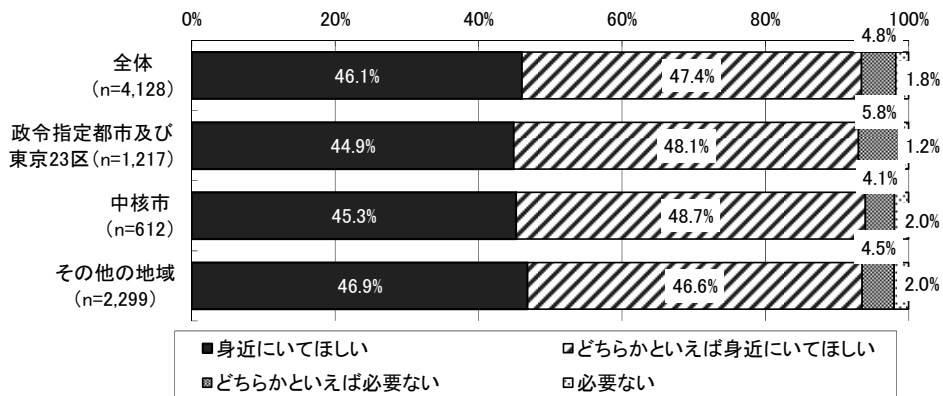


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「身近にいてほしい」の割合が高くなった。70歳以上では「身近にいてほしい」が61.0%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が37.9%で、両者を合わせた割合は98.9%であった。

図表 155 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医（年齢階級別）

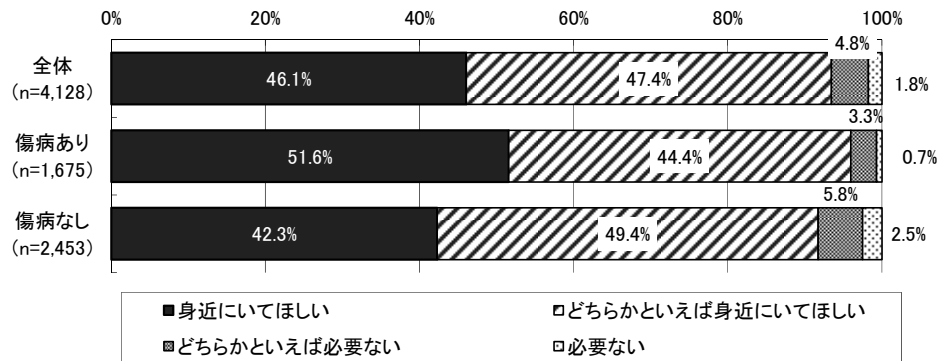


図表 156 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医（地域区分別）



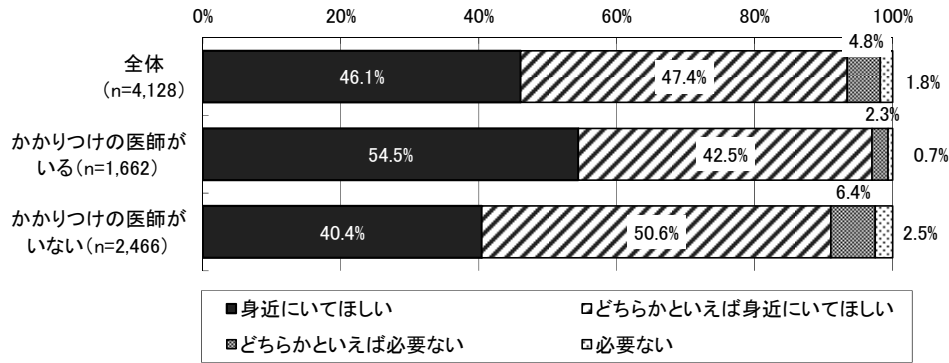
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病ありの人では傷病なしの人と比較して「身近にいてほしい」の割合が9.3ポイント高かった。

図表 157 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）

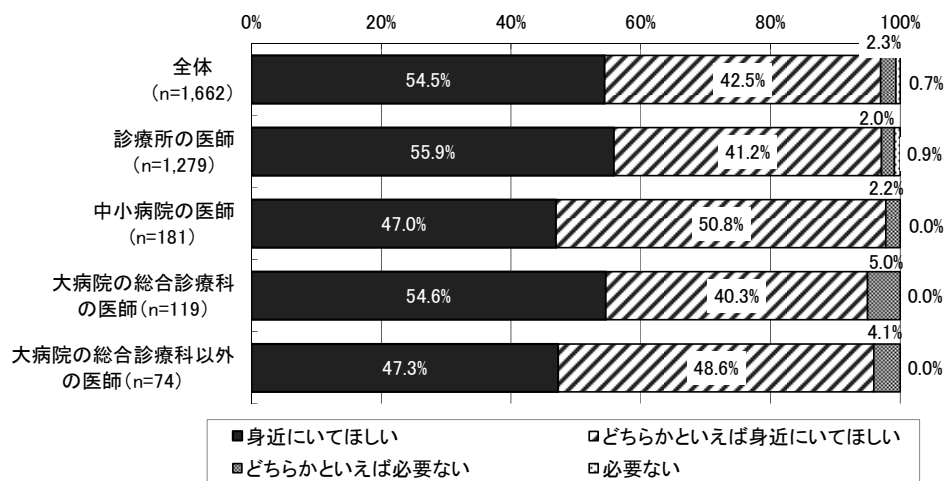


かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「身近にいてほしい」の割合が14.1ポイント高かった。

図表 158 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医
(かかりつけの医師の有無別)

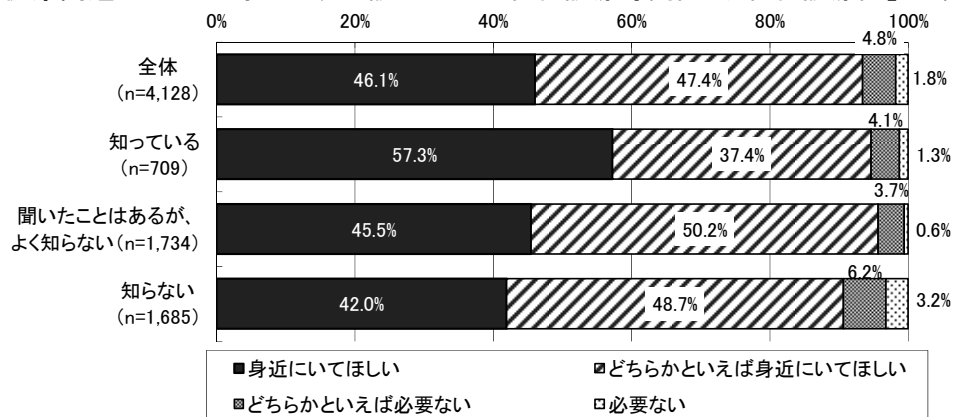


図表 159 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医
(かかりつけの医師がいる人) (かかりつけの医師の所属別)



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が57.3%で、「全体」や他と比較して特に高かった。

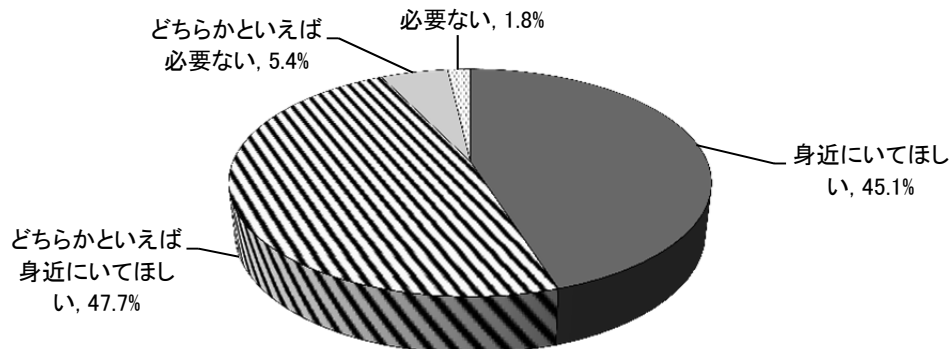
図表 160 健康問題が生じた時にまずは診てくれる総合診療専門医 (「総合診療医」の認知度別)



②受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる総合診療専門医

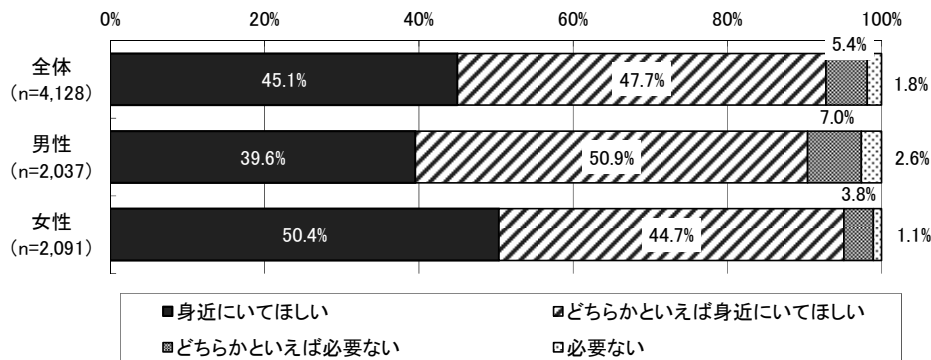
「受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源（福祉の専門職や患者会など）を紹介してくれる総合診療専門医」について尋ねたところ、「身近にいてほしい」が45.1%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が47.7%で両者を合わせると92.8%であった。

図表 161 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる総合診療専門医（n=4,128）



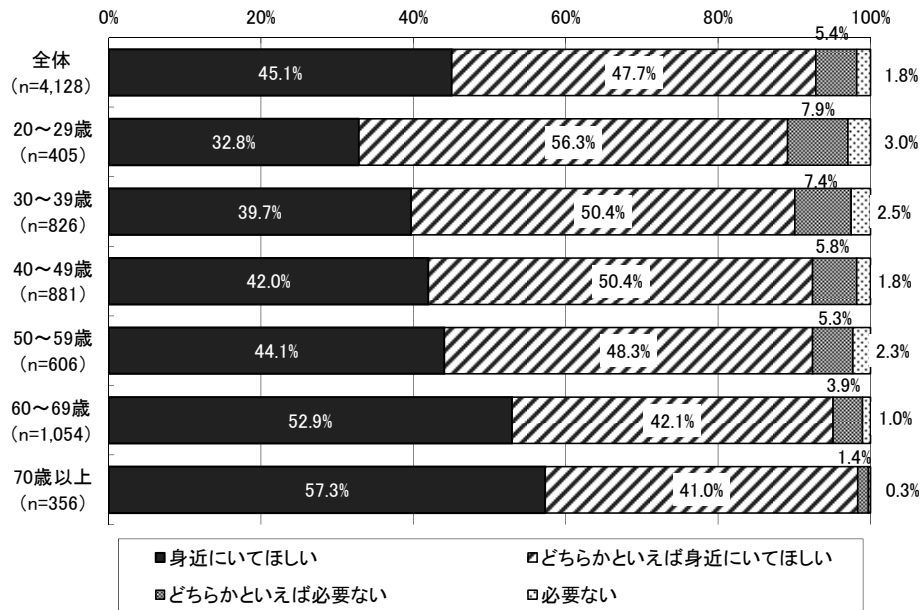
男女別にみると、男性より女性の方が「身近にいてほしい」の割合が10.8ポイント高かった。

図表 162 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる総合診療専門医（男女別）

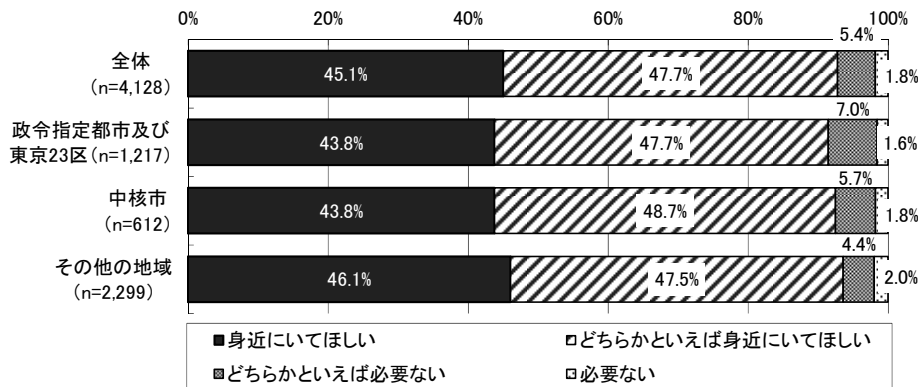


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「身近にいてほしい」の割合が高くなった。70歳以上では「身近にいてほしい」が57.3%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が41.0%で、両者を合わせた割合は98.3%であった。

図表 163 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる
総合診療専門医（年齢階級別）

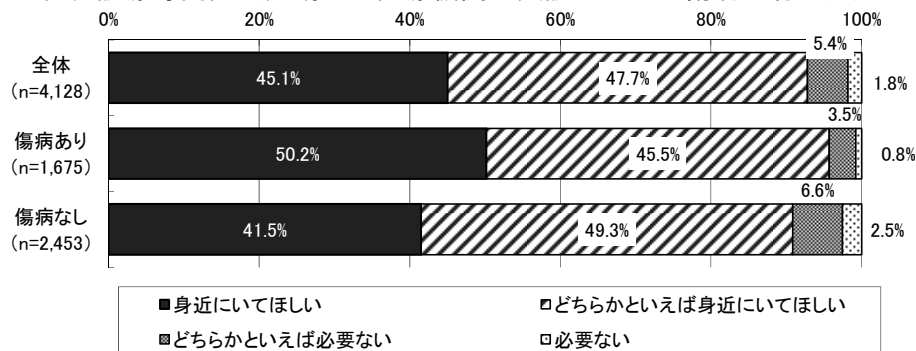


図表 164 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる
総合診療専門医（地域区分別）



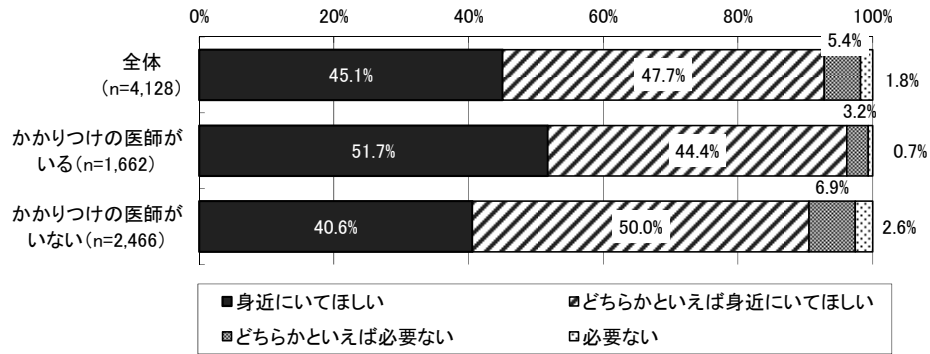
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病ありの人では傷病なしの人と比較して「身近にいてほしい」の割合が8.7ポイント高かった。

図表 165 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる
総合診療専門医（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）

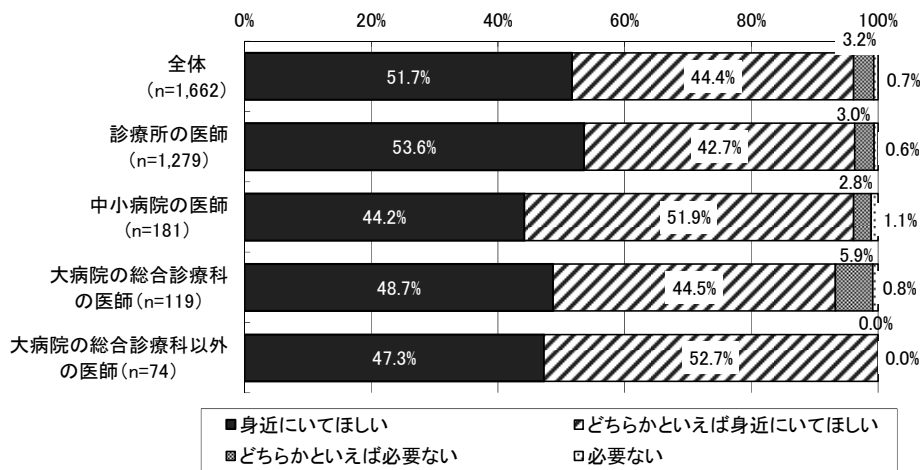


かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「身近にいてほしい」の割合が11.1ポイント高かった。

図表 166 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる
総合診療専門医（かかりつけの医師の有無別）

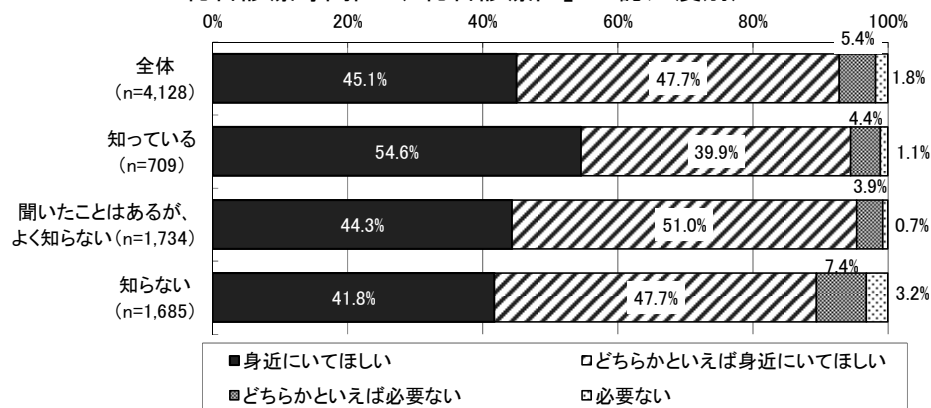


図表 167 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる
総合診療専門医（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が54.6%で、「全体」や他と比較しても高かった。

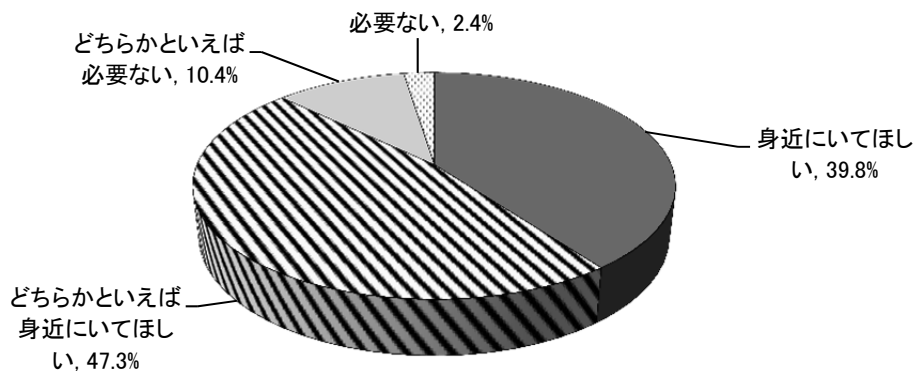
図表 168 受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる
総合診療専門医（「総合診療医」の認知度別）



③気軽に相談できる総合診療専門医

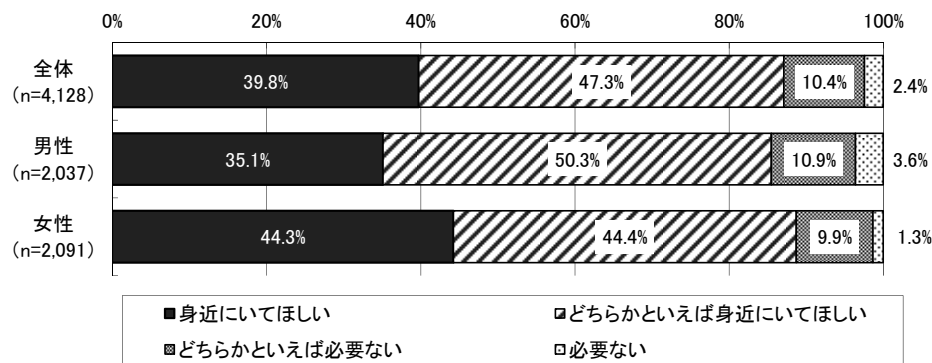
「若いうちから年を取るまで、継続して通院しながらその都度に自分の病気や日々のちょっとした身の上話などもしながら、気軽に相談できる総合診療専門医」について尋ねたところ、「身近にいてほしい」が 39.8%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 47.3%で両者を合わせると 87.1%であった。

図表 169 気軽に相談できる総合診療専門医 (n=4, 128)



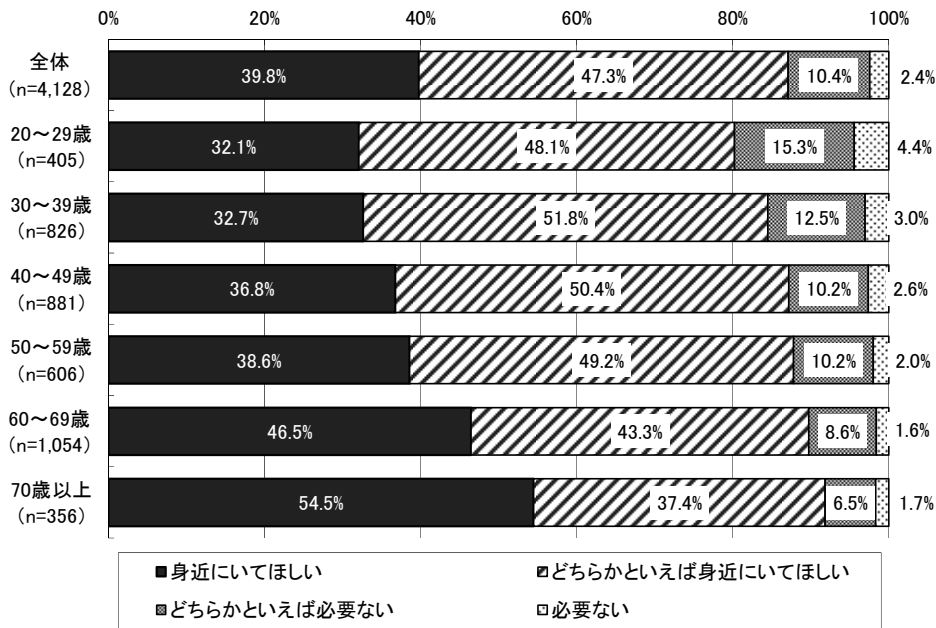
男女別にみると、男性より女性の方が「身近にいてほしい」の割合が 9.2 ポイント高かった。

図表 170 気軽に相談できる総合診療専門医 (男女別)

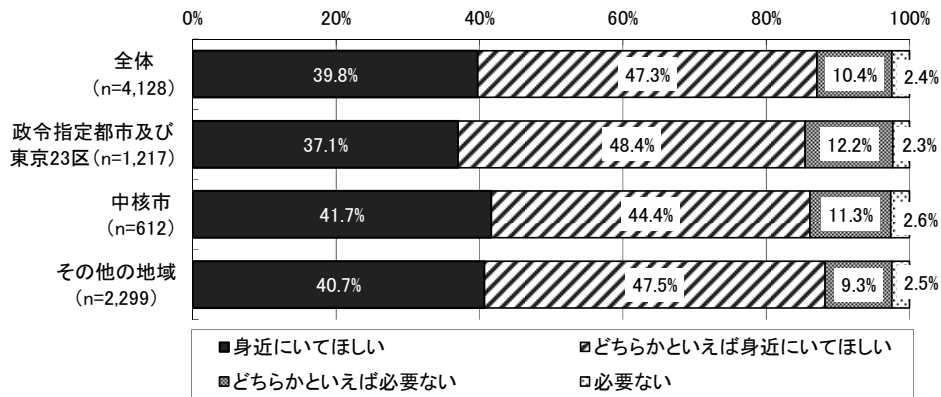


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「身近にいてほしい」の割合が高くなった。70 歳以上では「身近にいてほしい」が 54.5%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 37.4%で、両者を合わせた割合は 91.9%であった。

図表 171 気軽に相談できる総合診療専門医（年齢階級別）

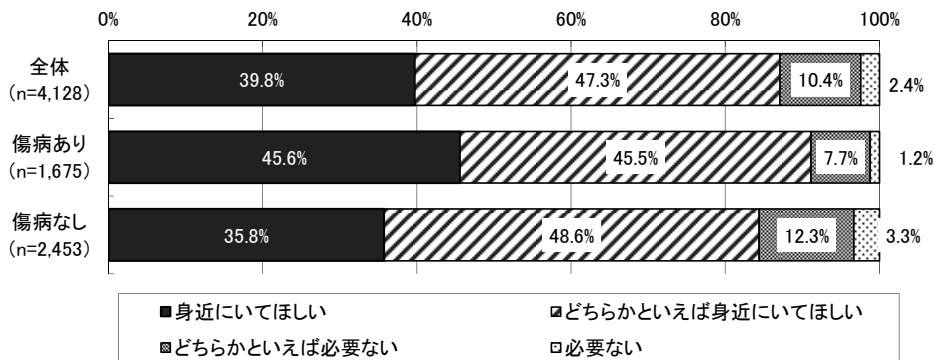


図表 172 気軽に相談できる総合診療専門医（地域区分別）



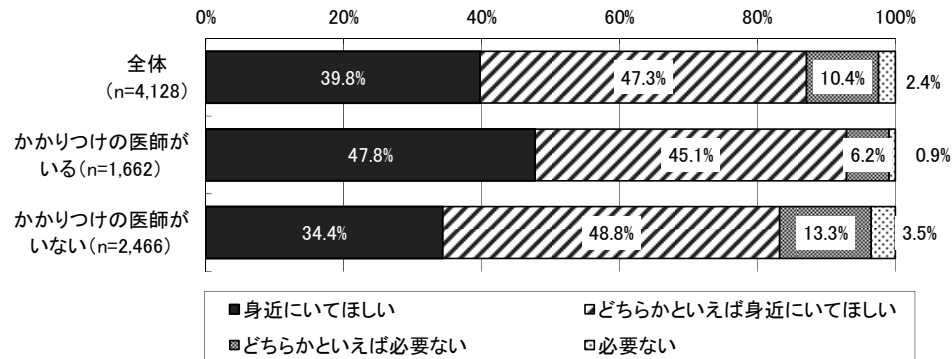
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病ありの人では傷病なしの人と比較して「身近にいてほしい」の割合が9.8ポイント高かった。

図表 173 気軽に相談できる総合診療専門医
(定期的に医療機関に受診している傷病の有無別)

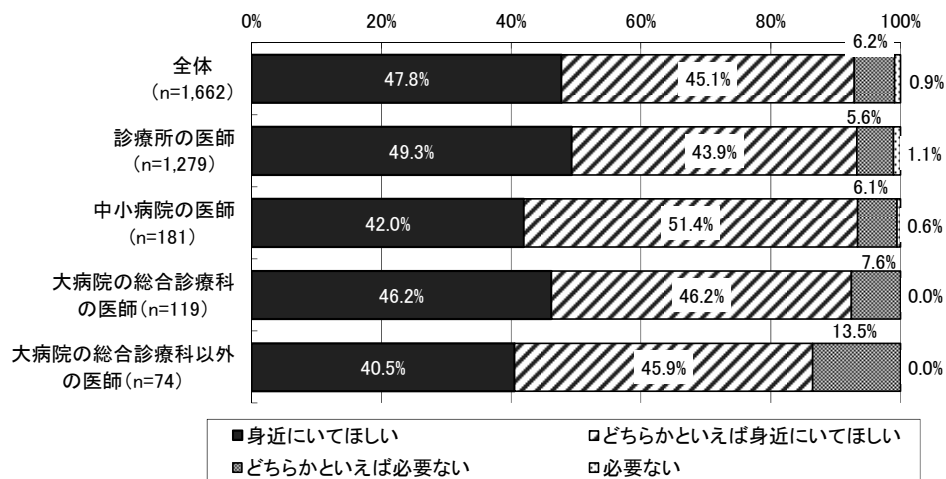


かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「身近にいてほしい」の割合が13.4ポイント高かった。

図表 174 気軽に相談できる総合診療専門医（かかりつけの医師の有無別）

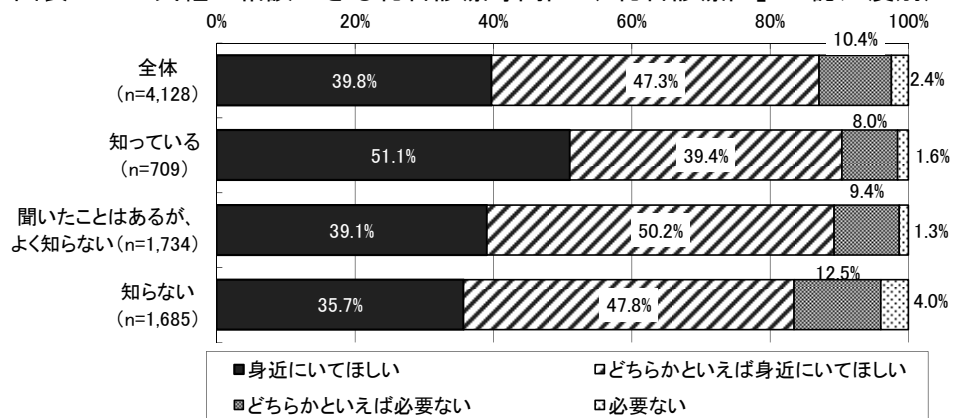


図表 175 気軽に相談できる総合診療専門医（かかりつけの医師がいる人）
（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が51.1%で、「全体」や他と比較しても高かった。

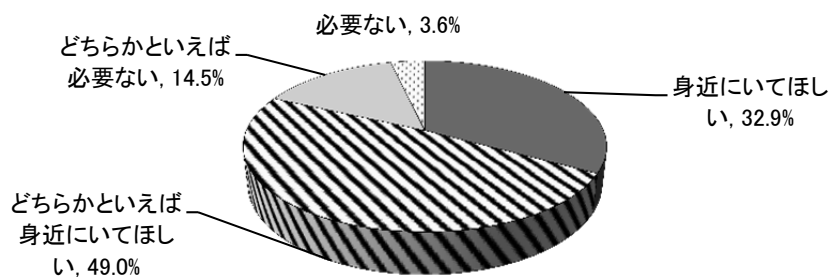
図表 176 気軽に相談できる総合診療専門医（「総合診療医」の認知度別）



④自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医

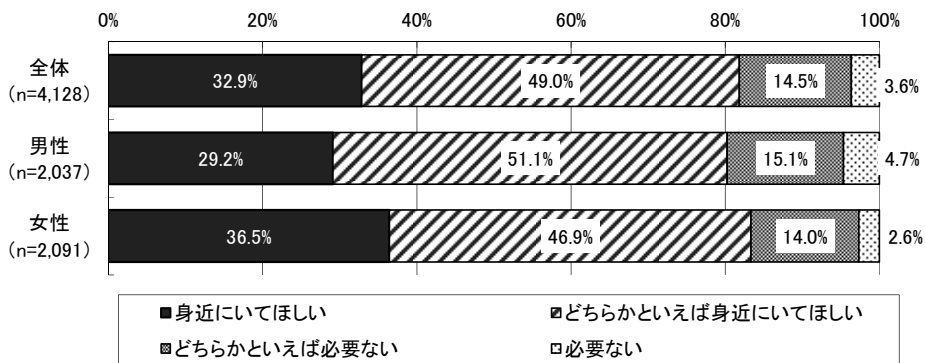
「自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医」について尋ねたところ、「身近にいてほしい」が 32.9%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 49.0%で両者を合わせると 81.9%であった。一方、「どちらかといえば必要ない」が 14.5%、「必要ない」が 3.6%で、両者を合わせた割合が 2 割弱であった。

図表 177 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医 (n=4, 128)



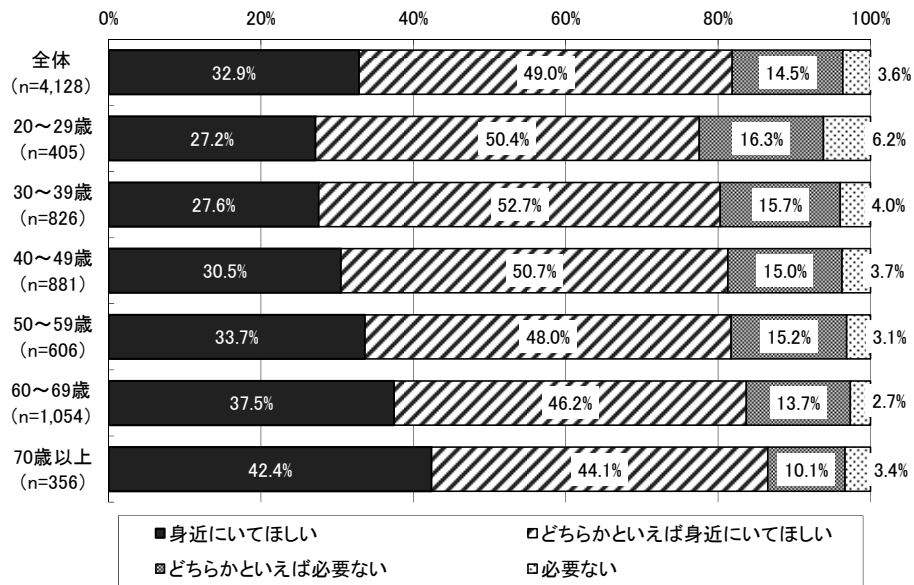
男女別にみると、男性より女性の方が「身近にいてほしい」の割合が 7.3 ポイント高かった。

図表 178 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医 (男女別)

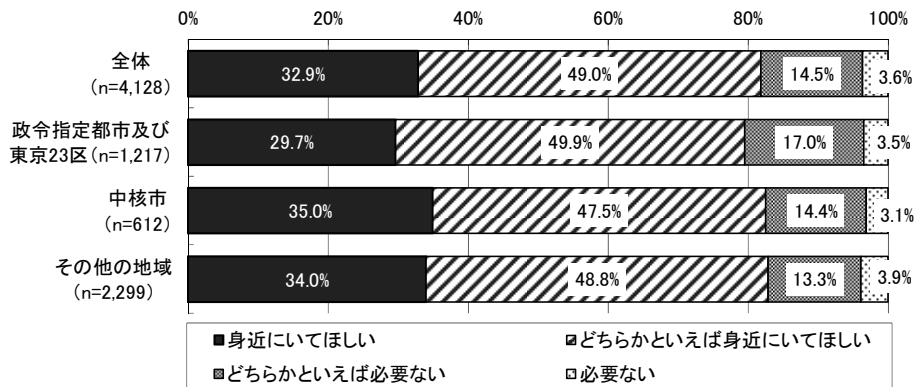


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「身近にいてほしい」の割合が高くなった。70 歳以上では「身近にいてほしい」が 42.4%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 44.1%で、両者を合わせた割合は 86.5%であった。

図表 179 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医（年齢階級別）

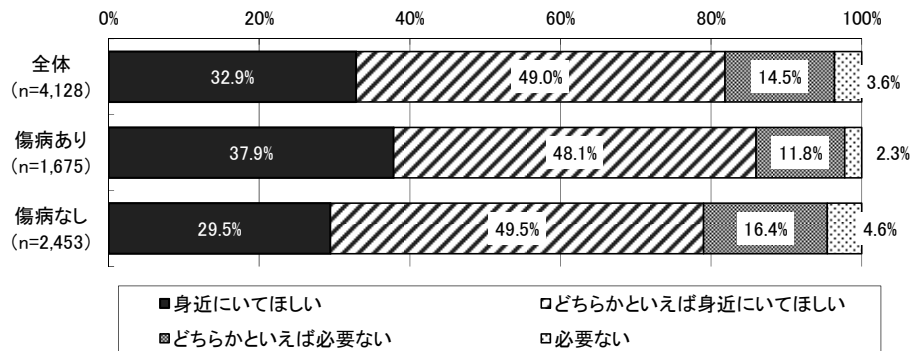


図表 180 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医（地域区分別）



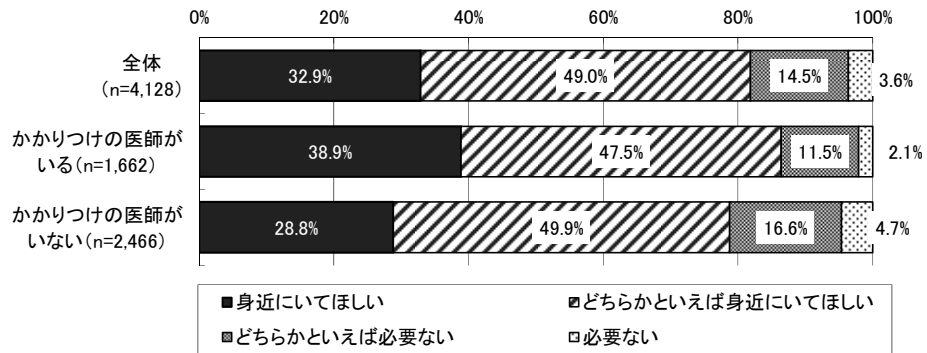
定期的に医療機関を受診している傷病の有無別にみると、傷病ありの人では傷病なしの人と比較して「身近にいてほしい」の割合が8.4ポイント高かった。

図表 181 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医（定期的に医療機関を受診している傷病の有無別）

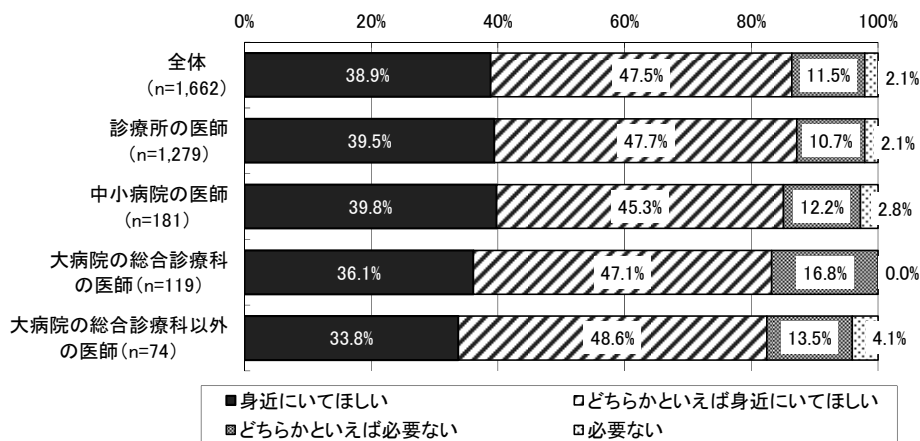


かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「身近にいてほしい」の割合が 10.1 ポイント高かった。

図表 182 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医（かかりつけの医師の有無別）

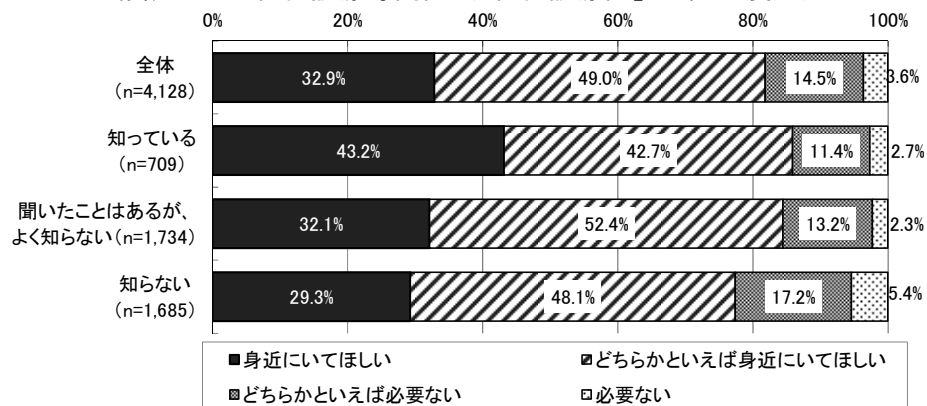


図表 183 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が 43.2%で、「全体」や他と比較して特に高かった。

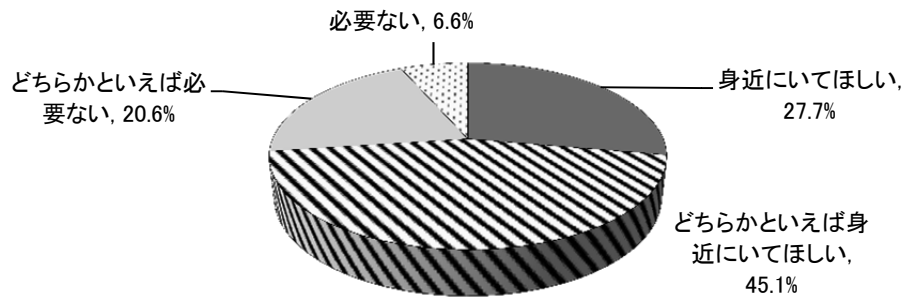
図表 184 自分の生きる上で大事にしている事や価値観を踏まえた上で、診療内容を相談できる総合診療専門医（「総合診療医」の認知度別）



⑤誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医

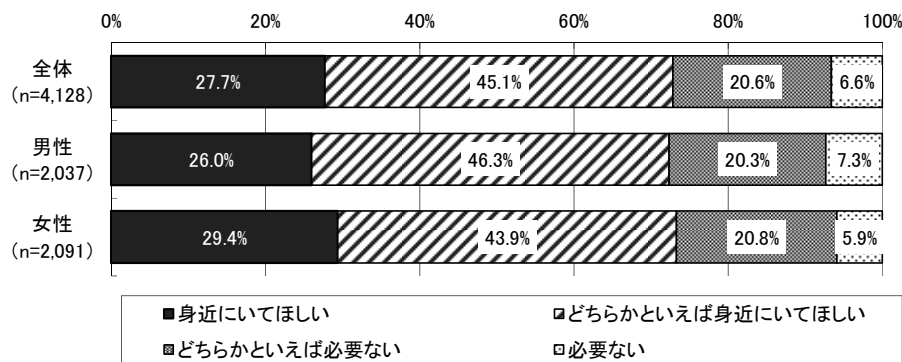
「誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医」について尋ねたところ、「身近にいてほしい」が 27.7%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 45.1%で両者を合わせると 72.8%であった。一方、「どちらかといえば必要ない」が 20.6%、「必要がない」が 6.6%で両者を合わせると 27.2%であった。

図表 185 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医 (n=4, 128)



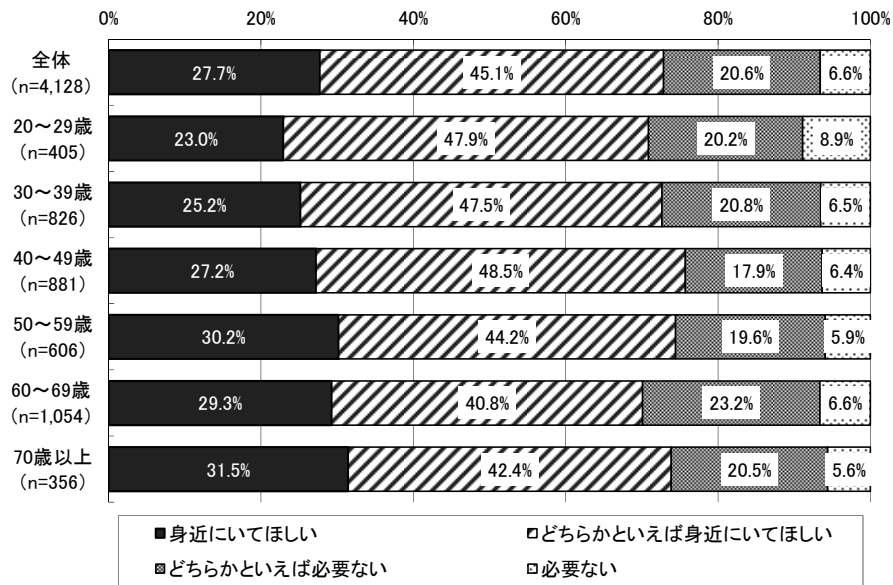
男女別にみると、男性より女性の方が「身近にいてほしい」の割合が 3.4 ポイント高かった。「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は、男性が 72.3%、女性が 73.3%で大きな差異はみられなかった。

図表 186 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医 (男女別)

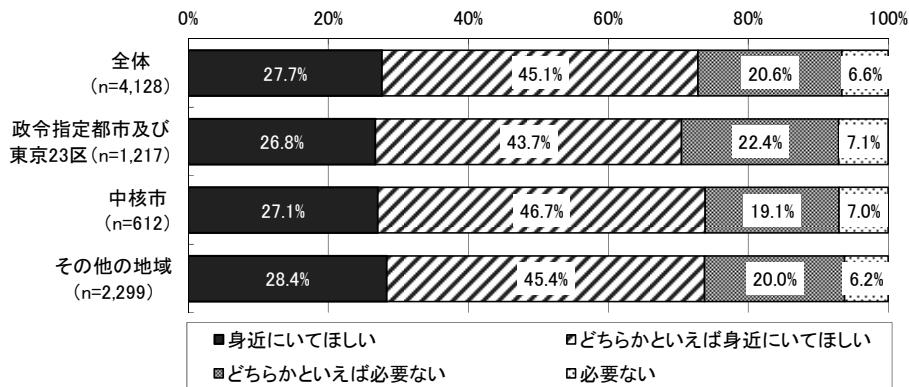


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「身近にいてほしい」の割合が高くなる傾向がみられた。一方で、60～69歳では、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」の合計割合がやや低かった。

図表 187 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医
(年齢階級別)

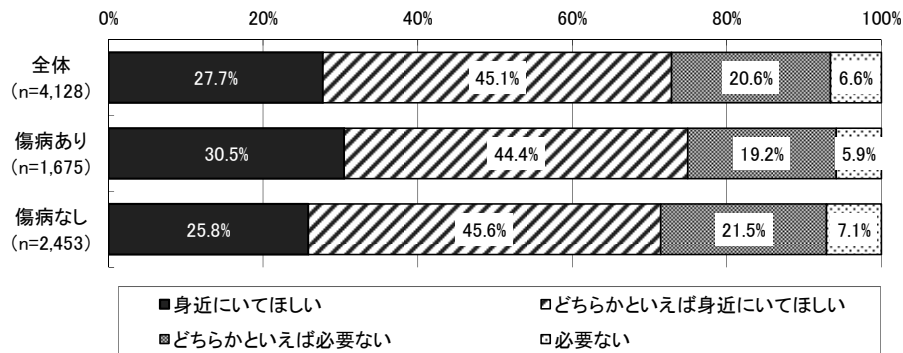


図表 188 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医
(地域区分別)



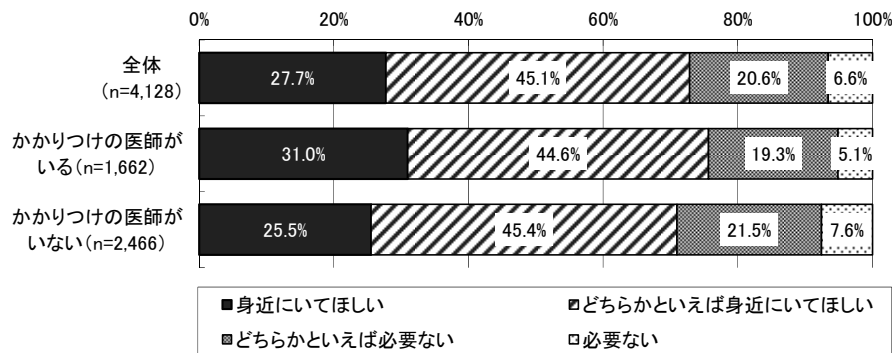
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、「身近にいてほしい」と「できれば身近にいてほしい」を合わせた割合は、傷病の有無にかかわらず7割以上となった。

図表 189 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医
(定期的に医療機関に受診している傷病の有無別)

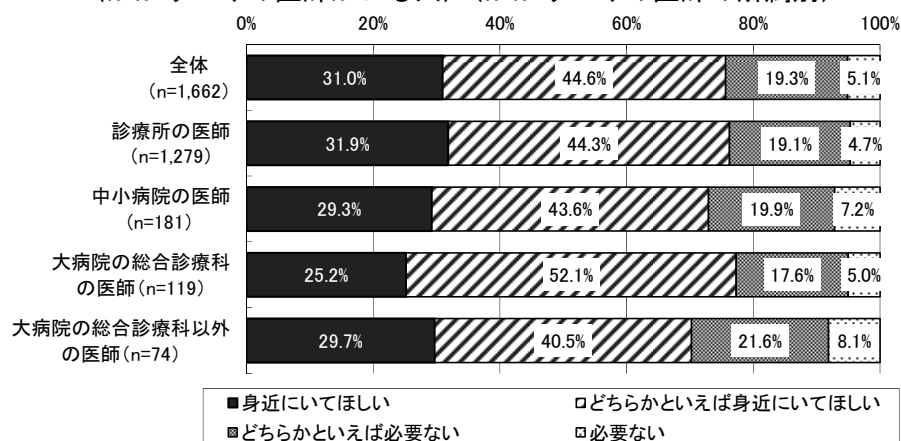


かかりつけの医師の有無別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は、かかりつけの医師がいる人では75.6%、いない人では70.9%であった。

図表 190 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医
(かかりつけの医師の有無別)

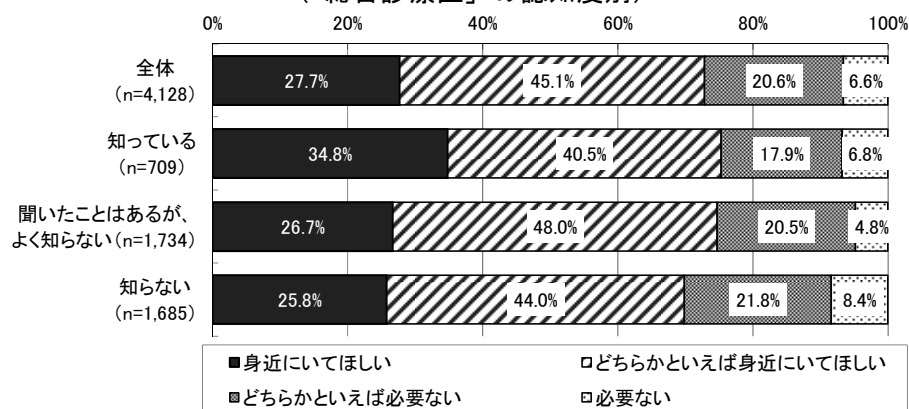


図表 191 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医
(かかりつけの医師がいる人) (かかりつけの医師の所属別)



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が34.8%で、「全体」や他と比較して特に高かった。

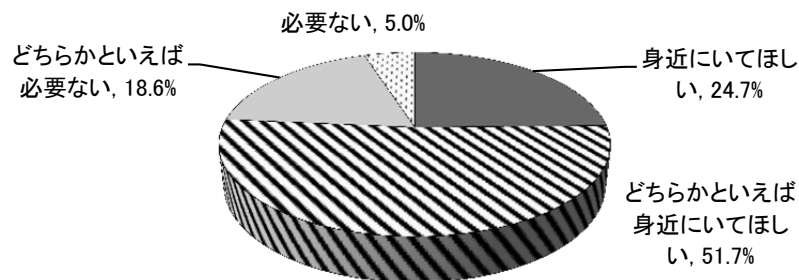
図表 192 誰にも相談できないようなことや、家族の悩みを相談できる総合診療専門医
(「総合診療医」の認知度別)



⑥地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について関心を持って活動している総合診療専門医

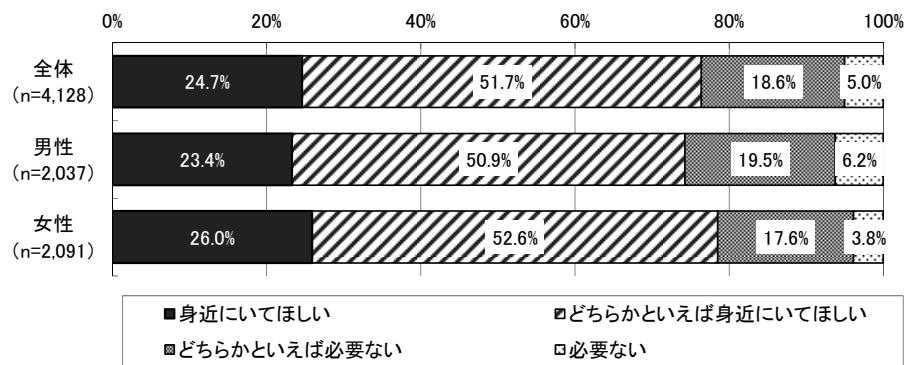
「地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題（地理的環境、文化、医療政策、医療や介護の連携など）について関心を持って活動している総合診療専門医」について尋ねたところ、「身近にいてほしい」が 24.7%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 51.7%で両者を合わせると 76.4%であった。一方、「どちらかといえば必要ない」が 18.6%、「必要ない」が 5.0%で両者を合わせると 23.6%であった。

図表 193 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について関心を持って活動している総合診療専門医 (n=4, 128)



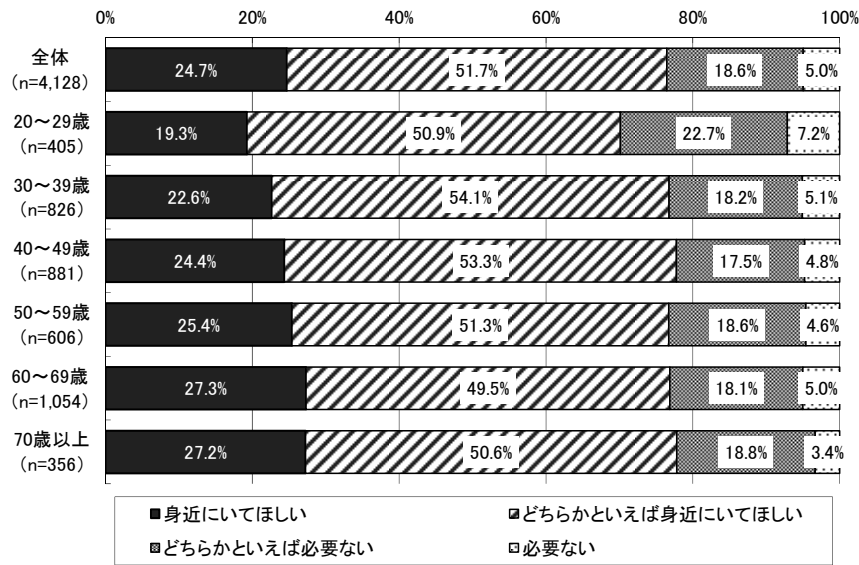
男女別にみると、男性より女性の方が「身近にいてほしい」の割合が 2.6 ポイント高かった。「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は、男性では 74.3%、女性では 78.6%であった。

図表 194 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について関心を持って活動している総合診療専門医 (男女別)

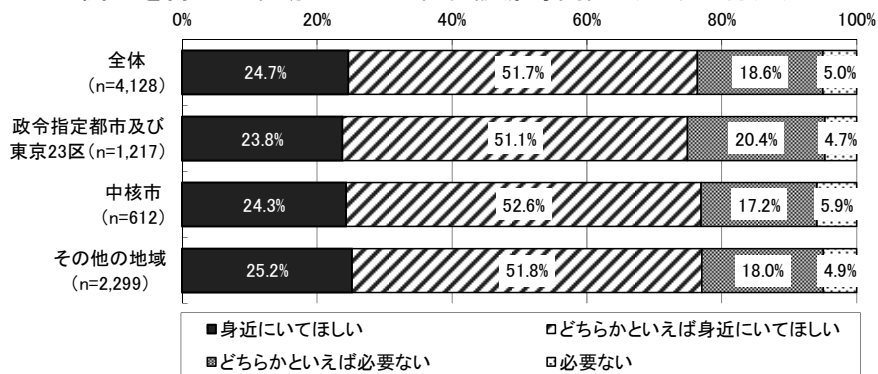


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「身近にいてほしい」の割合が高くなる傾向がみられた。70 歳以上では「身近にいてほしい」が 27.2%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 50.6%で、両者を合わせた割合は 77.8%であった。

図表 195 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について
関心を持って活動している総合診療専門医（年齢階級別）

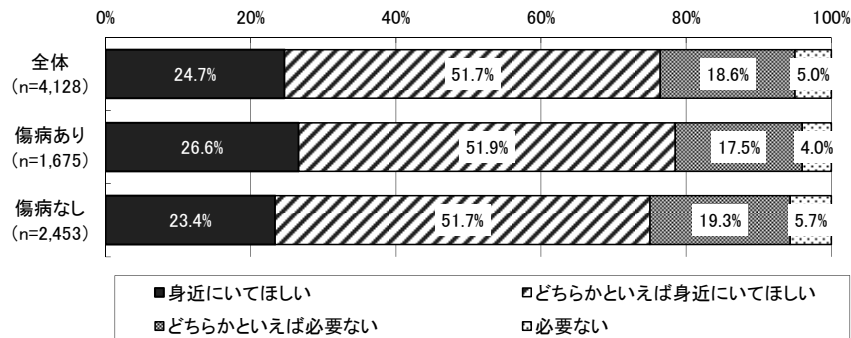


図表 196 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について
関心を持って活動している総合診療専門医（地域区分別）



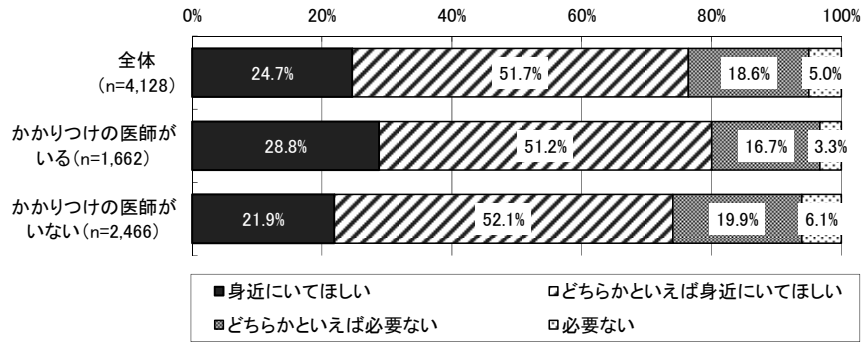
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は傷病ありの人では 78.5%、傷病なしの人では 75.1%であった。

図表 197 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について関心
を持って活動している総合診療専門医（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）

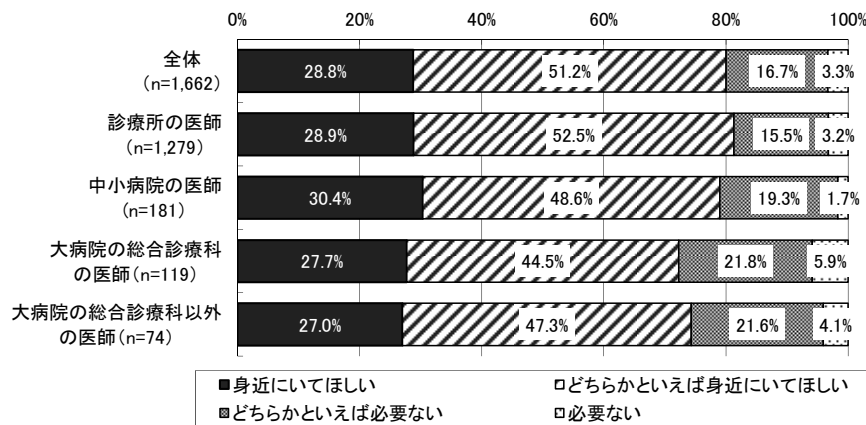


かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「身近にいてほしい」の割合が 6.9 ポイント高かった。「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は、かかりつけの医師がいる人では 80.0%、いない人では 74.0%であった。

図表 198 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について関心を持って活動している総合診療専門医（かかりつけの医師の有無別）

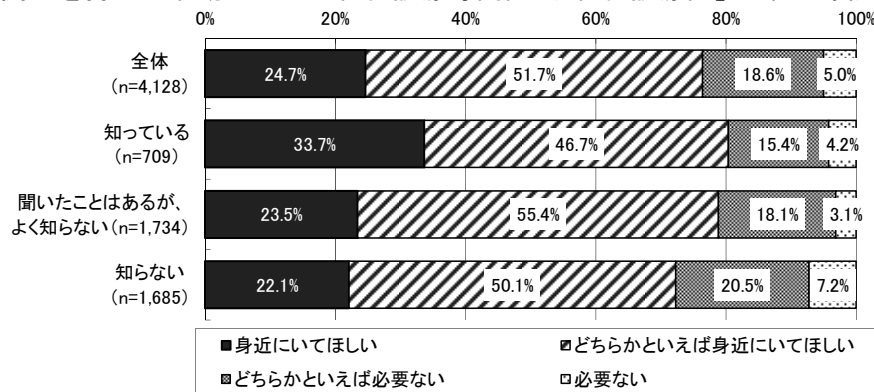


図表 199 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について関心を持って活動している総合診療専門医（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が 33.7%で、「全体」や他と比較して特に高かった。

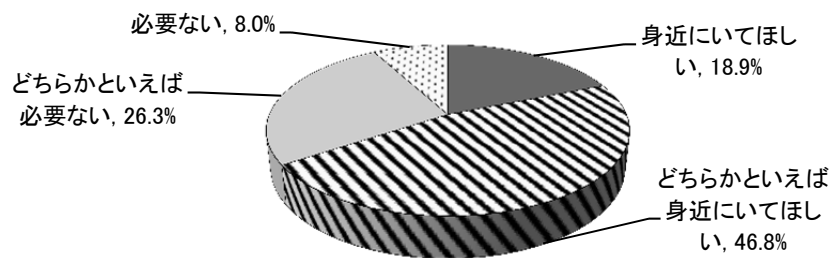
図表 200 地域で生じている健康問題について、その問題の背景にある地域課題について関心を持って活動している総合診療専門医（「総合診療医」の認知度別）



⑦町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医

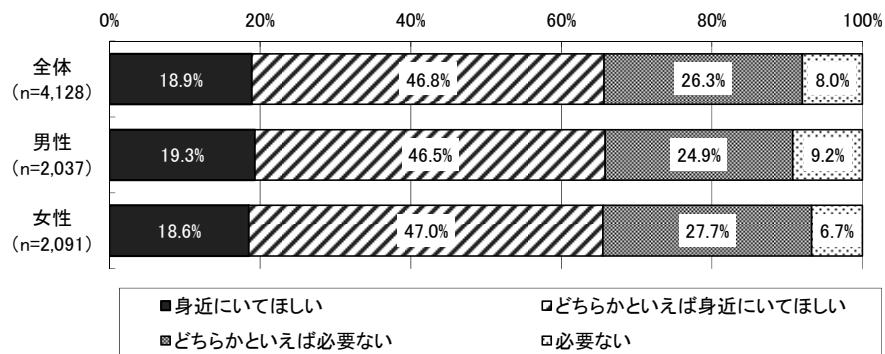
「町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医」について尋ねたところ、「身近にいてほしい」が 18.9%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が 46.8%で両者を合わせると 65.7%であった。一方、「どちらかといえば必要ない」が 26.3%、「必要ない」が 8.0%で両者を合わせると 34.3%であった。

図表 201 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医 (n=4, 128)



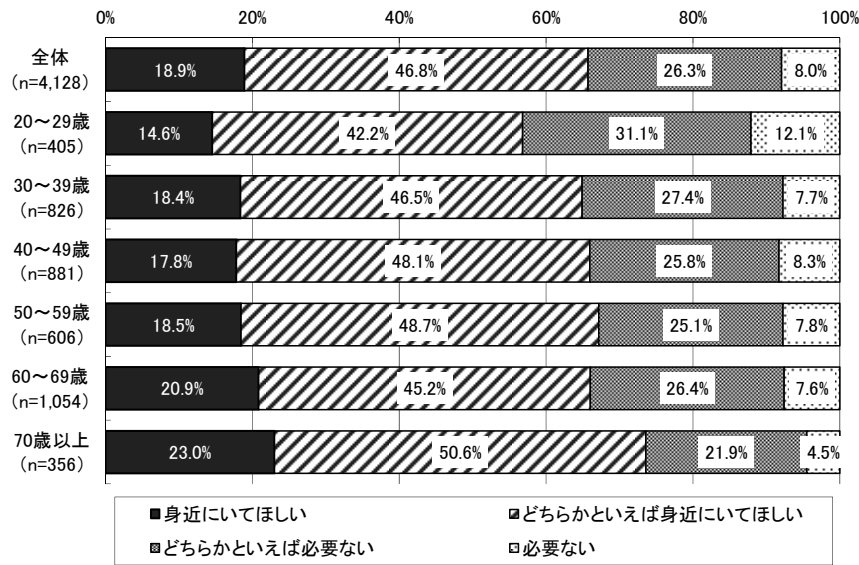
男女別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」の合計割合は、男性では 65.8%、女性では 65.6%と、大きな差異はみられなかった。

図表 202 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医 (男女別)

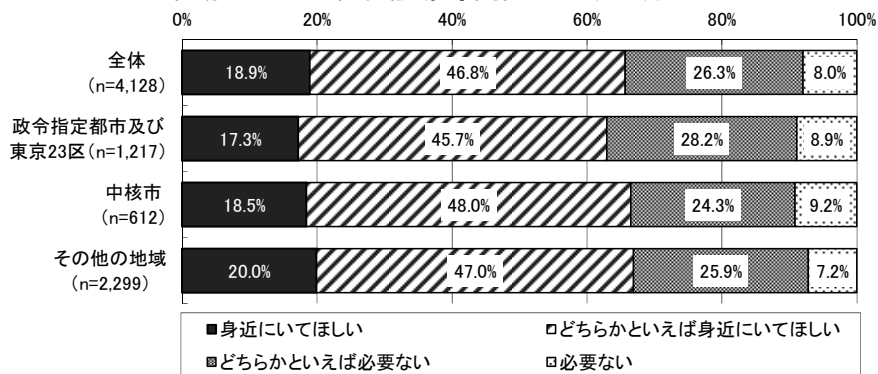


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「身近にいてほしい」の割合が高くなる傾向がみられた。70歳以上では、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」の合計割合が 73.6%で「全体」や他の年齢階級と比較して高かった。

図表 203 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医（年齢階級別）

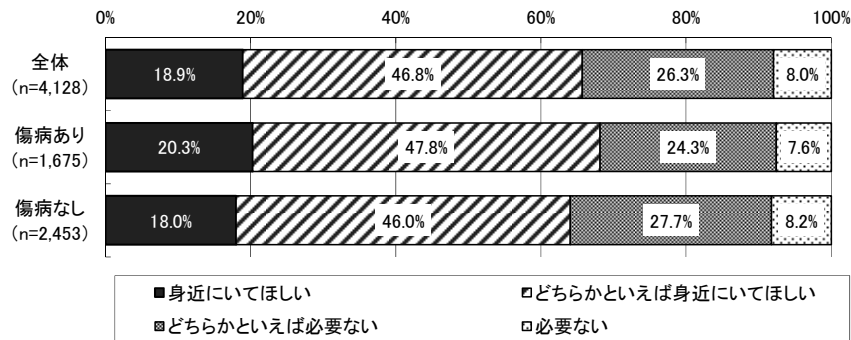


図表 204 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医（地域区分別）



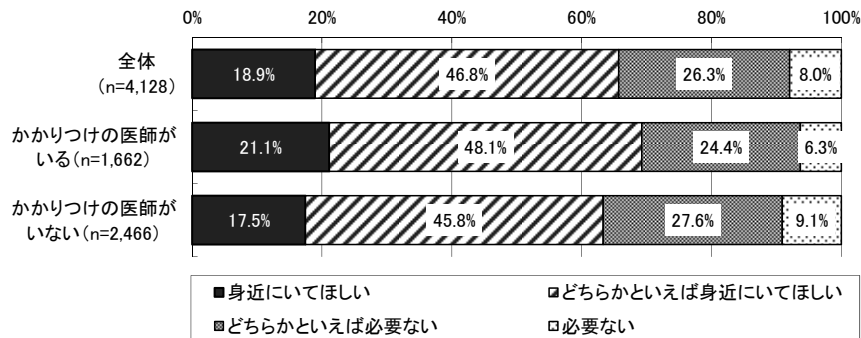
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は傷病ありの人では 68.1%、傷病なしの人では 64.0%であった。

図表 205 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）

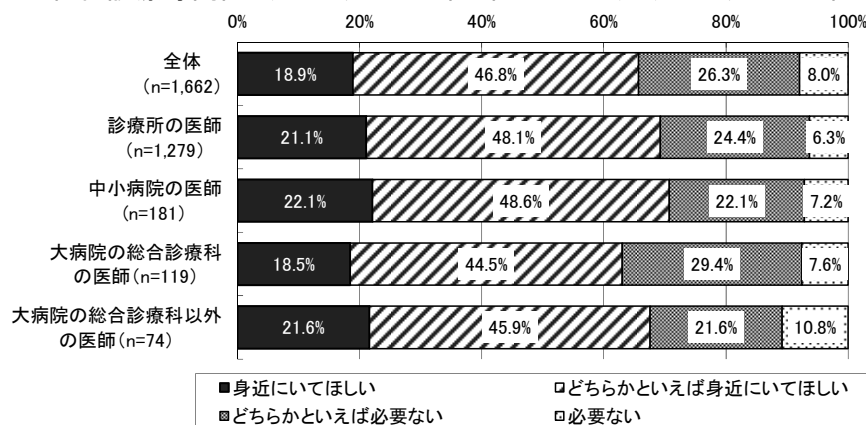


かかりつけの医師の有無別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は、かかりつけの医師がいる人では69.2%、いない人では63.3%であった。

図表 206 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医（かかりつけの医師の有無別）

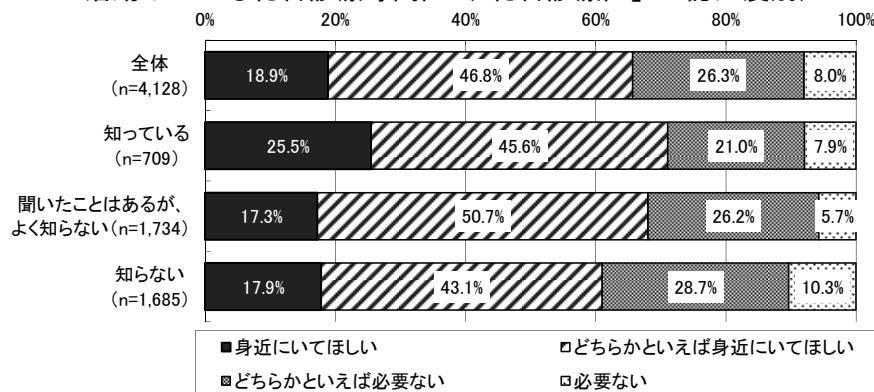


図表 207 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が25.5%で、「全体」や他と比較して高かった。

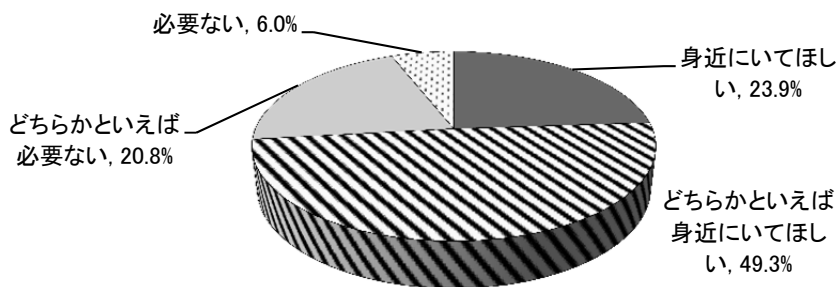
図表 208 町内会での健康講話や行政へのアドバイスなど、広く地域住民のために活動している総合診療専門医（「総合診療医」の認知度別）



⑧治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医

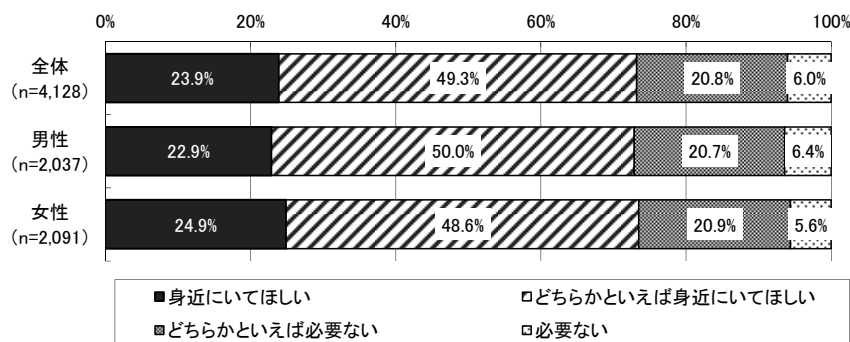
「治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医」について尋ねたところ、「身近にいてほしい」が23.9%、「どちらかといえば身近にいてほしい」が49.3%で、両者を合わせると73.2%であった。一方、「どちらかといえば必要ない」が20.8%、「必要ない」が6.0%で、両者を合わせると26.8%であった。

図表 209 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医 (n=4,128)



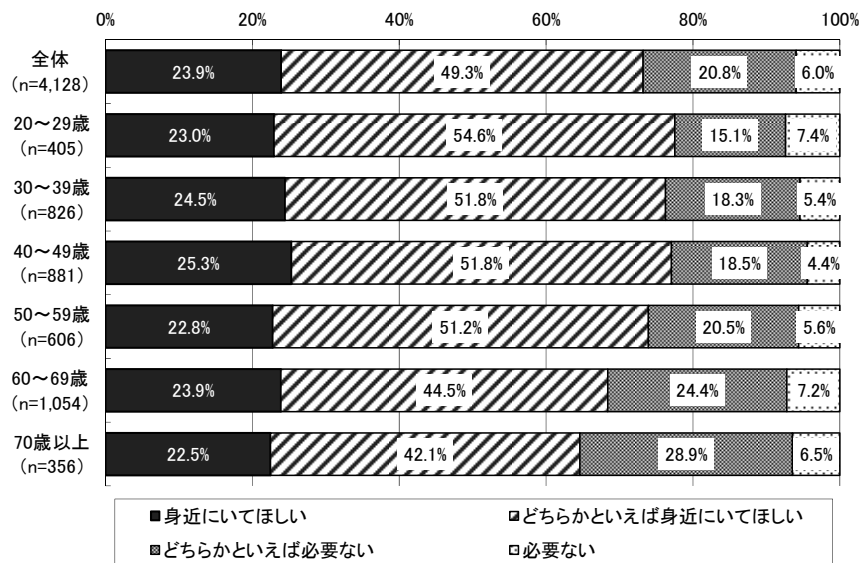
男女別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」の合計割合は、男性では72.9%、女性では73.5%と、大きな差異はみられなかった。

図表 210 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医 (男女別)

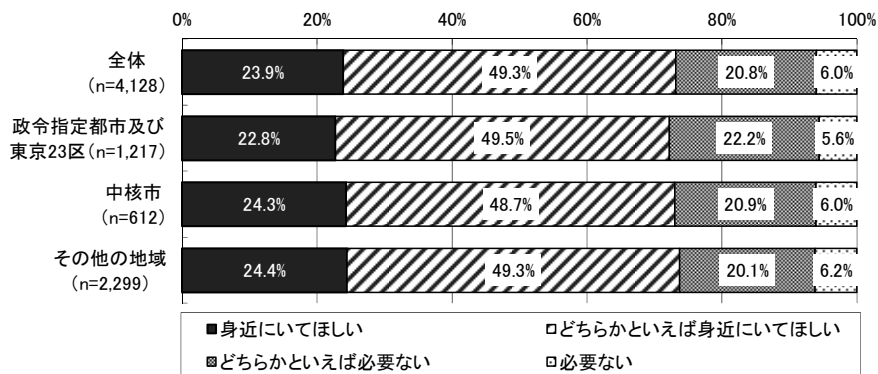


年齢階級別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」の合計割合は、50歳未満の各年齢階級では8割近くとなった。50歳以上の各年齢階級ではこの割合が低くなる傾向がみられた。

図表 211 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医
(年齢階級別)

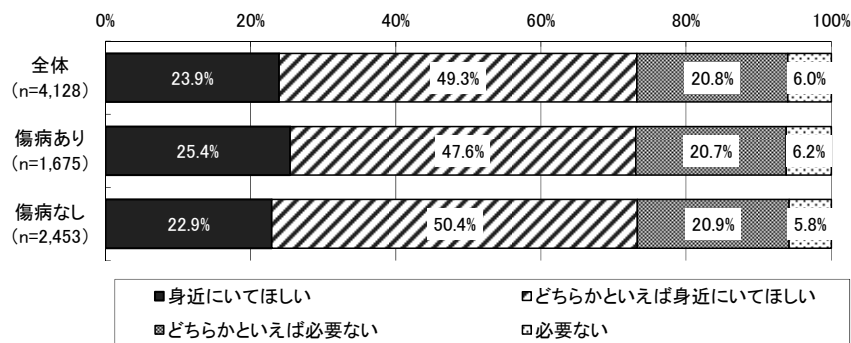


図表 212 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医
(地域区分別)



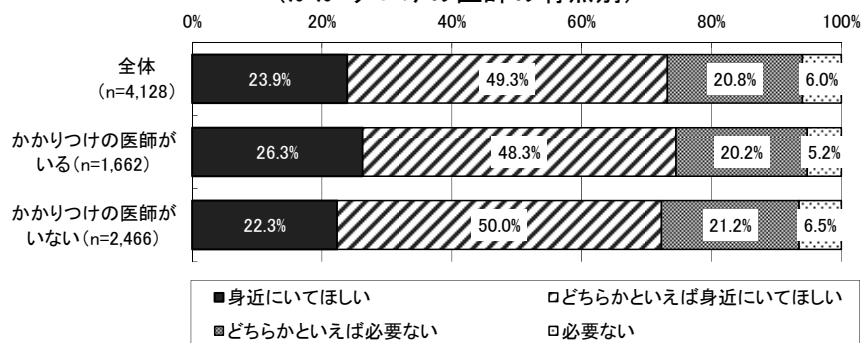
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は傷病ありの人では 73.0%、傷病なしの人では 73.3%で、大きな差異はみられなかった。

図表 213 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）



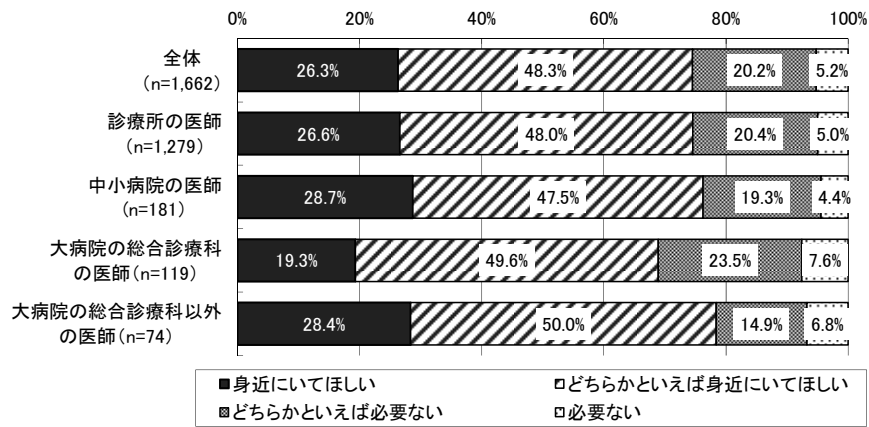
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「身近にいてほしい」の割合が 4.0 ポイント高かった。「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は、かかりつけの医師がいる人では 74.6%、いない人では 72.3%であった。

図表 214 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医（かかりつけの医師の有無別）



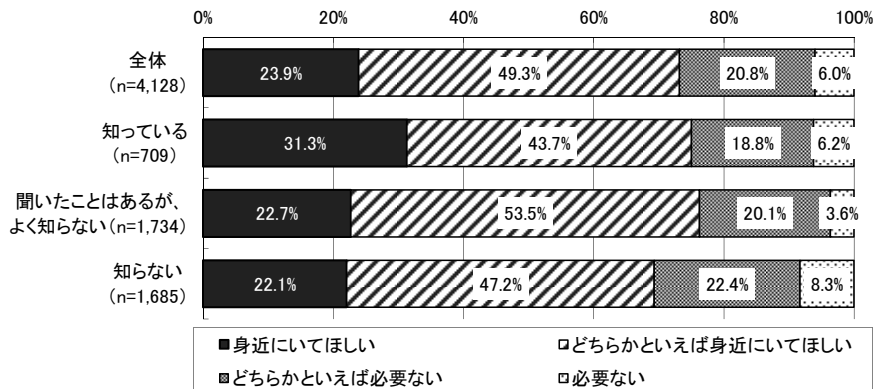
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、「身近にいてほしい」と「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合は、大病院の総合診療科以外の医師（をかかりつけの医師としている人）で 78.4%となっており、「全体」や他と比較してやや高かった。一方、大病院の総合診療科の医師ではこの割合が 68.9%となっており、「全体」や他と比較して低かった。

図表 215 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「身近にいてほしい」の割合が31.3%で、「全体」や他と比較して高かった。

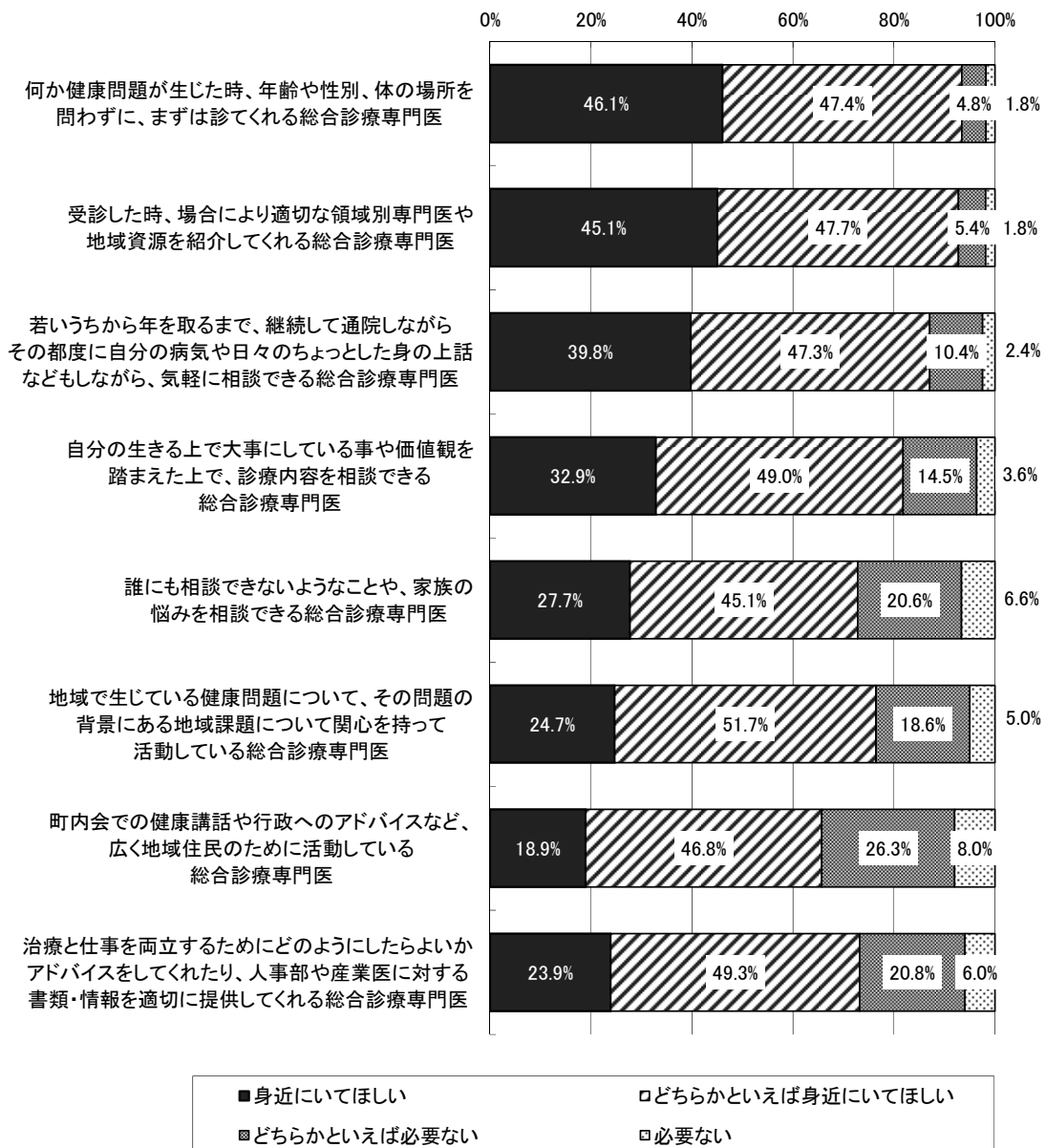
図表 216 治療と仕事を両立するためにどのようにしたらよいかアドバイスをしてくれたり、人事部や産業医に対する書類・情報を適切に提供してくれる総合診療専門医（「総合診療医」の認知度別）



⑨総合診療専門医の必要性（まとめ）

どのような総合診療専門医の必要性が高いか、前述の①～⑧の概要をまとめた結果が次の図表である。「身近にいてほしい」の割合が最も高かったのは「何か健康問題が生じた時、年齢や性別、体の場所を問わずに、まずは診てくれる総合診療専門医」（46.1%）であり、次いで「受診した時、場合により適切な領域別専門医や地域資源を紹介してくれる総合診療専門医」（45.1%）であった。これらについては「どちらかといえば身近にいてほしい」を合わせた割合が9割を超えている。

図表 217 総合診療専門医の必要性（まとめ、n=4,128）

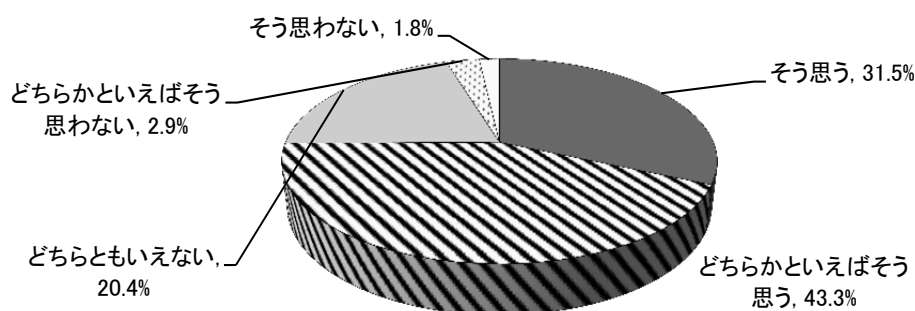


(2) 総合診療専門医に期待すること等

①総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか

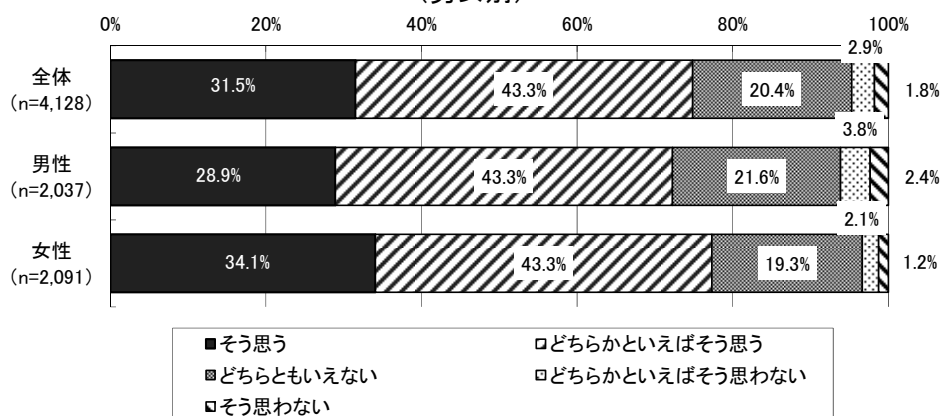
「総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか」を尋ねたところ、「そう思う」が31.5%、「どちらかといえばそう思う」が43.3%で両者を合わせた割合は74.8%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が2.9%、「そう思わない」が1.8%で両者を合わせた割合は4.7%であった。また、「どちらともいえない」が20.4%であった。

図表 218 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか (n=4, 128)



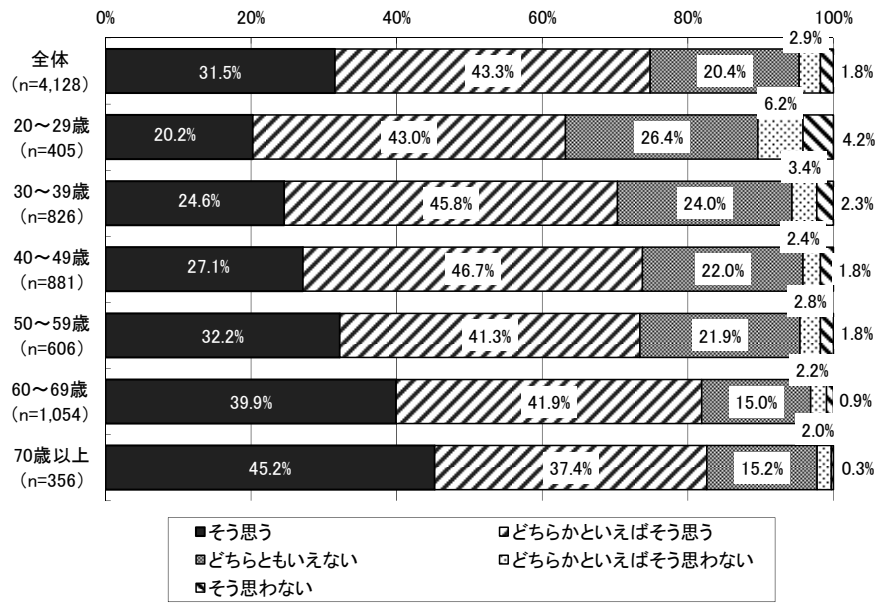
男女別にみると、男性より女性の方が「そう思う」の割合が5.2ポイント高かった。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、男性では72.2%、女性では77.4%であった。

図表 219 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか (男女別)

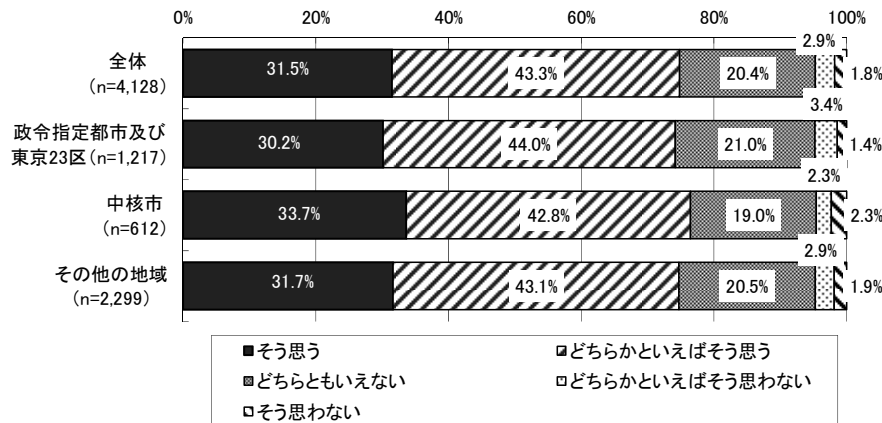


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「そう思う」の割合が高くなる傾向がみられた。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合でみると、20～29歳では63.2%であるが、70歳以上では82.6%であった。

図表 220 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか（年齢階級別）

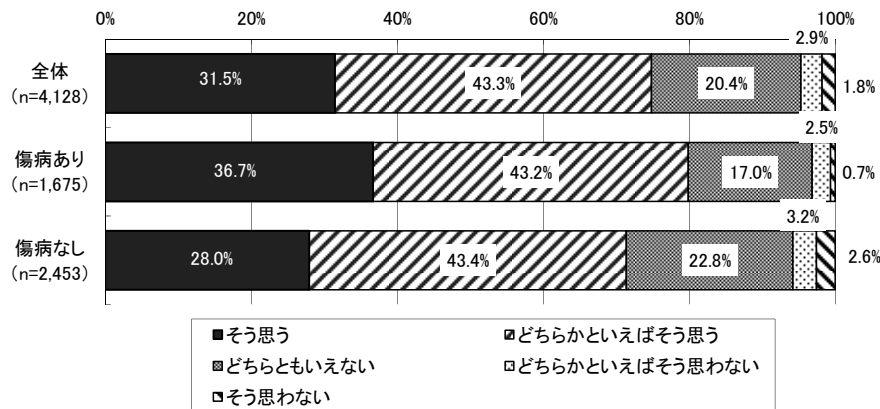


図表 221 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか（地域区分別）



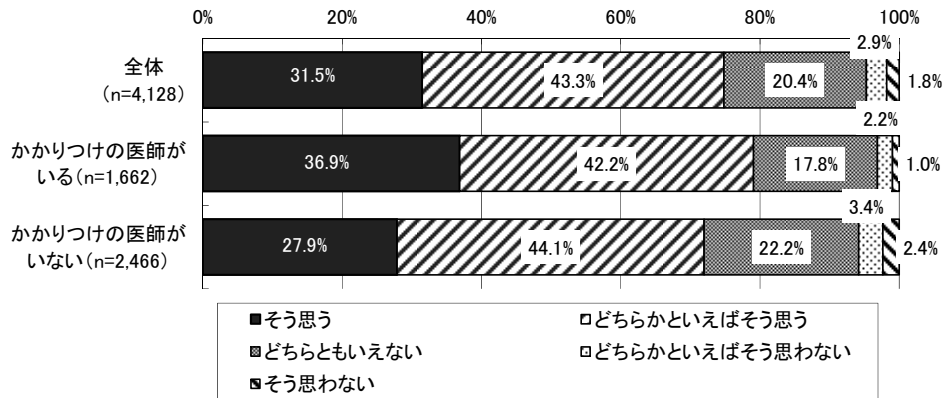
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病ありの人では傷病なしの人と比較して「そう思う」の割合が8.7ポイント高かった。

図表 222 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）



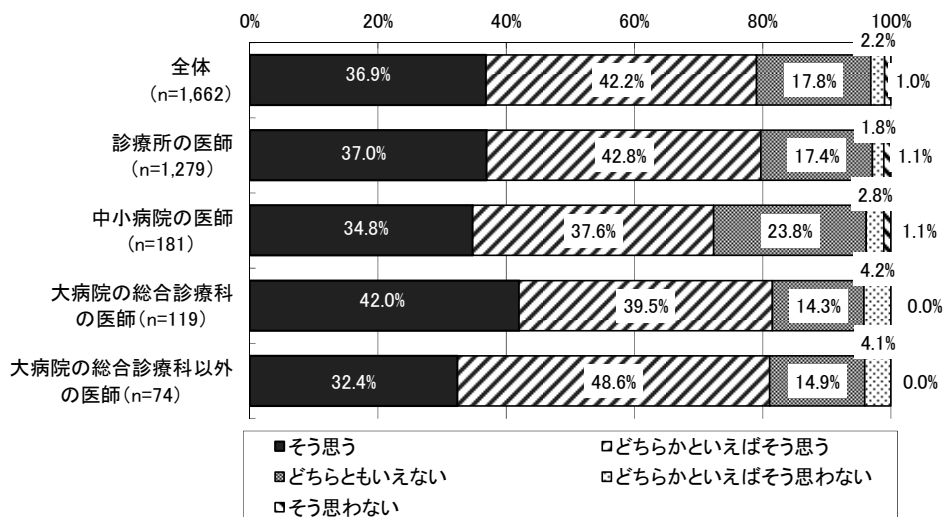
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「そう思う」の割合が9.0ポイント高かった。

図表 223 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか
(かかりつけの医師の有無別)



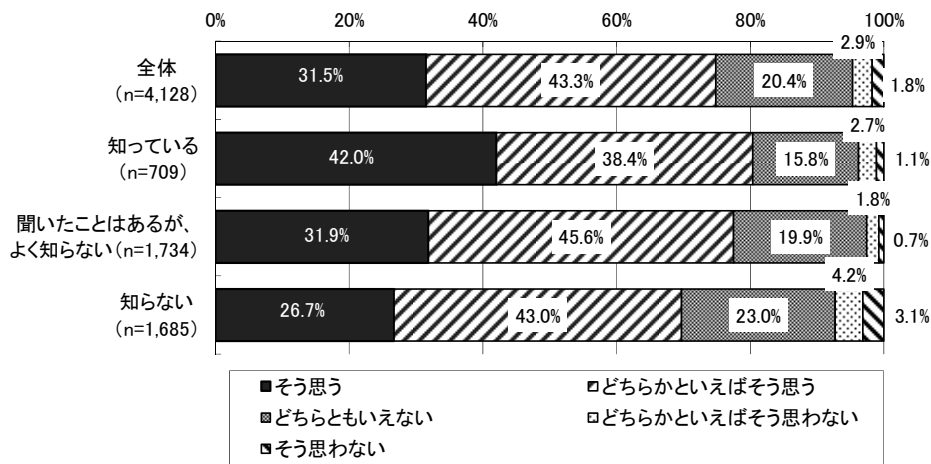
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、「そう思う」の割合が最も高かったのは大病院の総合診療科の医師（をかかりつけの医師としている人）であった。

図表 224 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか
(かかりつけの医師がいる人) (かかりつけの医師の所属別)



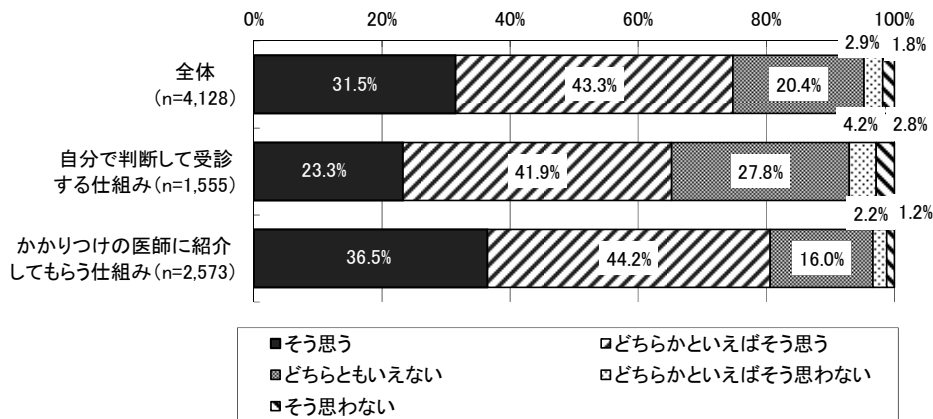
「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「そう思う」の割合が42.0%で最も高かった。

図表 225 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか
 (「総合診療医」の認知度別)



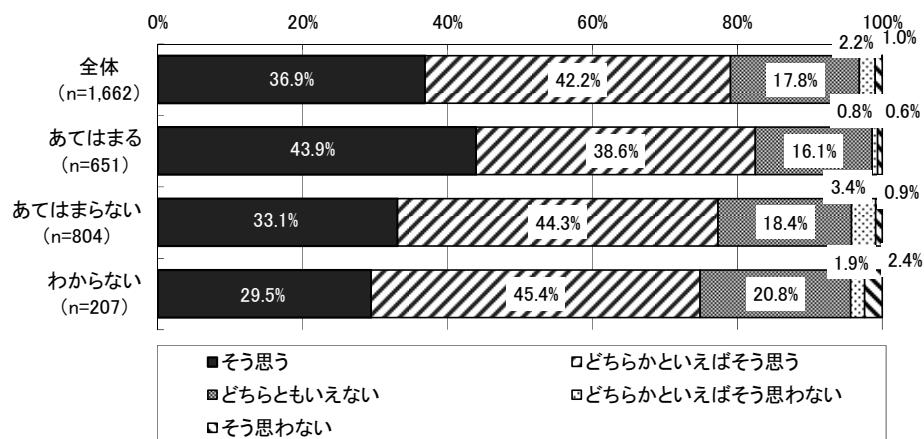
望ましい受診の仕組み別にみると、「かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み」が望ましいと考えている人では「自分で判断して受診する仕組み」が望ましいと考えている人と比較して「そう思う」の割合が 13.2 ポイント高かった。

図表 226 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか
 (望ましい受診の仕組み別)



かかりつけの医師がいる人について、現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別にみると、「あてはまる」と回答した人では「そう思う」が43.9%で「全体」や他と比較して特に高かった。

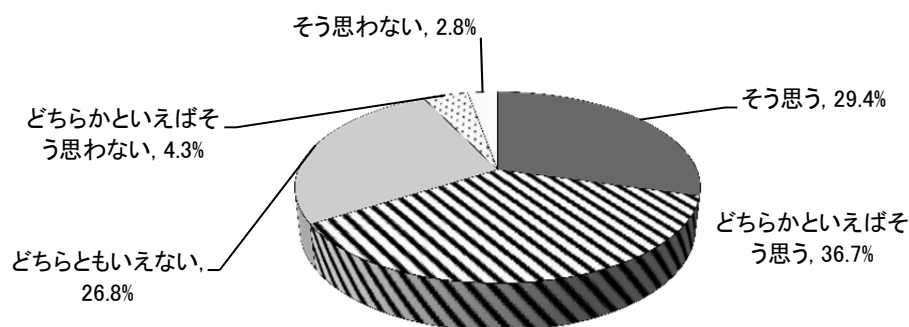
図表 227 総合診療専門医の資格を有する医師をかかりつけ医としたいか
(かかりつけの医師がいる人)
(現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別)



②総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか

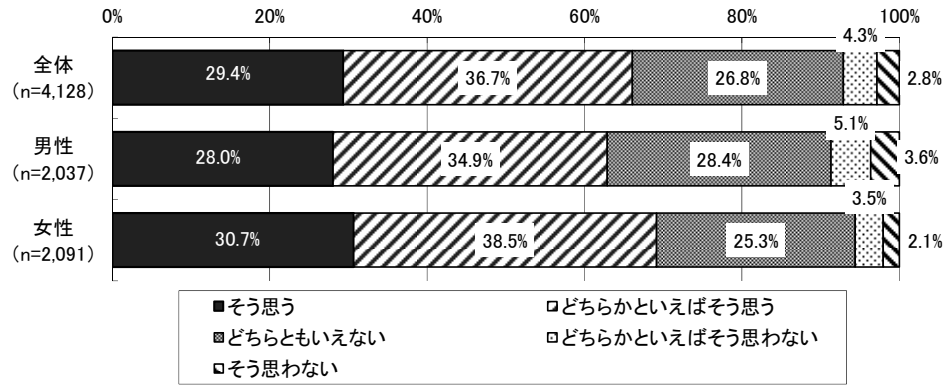
「総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか」を尋ねたところ、「そう思う」が29.4%、「どちらかといえばそう思う」が36.7%で、両者を合わせた割合は66.1%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が4.3%、「そう思わない」が2.8%で両者を合わせた割合は7.1%であった。また、「どちらともいえない」が26.8%であった。

図表 228 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば
我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか (n=4, 128)



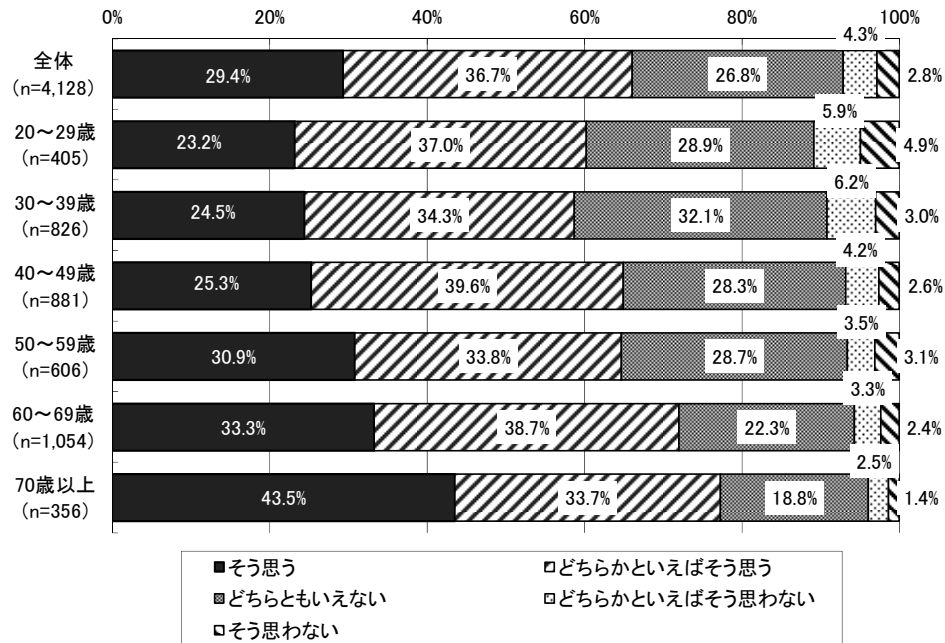
男女別にみると、男性より女性の方が「そう思う」の割合が 2.7 ポイント高かった。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、男性では 62.9%、女性では 69.2%であった。

図表 229 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（男女別）

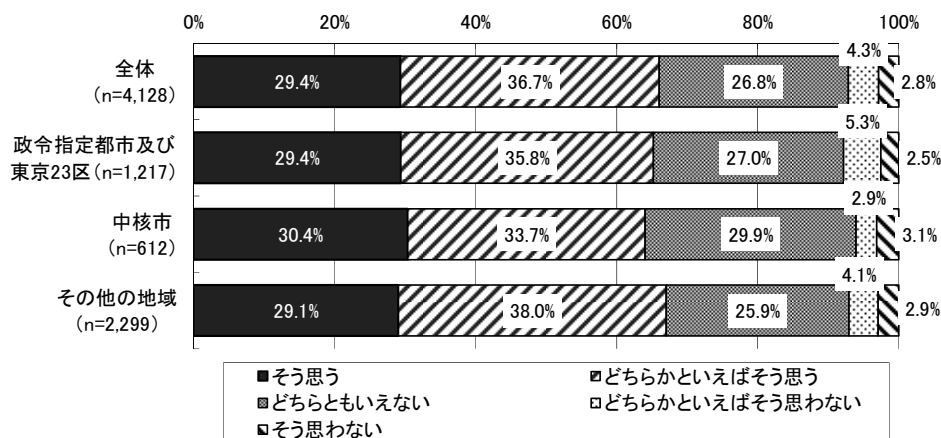


年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「そう思う」の割合が高くなる傾向がみられた。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も低いのは 30～39 歳で 58.8%であり、最も高いのは 70 歳以上で 77.2%であった。

図表 230 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（年齢階級別）

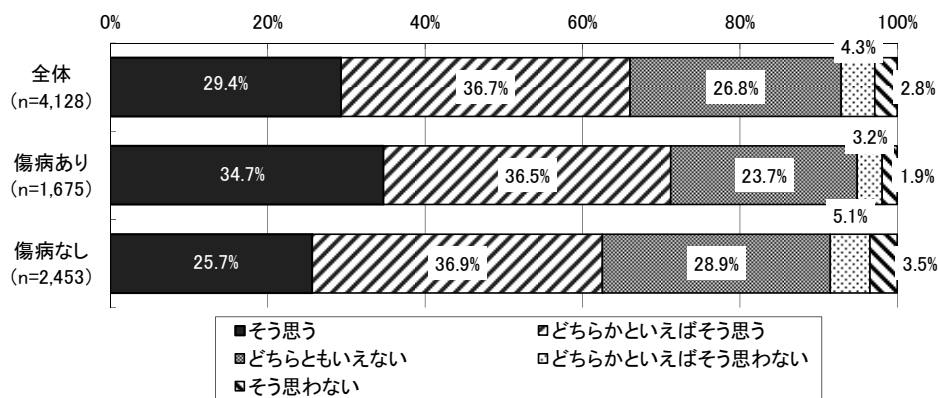


図表 231 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（地域区分別）



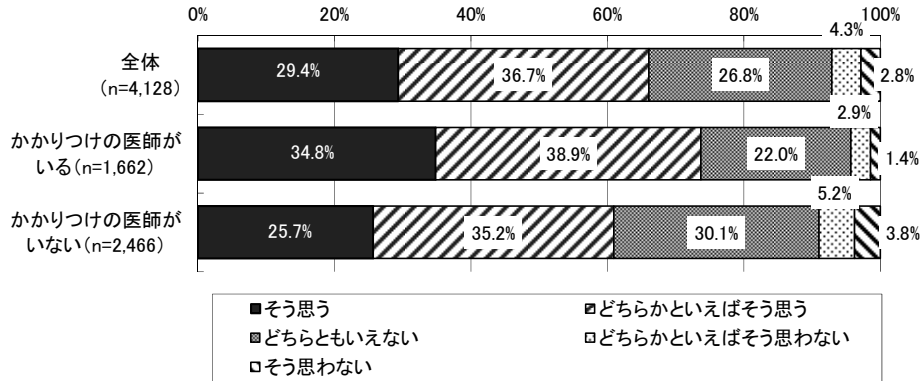
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病ありの人では傷病なしの人と比較して「そう思う」の割合が 9.0 ポイント高かった。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、傷病ありの人では 71.2%で、傷病なしの人では 62.6%であった。

図表 232 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）

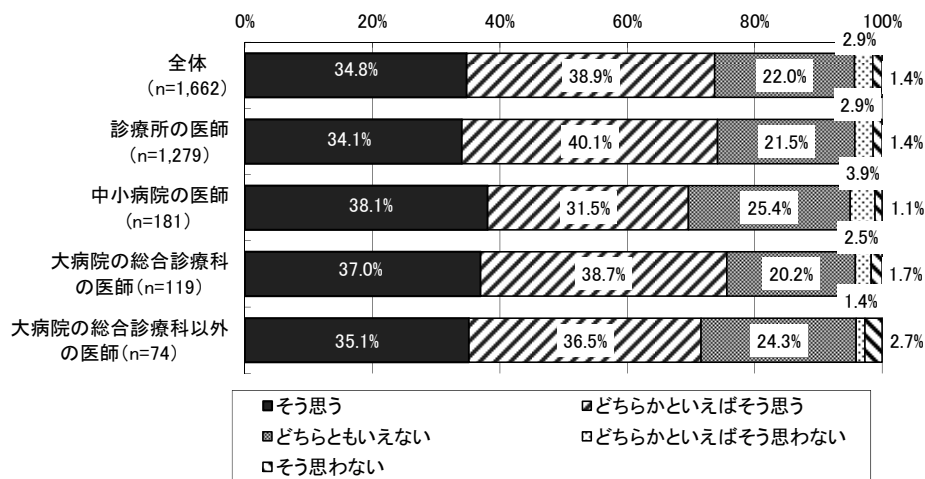


かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「そう思う」の割合が 9.1 ポイント高かった。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、かかりつけの医師がいる人では 73.7%、いない人では 60.9%であった。

図表 233 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（かかりつけの医師の有無別）

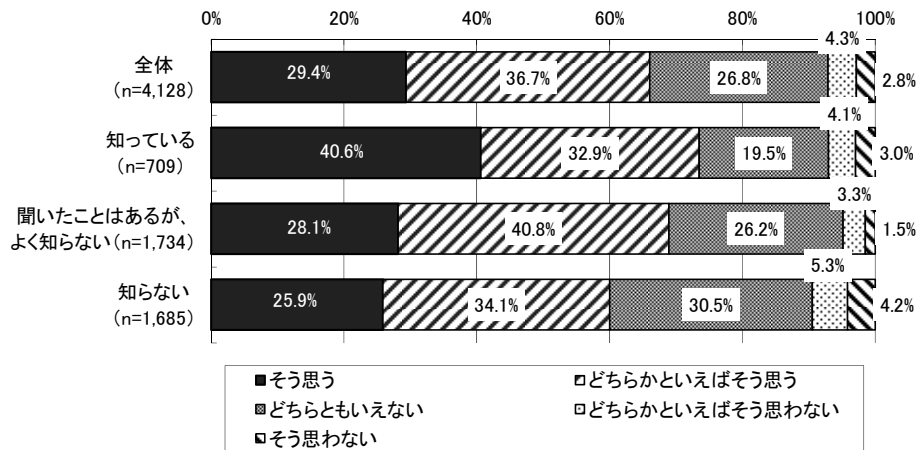


図表 234 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



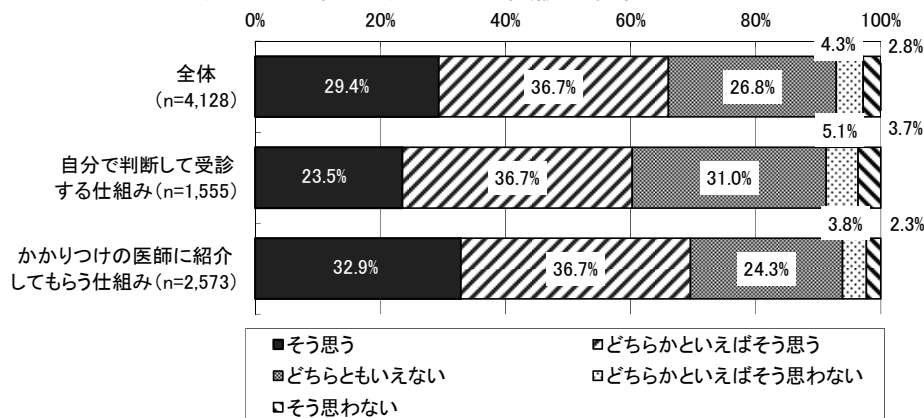
「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「そう思う」の割合が40.6%で「全体」や他と比較して高かった。「どちらかといえばそう思う」を合わせると73.5%となった。

図表 235 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（「総合診療医」の認知度別）



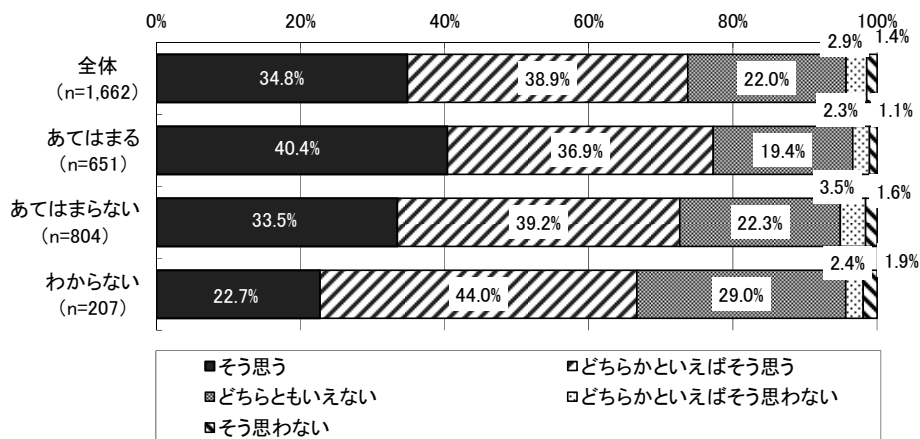
望ましい受診の仕組み別にみると、「かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み」が望ましいと考えている人では「自分で判断して受診する仕組み」が望ましいと考えている人と比較して「そう思う」の割合が9.4ポイント高かった。

図表 236 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（望ましい受診の仕組み別）



かかりつけの医師がいる人について、現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別にみると、「あてはまる」と回答した人では「そう思う」が40.4%で「全体」や他と比較して特に高かった。

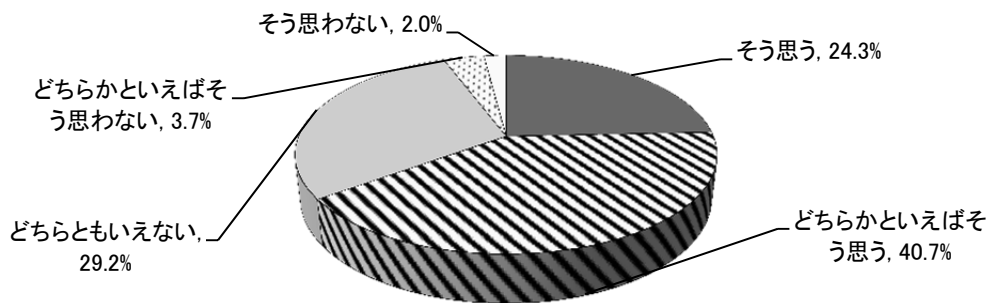
図表 237 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば我が国で無駄な検査や受診が減ると思うか（かかりつけの医師がいる人）
（現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別）



③総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか

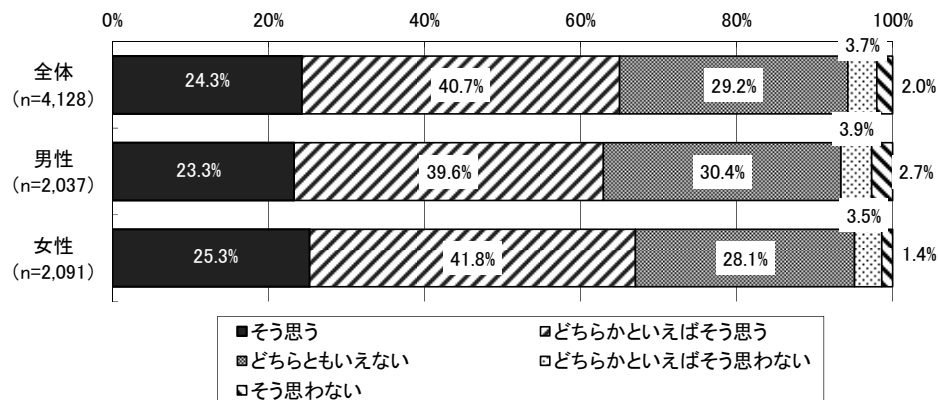
「総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、領域別専門医は自分の専門領域の診療や研究・スキルの習得に専念できるので、結果的に医療の質は上がると思うか」を尋ねたところ、「そう思う」が 24.3%、「どちらかといえばそう思う」が 40.7%で、両者を合わせると 65.0%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が 3.7%、「そう思わない」が 2.0%で、両者を合わせると 5.7%であった。また、「どちらともいえない」が 29.2%であった。

図表 238 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか (n=4,128)



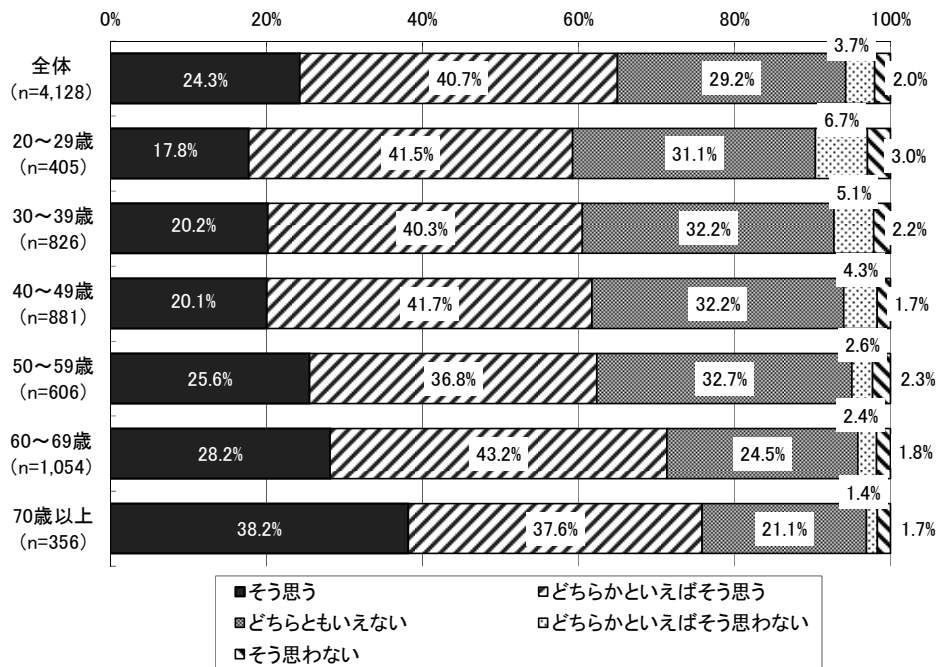
男女別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、男性では 62.9%、女性では 67.1%で、男性より女性の方が 4.2 ポイント高かった。

図表 239 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか (男女別)



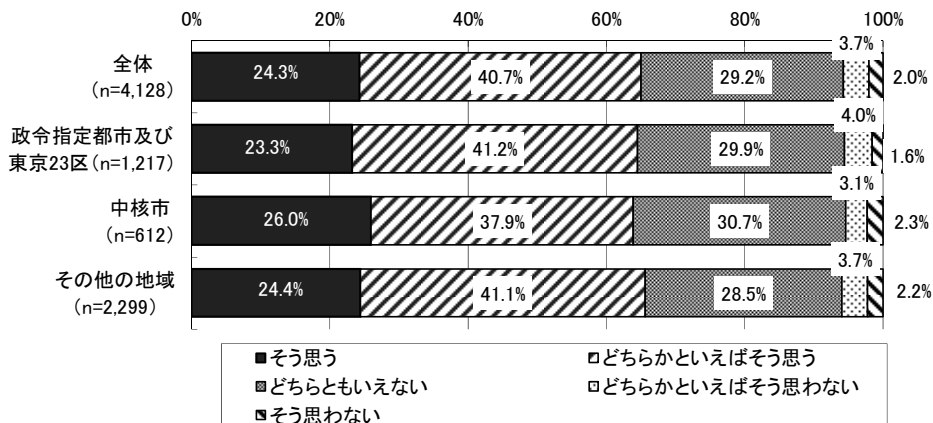
年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど「そう思う」の割合が高くなる傾向がみられた。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も低いのは20～29歳で59.3%であり、最も高いのは70歳以上で75.8%であった。

図表 240 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（年齢階級別）



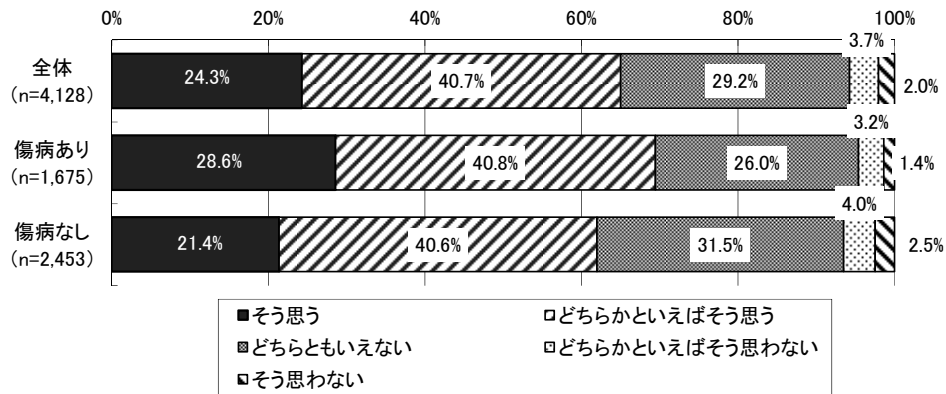
地域区分別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合について地域区分による大きな差異はみられなかった。

図表 241 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（地域区分別）



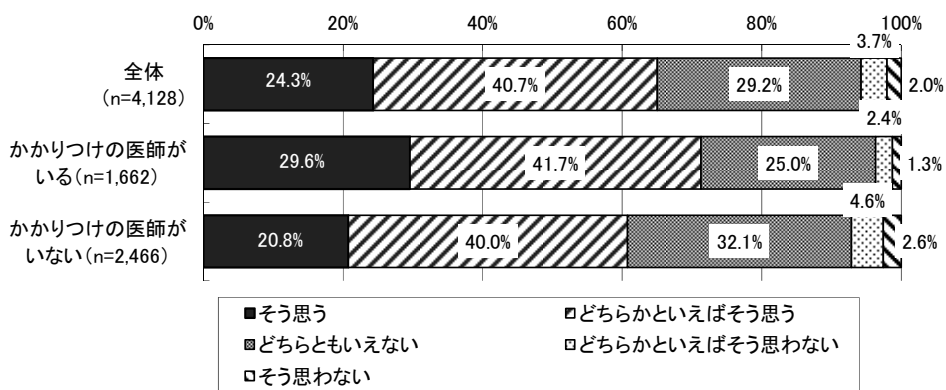
定期的に医療機関に受診している傷病の有無別にみると、傷病ありの人では傷病なしの人と比較して「そう思う」の割合が 7.2 ポイント高かった。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、傷病ありの人では 69.4%で、傷病なしの人では 62.0%であった。

図表 242 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（定期的に医療機関に受診している傷病の有無別）



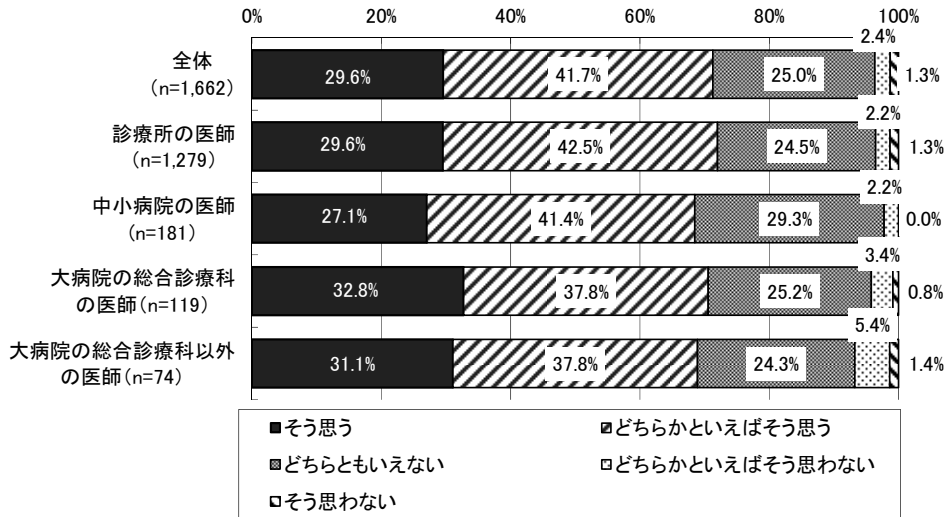
かかりつけの医師の有無別にみると、かかりつけの医師がいる人ではない人と比較して「そう思う」の割合が 8.8 ポイント高かった。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、かかりつけの医師がいる人では 71.3%、いない人では 60.8%であった。

図表 243 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（かかりつけの医師の有無別）



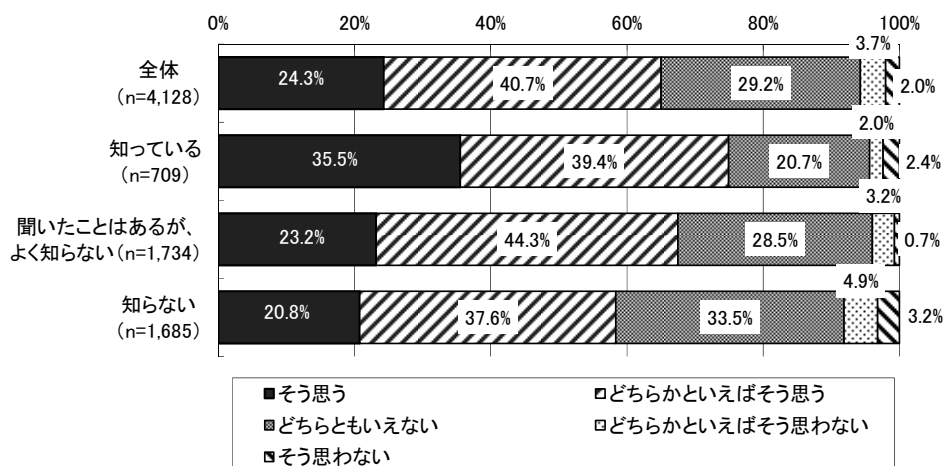
かかりつけの医師がいる人について、かかりつけの医師の所属別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合が7割を超えたのは、診療所の医師（をかかりつけの医師としている人）（72.1%）、大病院の総合診療科の医師（70.6%）であった。

図表 244 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（かかりつけの医師がいる人）（かかりつけの医師の所属別）



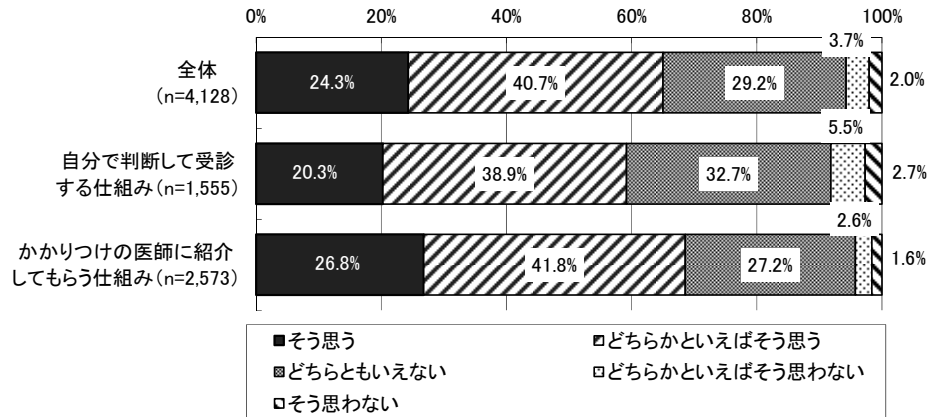
「総合診療医」の認知度別にみると、「総合診療医」を知っている人では「そう思う」の割合が35.5%で「全体」や他と比較して特に高かった。「どちらかといえばそう思う」を合わせると74.9%で、4人に3人が肯定的な回答であった。

図表 245 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（「総合診療医」の認知度別）



望ましい受診の仕組み別にみると、「かかりつけの医師に紹介してもらう仕組み」が望ましいと考えている人では「自分で判断して受診する仕組み」が望ましいと考えている人と比較して「そう思う」の割合が6.5ポイント高かった。

図表 246 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（望ましい受診の仕組み別）



かかりつけの医師がいる人について、現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別にみると、「あてはまる」と回答した人では「そう思う」が36.4%で「全体」や他と比較して特に高かった。

図表 247 総合診療専門医の資格を有する医師が増えれば、結果的に医療の質は上がると思うか（かかりつけの医師がいる人）
（現在のかかりつけの医師が「総合診療専門医」の定義にあてはまるか否か別）

